



ハ保險者ハ填補ノ責ニ任セス

ト明言セリ

危險ハ他動的ナルヲ要ス

第二 他動的ナルコト

吾人カ自ラ危險ノ發生ヲ促シ而モ保險ニ依リテ之カ救濟ヲ受ケントスルハ自家撞着ナリ又外固ノ危險ニ因ラスシテ被保險物ノ性質上發生スル所ノ危險ノ如キハ保險者ノ與リ知ラサル所ナリ我商法第三百九十六條ニ

保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

自動的危險

惡意又ハ重過失ニ

トアリ是レ損害保險一般ニ對スル規定ニシテ例ヘハ火藥カ其保存ノ缺點ヨリ自然ニ爆發スルカ如キ或ハ燐寸ノ荷造カ不完全ナリシ爲メ摩擦ヲ起シテ發火シタルカ如キ或ハ機械カ自然ト使用ニ因リテ廢物ニ歸シタルカ如キ或ハ酒類カ運送中自然ト動搖シテ變質スルカ如キ皆保險者ノ責ニ任セサル所ナリ又保險契約者若クハ被保險者カ惡意ヲ以テ損害ヲ發生セシムルトハ例ヘハ火災保

因果ル損

生命保險ノ自動的危險

險ニ付シタル家屋ヲ保險金ヲ得ンカ爲メニ燒キタルカ如キ其最甚シキ例ニシテ又重大ナル過失例ヘハ「ランブ」ノ下ニ危險ナル引火物ヲ置キ爲メニ大事ヲ惹起シタルカ如キハ其一例トモ見ルヲ得ヘシ是等ハ皆保險者ノ填補スルヲ要セサル所ナリ然レトモ實際問題トシテハ是等ニ付テ常ニ困難ナル爭議ノ發生スルコトヲ免レス例ヘハ被保險者タル主人カ幼年ナル使用人ニ「ランブ」ヲ取扱ハシメタルニ誤テ之ヲ取落シ之カ原因ト爲リテ火災ヲ惹起シタル場合ニ之ヲ被保險者ノ重過失ト看做スヤ或ハ然ラサルヤ等ハ現ニ我國ニ於テモ訴訟ト爲リタルコトアリ志田、栗津共編保險判例集前田瀧生命保險ニ對シテハ直接ニ此條文ヲ準用セサルモ此原則ノ表示トモ云フヘキ第四百三十一條ノ規定アリ曰ク

左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リ死亡シタルトキ
  - 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ
- 即チ自殺ノ如キハ全ク自動的ノ危險ナルヲ以テ之ヲ除外シ殊ニ保險金ヲ受

傷害保險  
ノ自動的  
危險

取ルヘキモノカ被保險者ヲ死ニ致シタル場合ノ如キハ最此原則ニ反スル所ナルヲ以テ保險者ヲシテ其責ニ任セシメサルナリ  
最近我國ニ創始セラレタル傷害保險ニ在リテハ左ノ約款ヲ以テ自動的危險ヲ排斥セリ

左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス  
被保險者ノ相續人カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ又ハ被保險者カ故意又ハ重大ナル過失違法反則暴舉泥醉爭鬪若クハ精神病ノ結果ニ因リテ災害ヲ招キタルトキ

第三 適法ナルコト

危險カ法律ニ違反シタル行爲ヨリ發生シタル場合ニモ保險者カ之ヲ負擔スルトキハ公安ヲ害スルノ恐アルカ故ニ不法ナル行爲ヨリシテ危險ヲ招キタルトキハ保險者ハ責ニ任セサルヲ當然ナリトス例ヘハ保險ニ付セラレタル船舶カ密輸出入ノ目的ヲ以テ航海シタル場合船舶カ航行ヲ禁セラレタル海上ニ遭難シタル場合等其例ニシテ生命保險ニ付テモ例ヘハ竊盜ノ目的ヲ以テ他人ノ

危險ハ適  
法ナルヲ  
要ス

不適法ノ  
事例

自殺ニ對  
スル特別  
條款

住宅ニ侵入シ家人ノ爲メニ殺害セラレタルカ如キ場合或ハ決闘其他ノ犯罪ニ因リ死亡シタル場合ヲ法律ニ依リテ除外スルモ亦此意味ヨリ來レリト解スルコトヲ得自殺ニ付テハ之カ自動的危險ナリト看做サルルト同時ニ又不法ナル危險トモ云フヲ得ヘシ然ルニ近來主トシテ外國ノ生命保險會社ノ自殺者ニ對シテ保險金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ト契約スルコトアリ我國ニ於テモ之ニ做フモノナキニアラス勿論契約ヲ締結シテ直ニ自殺シタル者ニ對シテハ何等ノ支拂ヲ爲ササルモ例ヘハ滿三箇年ヲ經過シ或ハ滿五箇年ヲ經過シタル後ノ自殺ニ對シテハ保險金ノ支拂ヲ拒マサル旨ヲ約スルナリ是レ此ノ如ク數年ノ後ニ自殺スル者ハ全ク他ニ止ヲ得サルノ原因アリテ爲スモノニシテ決シテ保險契約ニ對スル惡意ヲ以テ遂行スルモノニアラス故ニ之ニ對シテ支拂ハサルハ殘酷ナリトノ見解ヨリ出テタルナルヘシト雖トモ國情ニ因リテハ大ニ慎重ニ考慮セサルヘカラス之カ爲メ自殺者ヲ増加シ公益ヲ害スルニ至ラハ國家ノ損失スル所少カラサルナリ

### 第二款 危險ノ種類

危險ノ保  
險可能  
性ニ依  
ル六原  
則

危險ノ要件ハ前款ニ述ヘタル所ノ如シ而シテ此要件ヲ具備シタルモノハ理論上保險セラルヘキモノナリト雖トモ經濟上左ノ六個ノ原則ニ支配セラレテ實際保險契約ノ成立ヲ困難ナラシム

至大ナル  
危險

#### 一 至大ナル危險ハ保險シ難シ

例ヘハ洪水地震ノ損害ノ如キハ通常巨大ナル額ニ達シ殆ント世界的ノ團結ヲ得サレハ之ヲ填補スルコト能ハサルカ故ニ未タ一般ニ之カ保險ヲ爲スヲ得ス勿論國情ニ因リテ實行セラレサルニ非ス例ヘハ佛國ニ洪水保險(Assurancefin-viales)アルカ如シ

過小ナル  
危險

#### 二 過小ナル危險ハ保險シ難シ

何トナレハ損害ノ小額ニシテ吾人一人ヲ以テ負擔スルモ敢テ大ナル苦痛ヲ感セサルカ如キ危險ニ付テハ多數ノ人カ集リテ救濟ノ策ヲ講スルノ必要モナク又保險契約ノ如キ繁雜ナル手續ヲ爲スノ效モナシ外國ニ於テ保險ヲ好ム結

屢發生セ  
サル危險

#### 四 屢發生セサル危險ハ保險シ難シ

例ヘハ人ノ死亡、負傷ノ如キハ常ニ社會ニ於テ發生シ吾人ノ間斷ナク之ヲ恐ルルモノナルカ故ニ最善ク保險ノ成立ヲ見ルモ例ヘハ火山破裂ノ保險ノ如キハ其一度發生シタル所ニハ人心兢々トシテ之ヲ唱フル人アルヘシト雖トモ長ク發生セサル間ニハ其必要ヲ忘レ去リテ又怖ルル者ナキニ至ルカ如シ

統計シ難  
キ危險

#### 五 統計シ難キ危險ハ保險シ難シ

即チ吾人カ統計ノ力ニ依リテ危險發生數ノ概略ナル豫想ヲ爲シ能ハサルカ如キ危險ニ對シテハ相互的組合ノ如キ場合ハイサ知ラス保險契約トシテ保險

果傘、杖、鍵等ニ對シテマテ保險ヲ行フコトアリト雖トモ其販賣商カ其本業ニ附隨シテ景物的ニ斯ノ如キコトヲ行フノ外之カ爲メニ特ニ一ノ保險團體ヲ構成スルヲ見ス

#### 三 多數ノ人カ一般ニ感スル所ノ危險ニアラサレハ保險シ難シ

例ヘハ都會ニ於テハ何人モ皆火災ヲ恐ルルカ故ニ其保護ヲ希望スルモ人家稀ニシテ散在セル地方ニ於テ之ヲ見ルコト能ハサルカ如シ

料ノ授受ヲ行ヒ之ニ依リテ保險者カ全責任ヲ負フカ如キ保險ハ特ニ成立ヲ見ルコト難シ例ヘハ我國ニ於テモ盜難保險ト云フカ如キ保險ハ夙ニ其必要ヲ覺リナカラ未タ其成立ヲ見サルカ如シ然レトモ學問知識ノ進歩ト共ニ漸々此點ニ於テ實行ノ範圍ヲ擴張スルハ又當然ナリ

六 監督ノ困難ナル危險ハ保險シ難シ

即チ人意的危險ノ發生スル機會多クシテ之カ監視ノ至難ナルモノハ保險契約ノ基礎ニ動搖ヲ與フルモノニシテ其成立ヲ容易ナラサラシムルモノナリ例ヘハ家畜保險ノ如キ保險セラルル所ノ家畜ノ換玉頗ル容易ニシテ保險者カ其異同ヲ判別スルコト難ク或ハ故意ニ之ヲ死ニ致シテ而モ其形跡ヲ發見スルノ困難ナルカ如キ事情ノ爲メニ我國ニ於テモ其發起セラルルコト一再ナラサルモ未タ之カ成立ヲ見ルルカ如シ

以上六個ノ原則ニ拘束セラルルカ故ニ危險ノ種類ハ多シト雖トモ之ニ基ク所ノ保險契約ハ甚タ多カラズ殊ニ我國ノ如キ此事業ノ進歩セサル社會ニ在リテハ僅ニ數種類ヲ見ルノミ我商法ニ於テハ危險ノ種類ニ付キ海上保險、火災保險、運送

監督ノ困難ナル危險

我國ニ行ハレル保險種類

新舊商法ト危險ノ範圍

火災保險ノ危險

保險並ニ生命保險ヲ見ルノミ然レトモ實際ニ於テハ稍擴張セラレ此外徵兵保險、信用保險、汽罐機關保險ノ實行ヲ見又最近傷害保險ノ創始ニ接シタリ

舊商法ニハ第六百二十六條ニ「保險スルコトヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災、地震、暴風雨、其他ノ天災、陸海運送ノ危險、死亡及ヒ身體上ノ災害ナリ然レトモ其他ノ危險ニ對スル保險ハ之カ爲メニ妨ケラルルコトナシト規定シ概括法ニ加フルニ說明的列舉法ヲ以テセルモ現行商法ハ此ノ如キ複雜ナル規定ヲ避ケ先ツ損害保險ニ對シテハ第三百八十四條ニ於テ「偶然ナル一定ノ事故」ナル文詞ヲ用ヒ生命保險ニ對シテハ第四百二十七條ニ於テ「生死」ヲ以テ危險ナリトシタルカ如シ然レトモ各個ノ保險契約ノ締結ニ際シテ當事者間ニ於テ偶然ナル事故ノ種類ヲ協定スルコトハ煩雜ナルト同時ニ遺漏アルヲ免レサルヲ以テ或種ノ保險契約ニ對シテハ法律上並ニ慣習上一定範圍ノ危險カ包括セラルルモノト假定スルヲ通常トス

我商法ニ於テ火災保險ノ危險ハ如何ニ觀察セラルルヤト云フニ即チ第四百十九條ニ「火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル責ニ任スト」規定シ例ヘハ自火ナルト類焼ナルト放火ナルト電氣、瓦斯等ヨリ

來レルト、落雷、地震ヨリ來レルトヲ問ハス總テ之ヨリ生シタル火災ヲ包含スルモノトセラレタリ然レトモ實際ニ於テハ保險者ハ多クノ除外例ヲ設ケ例ハ我國ニ於テハ地震又ハ噴火ノ爲メニ生シタル火災、汽罐等ノ破裂又ハ火藥ノ爆發ノ爲メニ生シタル火災、戰爭、暴動其他ノ事變ノ爲メニ生シタル火災ノ際ニ起リタル保險物ノ紛失、盜取等ニ對シテハ保險セスト規定セリ是等ノ危險ハ前ニ述ヘタル六個ノ原因ニ準據シテ考フルトキハ或ハ損害大ニ過キ又ハ監視ノ困難ナル爲メ保險者カ之ヲ除外スルモノタルヲ知ルヲ得ヘシ

運送保險ノ危險

運送保險ニ付テハ商法ニ於テ別段ノ規定ナシト雖トモ物品運送中ノ凡テノ危險ヲ包括スルモノニシテ河川、湖沼又ハ陸上ノ交通機關ニ依リテ運送中若クハ一時倉庫内ニ貯蓄セラレル間ニ發生スル火災、強盜、顛覆、衝突其他一切ノ不可抗力ヲ謂フモノトス而シテ戰爭、暴動、一揆、地震、噴火、竊盜、鼠害、蟲害、鉤傷、雨滯等ノ危險ハ或ハ大ニ過キ或ハ小ニ過キ或ハ竊盜ノ如キ監視頗ル困難ニシテ殆ント常例ト爲ルカ如キモノナルヲ以テ特約アルニアラサレハ之ヲ負擔セサルコトトセリ

海上保險ノ危險

海上保險ニ於テハ其危險頗ル複雑ニシテ之ヲ類別スルトキハ左ノ三種ト爲ス

コトヲ得ヘシ

一 天然又ハ自然力ノ危險

即チ暴風雨、坐礁、淺瀬、流水衝突ノ爲メニ沈沒、膠沙破船等ノ災ヲ蒙リ又ハ汽罐ノ破裂、機關ノ損傷、火災等ノ爲メニ損害ヲ蒙ル場合ヲ指スモノナリ

二 船舶上ニ於ケル人爲ノ危險

其主ナルモノハ投荷ニシテ航海中暴風雨ニ會シ將ニ沈沒ノ難ニ及ハントスルニ際シ全船ヲ救護センカ爲メニ船長カ積荷ノ一部ヲ海中ニ投棄スルコトアリ定ニ止ムヲ得サルノ處分ナルヲ以テ是亦保險者ノ引受クル所ノ危險ナリ任意ノ坐礁ノ如キモ亦然リ

三 船舶外ニ於ケル人意ノ危險

即チ海賊ノ襲撃、劫掠、敵國船ノ砲撃、捕獲其他強留、封港等ノ不時ノ處分ニ因リテ生スル危害モ亦海上危險ナリ

以上三種ノ危險ハ船舶積荷ニ對シテ直接ニ損害ヲ與フルコト勿論ナレトモ是等ノ危險ヲ避クル爲メニ必要上取リタル行動ニ因リテ間接ニ損害ヲ惹起スルコト

生命保險ノ危險

ナキニ非ス例へハ航海航路又ハ船舶ノ止ムヲ得サルニ出テタル變更又ハ止ムヲ得サル避難入港ノ如キ是亦海上保險ノ危險ナリ然レトモ是等ノ危險ノ内ニハ其情況ニ因リ保險ヲ引受タル能ハサルモノ少カラス主トシテ戰爭海賊等ニ關スル危險船長船員ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル危險等ハ之ヲ除外スルコトセリ

〔生命保險ニ於テ生死ト云フハ被保險者ノ一定年齢マテ又ハ一定期間ノ生存ト其死亡ヲ指スモノニシテ出生並ニ生存中ノ身體上ノ事故例へハ疾病負傷ノ如キモノヲ包含セサルモノタルハ已ニ前ニ述ヘタル如クナリ而シテ人ノ死亡カ危險事項ナルコトハ何人モ爭ハサル所ナルモ生存ニ危險ナル觀念カ附隨セルヤハ時トシテ疑フモノ無キニ非ス然レトモ事故カ危險ナルヤ否ヤヲ別ツノ標準ハ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムルト否トニ非スシテ其發生ノ結果カ吾人ニ損害ヲ齎ラシ又ハ費用ヲ要セシムルト否トニ存セリ例へハ徵兵保險ノ場合ノ如ク兵役ニ徵集セラルルコトハ恐怖スヘキモノタラサルノミナラス一身ノ名譽トシテ悦ブ者ナキニ非ス而モ猶之カ危險タルハ何ソヤ生計上ノ損害又ハ服役中ノ費用ヲ要スルコトヲ想像シ得ラルレハナリ生存モ亦之ト同シク一方ニ於テ人類ノ幸福ナル

危險ト否トヲ別ツ標準

危險ト損害

モ一方ニハ生活上百般ノ費用ヲ要スルモノニシテ之ヲ償フノ用意ハ保險契約ニ依リテ遂行セラルルナリ

是ニ於テカ吾人ハ危險ト損害カ兩個ノ相離ルヘカラサル觀念タルヲ知ルヲ得ヘシ然ラハ危險ト被保險利益トハ亦相離ルヘカラサルモノニシテ被保險利益ノ損喪ヲ惹起スルモノヲコソ始メテ危險ト云フヲ得ヘキニ非スヤ然ルニ學者往々ニシテ保險契約ニハ一貫シテ被保險利益アルモノニ非ストシ而モ危險ハ凡テノ保險契約ニ共通シテ存在スルノ觀念ナリト説ク豈矛盾ト言ハサルヲ得ンヤ

危險ノ種類中法律ニ於テ特別ニ注意ヲ拂ハルル所ノモノハ戰爭ニシテ我商法第三百九十五條ニ左ノ規定アリ

戰爭危險

戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

是レ戰爭ノ危險ハ通常至大ニシテ例へハ火災保險ニ在リテモ一都市カ兵燹ノ禍ニ罹ルトキハ保險會社ハ或ハ破産ニ瀕セサルヘカラス海上保險ニ在リテモ敵國ノ襲撃捕獲等ハ通常保險者ノ克ク當ルヘキニ非ストセラレタレハナリ變亂ト

ハ主トシテ内亂ヲ指シ一揆暴動ノ如キ小事件ハ之ヲ包含セサルモノト解セサルヲ得ス而シテ本條ハ生命保險ニモ之ヲ準用セリ白耳義伊太利等ニモ之ト同一ノ規定アリト雖トモ特約ヲ以テ此危險ノ負擔ヲ約スルヲ妨ケサルナラハ寧ロ此ノ如キ規定ヲ設クルノ必要ナキニ非スヤ況ンヤ現今ニ在リテハ各種ノ保險カ皆適當ナル方法例ヘハ戰時割増保險料又ハ戰爭ニ因スル損害填補ニ際スル保險金ノ刪減ノ方法ヲ以テ成ルヘク戰爭危險ノ引受ヲ試ミント欲スルニ至レルニ於テヤ

### 第三款 危險ノ變更増加

保險者ハ保險契約ニ際シ特定セル危險ノ種類竝ニ範圍ニ對シテ填補ノ責ニ任スルモノナルカ故ニ契約ノ途中ニ於テ猶正確ニ云ヘハ保險期間ノ内ニ於テ危險ノ種類カ變更シ或ハ其範圍カ擴張セラレタルカ如キ場合ニ於テハ依然トシテ其責ニ任スヘキヤ否ヤハ茲ニ考察スルノ價值アリト云ハサルヘカラス

是ヲ危險ノ變更又ハ増加ノ場合ト稱シ我商法ニ於テハ之ヲ被保險者自身ノ招

危險變更  
増加ノ場合

キタル場合ト自然ニ發生シタル場合トニ區別シ二箇條ノ規定ヲ設ケタリ即チ第四百十條ニ

保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

ト規定シ又第四百十一條ニハ

保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

ト規定シタリ例ヘハ今或人カ其所有ノ家屋ヲ火災保險ニ付シタルニ從來普通住宅トシテ何等業務ヲ營マサリシニ途中ニ於テ多人數ノ集散スル例ヘハ料理店待介又ハ寄席ノ如キ業務ヲ開始シタリトセヨ是レ其人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ火災ノ危險カ變更増加シタル例ニシテ此場合ニハ保險契約ハ直ニ其效力ヲ失フモノトシ以テ保險者ノ損害ヲ免レシムルコトトセルナリ又自ら進ンテ異ナルタル業務ヲ營ミタル如キ場合ニ非スシテ例ヘハ近傍ニ湯屋又ハ鍛冶屋ノ如キ危險ナル職業ノ開始セラレタル場合ノ如キハ本人ノ責ニ歸スヘカラサル場合ニシ



危險ノ增加ニ關スル海  
上保險ノ特別規定

航海航路ノ變更

テ之ヲモ直ニ契約失效ノ原因トスルハ些カ苛酷ナルヲ以テ此場合ニ保險者ノ解除權ヲ認メタルナリ而シテ此後ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ變更増加ヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ保險者ニ通知セサルヘカラス若シ此通知ヲ忘リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得ルナリ然レトモ保險者此通知ヲ受ケナカラ其解除權ヲ行使セス又自ラ危險ノ變更増加ヲ知リナカラ解除權ノ行使ヲ爲ササルトキハ危險ノ變更増加ヲ默認シテ之ニ對シテ依然トシテ責ヲ負フヘキ意思アリト推定セラレ損害ノ發生ニ際シテ契約ノ效力ヲ爭フコトヲ得ストセラレルモノトス此事ハ上記第四百十一條ノ第二項第三項ニ明文アリ

以上ハ損害保險一般ニ對スル規定ナレトモ海上保險ニ於テハ其性質上直ニ此二箇條ヲ適用シ難キ事情アリ故ニ海上保險ニ對シテハ特別ナル規定アルヲ以テ茲ニ之ヲ略述セント欲ス

第一 海上保險ニ於テ危險ノ變更ト看做スヘキモノハ航海航路ノ變更ニシテ航海ノ變更トハ保險契約ヲ締結シタル後豫定ノ航海ヲ變更スル意義ニシテ航海

トハ例ヘハ橫濱ヨリ桑港ニ至ルノ間ヲ目的トシテ航行スル場合ニ橫濱ヲ出發港トシ桑港ヲ到達港トスルカ如キヲ云フ而シテ契約ノ當時ニ於テ此航海ニ付テ契約ヲ結ヒタル後之ヲ變更シテ橫濱ヨリシヤとるニ至ル間ト爲スカ如キ場合ハ即チ危險ノ情況ニ變化ヲ起スモノナルカ故ニ商法第四百十條ニ依レハ直ニ契約ノ效力ヲ失ハシムルモノナレトモ海上保險ニ付テハ第六百六十二條ニ於テ之ニ關スル特別ナル規定ヲ設ケ先ツ航海ノ變更カ保險者ノ責任ノ始マル前ニ於テセルヤ又ハ後ニ至リテセルヤヲ區別シ前ニ於テセル場合ニハ變更ノ原因カ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ルト否トヲ問ハス契約ハ其效力ヲ失フモノトシ之カ責任開始後ナラハ其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ場合ニ限リテ變更後ニ於ケル保險者ノ責任ヲ解除シ反對ノ場合即チ止ムヲ得サル航海ノ變更ハ之ヲ問ハサルコトトセリ此ノ如キ特別ノ規定ヲ設ケタル理由ハ海上保險ニ於テ一度發航シタル以上ハ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ變更増加ヲ遲滯ナク保險者ニ通知スルコトノ便宜ヲ缺クコト多カルヘク又海上ニ於テハ不可抗力又ハ第三者ノ不法行爲例ヘハ敵國ノ襲撃捕獲等ヲ

避ケンカ爲メニ航路ヲ變更スルコト少カラサルノミナラス往々反テ其必要ヲ認ムルコト多ケレハナリ故ニ商法第四百十一條ノ一例トシテ曩ニ掲ケタル火災保險ノ如キ場合ハ海上保險ニハ其例ナク本人ノ責ニ歸スヘカラサル航海ノ變更ハ皆已ムヲ得サルモノト看做ササルヘカラサルナリ

次ニ第六百六十三條ヲ以テ航路ノ變更竝ニ發航及ヒ航海繼續ノ遲滯其他危險ノ著シキ變更増加ニ付テハ保險者ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナキ旨ヲ規定セルモ其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラスト規定セルハ是亦海上保險ニ特殊ナル法則ニシテ抑航路トハ航海ヲ爲スニ付テ船舶ノ取ル所ノ針路ニシテ通常航海ノ一部分ナリトス例ヘハ横濱ヨリ桑港ニ至ルニ付テ一度布哇ニ寄港シ又布哇ヨリ桑港ニ向フ航路ニ付テ保險契約ヲ結ヒタルニ拘ハラズ横濱出發ノ後布哇ニ寄港スルコトヲ止メテ直接桑港ニ至ルノ航路ヲ取レリトスレハ明ニ危險ノ狀況ニ變化ヲ起スモノナルカ故ニ損害保險ノ原則ニ從ヘハ其場合ヲ二ニ分チ是レカ保險契約者又

ハ被保險者ノ任意ナル處置ニ出テタル場合ニハ直ニ契約ノ效力ヲ失ハシメ又全ク是等ノ人ノ意ニ非スシテ或ハ布哇ニ寄港スルコトハ反テ不利益ナルヤヲ思ヒテ爲シタルカ如キ場合ニハ或ハ之ヲ通知シテ保險者ノ承認ヲ求ムルコトヲセサルヘカラサルモ斯ル事態ハ海上保險ニ於テ應用スヘカラサルモノナルヲ以テ航路ノ變更ハ原因ノ如何ニ拘ハラズ其以後ニ於ケル保險者ノ責任ヲ免除スルコトトシ同時ニ例ヘハ布哇ニ動亂アリテ海上其通信ヲ得タルカ爲メ其危險ヲ避クルカ爲メ特ニ此處ニ寄港セサリシ如キ場合ニハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホササルコトトシタルナリ

船長ノ變更

第二 船長ノ變更ニ付テハ一言セサルヘカラス船長ノ良否ハ航海ノ安全ニ關シ

危險ノ狀況ニ影響スルカ故ニ我國ノ海上保險證券ニハ船長ノ變更ハ保險契約者ヲシテ之ヲ通知セシメ保險者ノ承認ヲ必要トスルコトトセリ然レトモ船長タル資格カ一定シ且其技術カ發達シタル上ニ於テハ其變更ヲ以テ危險ノ變更増加ト爲スコトヲ得ス現ニ我商法ニ於テ第六百六十四條ニ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサストアリ

第三 船舶ノ變更モ亦積荷ノ保險ニ付テ危險ノ變更ト看做スモノニシテ保險者ハ變更後ノ事故ニ付テ責任ヲ負フコトナシトシ只止ムヲ得サル變更例ヘハ從來ノ船舶カ破損シ止ムヲ得ス他ノ稍劣等ナル船舶ニ移積シタル場合ノ如キハ縱令其後危險カ増加スルモ其原因ハ寧ロ危險ヲ避クルノ事由ニ存スルヲ以テ之ヲ以テ保險者ノ責任ヲ解クコトヲ得サルナリ

前述ノ事項ハ損害保險ニ付キテ説明シタル所ニシテ我商法ニ於テハ第四百三十三條ニ依リ上記第四百十條及ヒ第四百十一條ヲ生命保險ニモ準用セシメタリ然レトモ斯ク損害保險ノ規定ヲ直ニ生命保險ニ應用シテ毫モ支障ヲ見サルヤハ研究スルノ價值アリト言ハサルヘカラス何トナレハ家屋什器ノ類ハ陸上一定ナル場所ニ存在シ從テ之カ危險ノ情況ニ變化ヲ起ス場合ハ比較的ニ少ク且明瞭ナリト雖トモ人類ハ陸上タルト水上タルトヲ問ハス時々刻々異ナリタル情況ニ臨ムヲ以テ之ヲ常ニ危險ノ變更増加ナリト云フトキハ生命保險ハ實際行ハレサルニ至ラサルヘカラス故ニ生命保險ニ對シテ前記二條ノ規定ヲ準用スルニ際シテハ最其範圍ヲ狭クシテ可成被保險者ノ利益ニ解釋スルヲ必要トス抑生命保險ニ

生命保險ニ於ケル危險ノ變更増加

生存保險ト死亡保險トノ危險

死亡危險ニ關スル内外ノ事情

於テ危險ト稱スヘキモノハ何ナリヤト問ヘハ生命保險ニ於テハ吾人カ或ル一定ノ時期マテ生存スルト云フコトハ危險ナレトモ此危險ハ外圍ノ情況ノ爲メニ著シク變動スヘキモノニ非ス故ニ生存保險ニ付テハ全然此問題ハ發生セス只死亡保險ニ付テノミ吾人カ死亡ニ臨ム程度ノ増加若クハ死亡ニ臨ム狀況ノ變動ヲ想像スルヲ得ルナリ而シテ吾人カ死亡ノ危險ニ臨ム狀況ハ如何ナル事情ニ支配セラルルヤト云フニ余ハ之ヲ分チテ内外ノ二種ニ區別セント欲ス内部ノ事情トハ被保險者ノ性、年齡、現在ノ健康、既往ノ病歴、血屬關係等ニシテ外部ノ事情トハ住居、職業、生計ノ程度、嗜好、習慣等ヲ其主ナルモノトスヘシ而シテ吾人ハ是等ノ事情ノ差異ニ因リテ皆死亡ノ危險ニ臨ムノ程度ヲ異ニスルモノナリ故ニ一タヒ保險契約ヲ締結シタル後是等ノ事情ニ變更若クハ増加ヲ生シタルトキハ危險カ變更増加シタルモノナルカ故ニ之ヲ以テ契約ノ失效又ハ解除ノ原因ト爲ササルヘカラスアルカ如キモ内部ノ事情ナル者ハ豫メ被保險者ニ於テ其變動ヲ認メタルモノナルヲ以テ之ヲ問フヘキニアラス例ヘハ生命保險ニ加入シタル後疾病ニ罹リ殆ント死ニ瀕スルカ如キ危險ナル状態ニ陥レリトスルモ毫モ契約解除ノ原因ト爲ス能

ハサルハ當然ナルカ如シ又保險契約ヲ爲シタル後被保險者ノ兩視カ肺結核ヲ以テ斃レタリトスルモ保險者ハ之ヲ以テ契約解除ノ原因ト爲ス能ハサルカ如シ故テ生命保險ニ於テ危險ノ著シキ變更増加ト云フハ全ク外部ノ事情ノミニ付キ存在セサルヘカラス而シテ外部ノ事情ト雖トモ極メテ顯著ナル場合ニ限ラルヘシ例ヘハ被保險者カ其住居ヲ變更シタル場合ト雖トモ火災保險ノ如キニ在リテハ甲ノ建物内ニ貯藏セラレタル動産ヲ乙ノ建物ニ移シタルトキハ直ニ契約ノ失効若クハ解除ノ原因ト爲リ得ルトスルモ生命保險ニ於テハ然ラス若シ之ヲ詳細ニ論スルトセンカ安全ナル家屋ノ内ニ靜臥スル場合ト繁華ナル街頭ヲ通行スル場合ト電車汽車ニ乗スル場合ハ常ニ危險ノ變更増加ヲ起シツツアリト言ハサルヘカラス然レトモ斯ル變動ハ著大ナルコトニアラサレハ之ヲ問フヲ要セス只人跡ノ稀ナル北極若クハ野蠻人ノ住スル部分ニ探検ヲ試ミ或ハ人ノ管テ上ラサル高山ニ攀登シ或ハ發明ノ試験ニ屬スル風船飛行機等ニ乗シ或ハ潛行艇ニ乗込ミ或ハ猛獸狩ノ如キ冒險ヲ試ムル場合ノ如キヲ以テ著シキ變更増加トセサルヘカラス又職業ニ付テモ火藥ヲ取扱ヒ或ハ有毒瓦斯ヲ取扱ヒ或ハ鑛山事業ニ從事シ或

居住ノ變更

職業ノ變更

戰爭危險

ハ潜水業或ハ警察官監獄官等ニ轉業スル事ハ危險ノ増加ト云フコトヲ得ヘキモ學校教員僧侶法官會社員藝術家其他普通生命上特別ナル危險ヲ想像スヘカラサル職業ニ付テハ其何レニ轉スルモ之ヲ以テ危險ノ變更増加ト云フ能ハサルヘシ故ニ實際内外ニ於ケル多數ノ生命保險業者ハ此點ニ付テ皆特ニ保險約款ヲ設ケ是等ノ事情ノ變化ニ付テ豫メ通知ノ義務若クハ失効解除ノ原因等ヲ規定セリ是レ漫ニ之ヲ法律ノ規定ニ任ストキハ實際上ノ疑義ヲ生スルコト至テ多ケレハナリ今我國ニ於テ生命保險會社ノ主トシテ問フ所ノ事情ハ第一被保險者ノ居所ニ付テハ海外旅行及ヒ熱帶地方ニ於ケル住居ヲ掲ケ例ヘハ海外旅行若クハ熱帶地方ニ旅行若クハ住居中死亡シタル場合ニハ保險金ノ十分ノ一ヲ削減シテ支拂フト云フカ如キ規定ヲ設ケ第二職業ニ付テハ陸海軍務鑛山業鐵道瓦斯電氣等ヲ用ユル事業火藥ヲ取扱フ事業其他類似ノ危險業務ニ從事シタル場合ノミヲ問ヒ其場合ニハ死亡ニ際シテ保險金ノ十分ノ一ヲ削減スルト云フカ如キ規定ヲ設ケタリ然レトモ或會社ハ是等ノ制限ヲ撤回シ世界中到處ノ旅行居住並ニ百般ノ職業ノ自由ヲ許セリ第三ハ戰爭ノ危險ニシテ我商法第三百九十五條ノ規定ハ生命

保險ニモ準用セラレ法律ニ依テモ然ルカ如ク保險業者ハ皆戰爭ニ關スル特別ナル規定ヲ設ケ原則トシテハ戰爭ニ因スル死亡ヲ保險セサルモ被保險者カ平時ヨリ例ヘハ保險金ノ千分ノ二ヲ拂ヒ置キ若クハ戰爭ニ際シテ保險者ノ請求スル特別保險料例ヘハ保險金ノ百分ノ三若クハ五ト云フカ如キ金額ヲ拂込ムトキハ戰爭ニ因スル死亡ヲ引受クルト云フカ加キ規定ヲ設ケ或ハ又戰爭ノ爲メニ死亡シタルモノニ付テハ保險金ノ十分ノ二ヲ削減シテ拂ヒ渡スト云フカ如キ規定ヲ設ケタリ故ニ實際ニ於テハ是等ノ約款ニ於テ定メラレタル場合ノ外被保險者ハ危險ノ變更増加ニ付テハ全ク自由ナリト思惟セラルルカ如キモ亦解釋ニ依リテハ第四百十條第四百十一條ノ一般規定ハ是等ノ特別ナル場合ノ規定ノ爲メニ打消サルヘキモノニアラストノ立論アルヤモ知ルヘカラス故ニ此二箇條ハ寧ロ生命保險ニ準用セシメスシテ當事者間ノ契約條款ニ委スルヲ勝レリトス

### 第四款 告知義務

#### 第一項 告知義務ノ意義

告知義務ノ廣狹ニ依リテ

告知義務トハ獨逸語ニテ Anzeigepflichtト稱スル所ノモノニシテ之ニ廣狹二種ノ意義アリ廣ク告知義務ト稱スルハ保險契約者又ハ被保險者カ契約ノ當時保險ノ目的ノ性質危險ノ狀況又ハ保險ノ目的ト自己ノ關係其他重要ナル事項ヲ誠實ニ開陳スル場合ハ固ヨリ契約成立後危險ノ變更増加ヲ通知スルコト事故ノ發生シタルトキ之ヲ通知スルコト又發生シタル損害ノ程度ヲ告知スルコト等ノ諸種ノ場合ヲ包括スト雖トモ亦狹ク特別ナル意義ヲ以テ告知義務ト稱スルハ獨リ保險契約ノ締結ニ際シテ保險契約者又ハ被保險者カ保險者ヲシテ引受ケシメント欲スル所ノ危險ノ内容及ヒ狀況ニ就テ誠實ナル陳示ヲ爲スノ責任アルコトヲ指スモノニシテ茲ニ説ク所ノ告知義務ハ即チ後者ナリ而シテ之ヲ義務ト名クルモ普通ノ義務ノ如ク契約ノ效果トシテ生スルモノニ非スシテ契約ハ告知事項ノ真正ヲ前提トシテ成立スルモノナルヲ以テ又之ヲ保險契約ノ前提條件(Conditions)トモ言フ

狹義ノ告知義務

抑保險者カ被保險者ノ爲メニ克ク危險ヲ引受ケ得ル所以ノモノハ當該危險ノ性質ト程度ヲ知悉シ充分ナル覺悟ヲ以テ之ニ當ルヲ以テナリ即チ危險ノ甚シキ

モノハ之カ引受ヲ拒絕シ高キ危險ニ對シテハ之ニ相當セル高キ保險料ヲ請求シ低キ危險ニ對シテハ又低キ保險料ヲ求メ斯クシテ其計算ヲ安固ナラシムルナリ而シテ斯ク其引受クル所ノ危險ノ程度ヲ充分ニ知悉スルニハ自ラ保險ノ目的タル物件又ハ人體ニ就キテ仔細ニ之ヲ調査スルコト有ルヘシト雖トモ之ヨリモ尙有力ニシテ必要ナルハ保險契約者又ハ被保險者ヲシテ其當然知悉セル危險ノ狀況ヲ陳示セシムルニ在リ是ニ於テカ保險契約ノ申込ヲ爲ス者ニ對シテハ諸種ノ重要ナル質問ヲ發シ相手方ヲシテ之ニ答辯ヲ與ヘシメ此與ヘラレタル答辯ニ信賴シテ保險ノ引受ヲ爲スモノトス故ニ苟モ此答辯ニシテ虛偽又ハ隱蔽ノ事實アラシカ保險契約ハ其根底ニ於テ動搖セサルヘカラス故ニ此答辯ヲ爲ス所ノ保險契約者又ハ被保險者ハ常ニ善意ニシテ眞實ヲ開陳セサルヘカラス保險契約カ古來最大善意ノ契約ナリト稱セララルルハ此點ヲ指示シタルモノニシテ保險契約ノ效力ハ此告知事項ノ眞實ニ繫カルモノトス英語ニテハ之ヲ Representation (開陳)ト言ヒ又生命保險ニ於テ被保險者カ其身體ノ健全ナルコトヲ告白スルコトヲ健康ノ保證 (Warranty of Health)トモ稱セリ

## 第二項 告知義務ノ内容

告知義務ニ關スル現行商法ノ規定

告知義務トハ危險ノ性質狀況ニ關スル事項ノ告知ヲ指スモノタルコト前項ニ述ヘタル如クナルカ我商法ニ於テハ損害保險ニ對シテハ第三百九十八條ニ左ノ規定アリ

保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラスト此規定ニハ重要ナル事實又ハ事項トアリテ必シモ之カ危險ニ關スル事項ナリトハ明言セラレサルモ保險契約ニ於テ所謂重要ナル事實又ハ事項トハ通常危險ニ關スルコトニシテ一般ノ重要事項ノ錯誤ニ就テハ民法ノ原則ニ依ルモ契約ノ無効タルコト明ナルヲ以テ(民法第九十五條)上記商法ノ規定ハ危險ニ關スルモノト解釋スルヲ至當トセサルヘカラス縱令其他ニ尙重要ナル事項ヲ想像シ得ルトスルモ危險ニ關スル事項ハ正ニ重要ナル事項トシテ此條文中ニ包含セラレ其告

契約無効ノ要件

知ノ不誠實ニ因リテ保險契約ノ無効タルコトハ爭フヘカラサル結果ナリ我國ノ裁判上ニ於テモ保險者カ契約ノ要素タル危險ノ測定ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ重要事項トスルヲ一般ノ判例トス(本木重助對明治生命保險株式會社事件大審院判決)而シテ我商法ニ於テハ告知義務ノ違反カ契約ヲ無効ナラシムルニハ之カ左ノ二個ノ要件ヲ具有セル場合ニ限レリ

一 惡意若クハ重大ナル過失ニ因ルコト

二 保險者カ其事實ヲ知ラス又ハ知ルヲ得ヘカラサルコト

惡意又ハ重大ナル過失

第一 保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラスシテ善意若クハ輕過失ニ因リテ告知ヲ怠リタル場合ハ全ク之ヲ問ハサルハ善良ナル被保險者ヲ保護スル便宜上ノ規定ニシテ保險者ノ利益ヨリ論スルトキハ縱令善意ナリトモ錯誤ノ告知ノ爲メニ受クル所ノ損害ハ決シテ沒スルヲ得サルナリ例ヘハ茲ニ人アリ友人ヨリ一箇ノ函ヲ托セラレ其倉庫中ニ納メ置キ而シテ之ヲ普通一般ノ器具衣服ノ類ナラント思惟シ居レルヲ以テ其倉庫ヲ保險ニ付スルニ際シ普通ノ家具衣服ヲ納メタリト告知シ置キタルニ何ソ知ラン函中ノ物質ハ危險多キ藥品ニシテ之ヨリ

火災ヲ惹起シタリトセヨ保險契約者ノ方面ニハ毫モ惡意ナク又其函カ衣櫃様ノ物ニシテ別ニ怪シムヘキ點ナカリシカ如キ場合ニハ重大ナル過失アリトモ認ムヘカラス故ニ契約ハ無効ニ歸セサルヘシト雖トモ之ヲ保險者ノ側ヨリ言ヘハ若シ之ヲ知リタランニハ契約ノ申込ヲ拒絕セシナランニ告知ノ錯誤ノ爲メニ引受ヲ爲シ其爲メ損害ヲ被リタリト言ハサルヘカラス全然之ヲ救済セサルモ又酷ナラスヤ此種ノ事實ハ生命保險ニ於テ往々發生シ現ニ裁判上ノ實例モアリ(志田稔律師共編保險判例集所載金澤國松對帝國生命保險株式會社事件)例ヘハ妙齡ノ婦女嘗テ肺患ニ罹リ醫療ヲ受ケタルモ醫師及ヒ其家族等ハ婦女ノ神經ヲ刺戟シテ却テ疾患ヲ重カラシメンコトヲ慮リ全ク之ヲ告ケサリシカ故ニ本人ハ其肺患ナルヲ知ラス或ハ普通ノ感冒ナリト告ケラレタルカ故ニ保險契約ノ締結ニ際シ全ク肺患ノ事實ヲ告ケス又ハ單ニ感冒ニ罹レリト告知シタル場合ノ如キハ共ニ契約ノ善意ヲ缺キタルニアラサルモ其要素タル危險ニ關シテ重大ナル錯誤アリタルモノナルカ故ニ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサシムルノ道理アリト言ハサルヘカラス我舊商法第六百五十三條ニ被保險者カ故意ニ告知ヲ怠リタル場合ト無意ニ錯誤ニ陥リタル場合トヲ並ヘ示シ其孰

レニ對シテモ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ定メタリシカ現行商法ハ前掲ノ如クニ之ヲ改メタルナリ此兩箇ノ主義ニ就テハ諸外國ニ於テモ立法上ノ方針ニ就テ議論アリ獨逸商法調査委員會ニ於テモ多年之ヲ討議シタル由ナルカ最近ノ保險契約法ニ於テハ眞ノ善意ニ對シテハ無効ヲ主張スル能ハサルモ過失ニ因ル錯誤ノ告知ニハ對抗スルコトヲ得ル旨ヲ定メタリ英米ニ於テモ種々ノ判決例アレトモ我現行商法ノ如ク多ク被保險者ノ利益ヲ謀リタルモノ無シ

第二 縱令保險契約者カ告知義務ニ違反スト雖トモ保險者カ其事實ヲ知リナカラ契約ヲ締結シタル場合ハ之ヲ默認シタリト看做スヘキヲ以テ契約ノ無効ヲ主張スル能ハサルハ當然ナリト雖トモ前掲後段ノ如ク之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキモ亦同一ノ結果ヲ見ルハ保險者ニ責任ヲ負ハシムルノ重キニ失シタリト言ハサルヘカラス何トナレハ虛偽ノ告知ハ保險契約者ノ罪惡ニシテ之ヲ發見シ能ハサリシハ保險者ノ過失ナリ罪惡ト過失ヲ同一視シ縱令惡事ヲ犯スモ相手方カ之ヲ發見シ得サリシナラハ其目的ヲ達シ得ルトハ頗ル不穩當ナル立法ニシテ道義ノ根柢ニ反セリト言ハサルヘカラス特ニ此法文ノ解釋ヲ極端ニシ例ヘハ生命

保險者ノ不知及ヒヘキコト

重要事項トハ何ソ

保險會社カ醫師ヲシテ被保險者ノ身體ヲ診査セシムル事實アル爲メニ縱令被保險者カ如何ナル虛偽隱蔽ヲ行フモ可ナリト思惟スルカ如キ傾向アルカ如キハ最誤解ノ甚シキモノニシテ醫師ノ診査ト雖トモ今日醫學ノ進歩ノ程度竝ニ普通醫師ノ能力ニ於テ如何ナル隱蔽セラレタル疾病ヲモ發見スルノ進境ニ至ラサルハ固ヨリ縱令然リトスルモ全ク之ニ責任ヲ嫁シテ毫モ被保險者ノ惡意ヲ糺ササルハ惡事ヲ獎勵スルノ結果ヲ來サシムルノ業ト言ハサルヘカラサルナリ

最後ニ重要ナル事實ト云ヘルコトニ就テ再言スルノ必要アリ保險契約ノ要素就中危險ニ關スル事項ハ重要ナリト言ハサルヘカラスト雖トモ一方ニハ又危險ニ關スル事項ナラハ如何ナル些末ノ事ト雖トモ重要ナリトセサルヘカラサルヤ危險ノ變更増加ニ就テハ著シキ危險ノ變更増加ヲ問ヘリ然ラハ告知義務ノ場合ニ於テモ些末ナル危險ノ虛陳ハ之ヲ問ハサルニ非スヤトノ疑問ヲ生スルノ餘地アリ而シテ又何カ危險ニ關シテ重要ナル事項ナルヤハ通常素人タル保險契約者ヨリモ素人タル保險契約者ノ善ク識レル所ナルヲ以テ告知義務ノ範圍ハ保險者ノ要求スル事項ニ限ルトスルヲ最適當ナリトセサルヘカラサル保險者ノ質問セサ



ル事項マテモ悉ク陳述セサルヘカラストセハ保險契約者ハ果シテ何事ヲ陳述シテ可ナルヤヲ知ルニ苦シムト同時ニ常ニ遺漏アラサリシヤヲ想フテ安堵ヲ爲スノ邊アラサルナリ

故ニ保險者ハ皆保險契約ノ申込ヲ爲サシムル爲メニ申込書用紙ナルモノヲ作製シ置キ其上ニ告知ヲ要スル事項ヲ記載シ保險契約者ヲシテ之ニ對スル答ヲ記入セシムルコトトセリ其事項ハ損害保險ニ在リテハ通常保險ノ目的ノ性質位置使用法等之ニ依リテ吾人カ危險ノ程度ヲ測知スルヲ得ルノ事項ニシテ例ヘハ家屋ノ火災保險ニ就テハ當該家屋ノ場所附近ノ狀態坪數構造ノ材料及ヒ種類屋根ノ葺方及ヒ住人ノ職業如何等ニ關スル告知ヲ要求スルナリ而シテ此以外ノ事項ニ就テハ保險契約者ニ於テ不陳ノ責任ヲ負フコト無キナリ

生命保險ニ就テモ亦同一ノ理論ヲ應用スヘシト雖トモ損害保險ニ於ケル保險ノ目的ニ該當スル者カ生命保險ニ在リテハ人類ニシテ之ヲ被保險者ト稱シ其健康ニ關スル事項ハ保險契約者ヨリモ寧ロ木人ノ善ク知ル所ニシテ其能力アル者ニ對シテハ之ニモ告知義務ヲ負ハシムルヲ至當ト爲スカ故ニ我商法ニ於テハ生

告知ヲ要スル事項

損害保險ニ於ケル告知

生命保險ニ於ケル告知及其義務者

命保險ニ對シテ第四百二十九條ノ規定ヲ設ケタリ而シテ生命保險ニ於テ保險者カ相手方ノ告知ヲ要求スル事項ハ通常死亡保險ニ在リテ被保險者ノ死亡ノ危險ニ臨ム程度ヲ窺知セシムル材料即チ性年齢血統病歴現在健康ノ自覺等ニシテ此外尙配偶者ノ有無健否飲酒喫煙ノ度職業等ヲ告知セシメ又同一ノ被保險者ニ就テ他ノ保險契約ノ存在セルヤ否ヤ又ハ申込ヲ爲シタルコトアリヤ竝ニ之ヲ拒絕セラレタルコトアリヤ等ノ事項ヲ告知セシムルコトトセリ

然リト雖トモ保險申込書ニ於テ記入ヲ要求セラレタル事項ハ悉ク重要ナル事項ナリト斷定セラレヘキニ非サルハ當然ニシテ縱令保險者ノ要求シタル事項ト雖トモ客觀的ニ毫モ重要ナリト認メラレサルモノ無キニ非ス是ニ於テカ或事項ノ不陳カ重要ナル事項ノ不陳タルヤ否ヤハ獨リ生命保險ニ於テノミナラス損害保險ニ於テモ亦實際ノ問題ニシテ爭議ノ場合ニハ結局裁判官ノ認定ニ俟タサルヘカラサルナリ而シテ此認定ハ至難ノ業ニシテ單ニ事項ノ性質ニノミ着眼スルヲ以テ足レリトセス時世ノ狀態ト告知者ノ意思ヲ考察セサルヘカラスト即チ單純ニ自然的危險ノミヲ考察セスシテ人意的危險ノ影響ニモ想到セサルヘカラサル

告知ヲ要スル事項ハ必シモ皆重要事項ニ非ス

重要ナルト否トナリ別ツ標準

ナリ例へハ近時屢裁判上ノ問題トナレル事項即チ生命保險ノ申込者カ同一ノ被保險者ニ就テ他會社へ保險ノ申込ヲ爲シ又ハ拒絕セラレタルコトアルニモ拘ハラズ保險者ノ要求ニ反シ此事實ヲ告ケスシテ契約ヲ締結シ後爭議ノ發生ヲ見ルニ至リシ場合ニシテ他會社へ申込ヲ爲シ又ハ承諾セラレタル事實ノ如キハ保險契約者トシテハ更ニ重要ナル事項ナリト思惟セスト言フヘケレトモ又保險者ヨリ言クハ諸方ノ會社へ多數ノ契約ヲ申込ミ又ハ多額ノ保險ヲ付シ居ル如キ者ハ往々人意的危險ヲ包藏スルコトアリ之ヲ知ラハ或ハ警戒スル所アリシナランニ之カ告知ヲ受ケサリシ爲メニ異議ナク契約ヲ締結シタリシナリト主張スルナルヘシ而シテ裁判官カ果シテ被保險者ノ方面ニ此ノ如キ危險アリシヤ否ヤヲ推斷スルニハ其意思ヲモ探究シ其地方ニ保險詐欺ノ流行スルヤ其時世カ被保險者ノ側ニ於テ斯ク進歩セルヤ又ハ總額ノ保險契約カ身分不相應ナルヤ等ヲ考察セサルヘカラス故ニ同一ノ不陳事項ニ對シテモ必シモ同一ノ判決ヲ得ヘキニ非ス又保險思想ノ幼稚ニシテ保險詐欺ノ少カリシ時代ノ議論ヲ今日尙主張スル能ハサル場合アルナリ然レトモ他會社へ申込ミ拒絕セラレタル事實ノ如キハ常識ヲ以

不可爭條  
款

テ判斷スルモ之ヲ告知セサルハ惡意アリト推測スヘキモノナルヘク外國ニ於テモ之カ不陳ヲ以テ契約無効ノ原因トスルコト多ク見ル所ナリ  
火災保險ノ如キ一個ノ目的ニ就テ多數ノ被保險者ト契約ヲ締結スル習慣アル契約ニ於テ他ノ被保險者ト己ニ契約ヲ締結セル事實ヲ告知スヘキ場合ニ在リテハ之ヲ重要ナル事項ト看做スコト殆ント何人モ異議ヲ唱ヘサル所ナリ是レ損害保險ニ在リテハ生命保險ト異ナリ有效ナル保險金額ニ制限アリ被保險者カ既契約ノ存在ヲ告知セスシテ重複ノ契約ヲ締結シ事故ノ發生ニ際シテ價額以上ノ保險金ヲ獲取セントスルカ如キ罪惡ニ陥ラザランカ爲メニ此事項ノ不陳ヲ以テ契約無効ノ原因ト爲スモノナルヘシ  
告知義務ハ前述ノ如ク保險契約ノ成立ニ關スル重要ナル事項ナルト同時ニ又頗ル複雑ニシテ明ニ之カ惡意ニ出ツル場合ハ兎モ角或ハ過失ニ出ツルヤ又ハ全ク善意ノ不知ニ出ツルヤモ知ルヘカラサル場合ニ於テ尙契約ノ效力ヲ爭フコトハ被保險者ニ對シテ苛酷ナルノ感アルト同時ニ之カ爲メニ訴訟ノ發生ヲ増加セシメ保險事業ノ信用ヲ害スルコト少カラサルヲ以テ歐米諸國ノ保險業者特ニ生

命保險會社ニ在リテハ多ク不可爭條項 (Indisputability, Incontestability, Unamfehlbarkeit) ト稱スル條款ヲ設ケ契約カ締結後數年間繼續シタル後ニ在リテハ告知義務ノ違反ヲ問題ト爲スコト無ク保險金ノ支拂ヲ爲スヘキ特約ヲ行ヘリ然レトモ此ノ如キ特約ハ保險契約ノ誠意ニ基クヘキ本質ヲ沒却スルモノニシテ社會上有害ナリト主張スルノ說無キニアラス故ニ惡意ノ明白ナル場合ニハ適用セスト明定スル約款アリ要スルニ便宜ノ契約ナリトセサルヘカラサルナリ我國ニ於テモ近時三四ノ會社ニ於テ此條項ヲ提供スルニ至レリ

以上告知義務竝ニ其違反ニ關スル效果ハ即チ現行商法ノ規定ニ基キテ立論シタル所ナルカ最近ノ商法修正案ハ之ニ關シテ顯著ナル改革ヲ施サント欲セリ仍テ聊之ニ對スル評論ヲ試ミント欲ス即チ該修正案ハ前掲第三百九十八條ヲ全部變更シテ左ノ二條ヲ設ケントスルナリ

(一) 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルヲ得ヘカリシトキハ

商法修正  
案ノ新  
規定

此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一箇月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

(二) 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケサリシ事實ニ基カサリシコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

(上記ハ損害保險ニ對スルモノナルカ生命保險ニ對シテモ現行商法ト同シク被保險者ヲ告知義務者ニ加ヘテ上記ト同一ノ規定ヲ別ニ設ケタリ)

此二條ノ規定ハ現行商法ト左ノ四點ニ於テ異ナレルヲ以テ逐次之ヲ説明スヘシ

一 現行商法ハ保險契約者ノ告知義務ノ違反ニ對シテ契約無効ノ制裁ヲ設ケ居レルニ修正案ハ之ニ代フルニ保險者ノ解除權ヲ以テセリ是レ舊商法ノ主義ニ立戻レルモノニシテ理論上ヨリスレハ契約ノ要素ニ錯誤アリタルモノトシテ契約ヲ無効ナラシムルヲ正常ナリトセサルヘカラス何トナレハ契約上重要ナ

ル事項ニ欠缺アレハ其契約ハ初ヨリ成立スヘカラサルモノニシテ從テ誤テ之カ結ハルルト雖トモ保險者ハ事故發生ニ際シテ損害填補ノ責ニ任スルヲ要セサルナリ然ルニ將來ニ向ツテ契約ヲ解除セシムルコトスレハ既往ニ就テハ保險契約ハ有效ニシテ保險者ハ實際負ハサル危險ヲ負ヒタルモノト看做ササルヘカラサルノ不道理ニ陷レハナリ殊ニ解除ハ將來ニ向テノミ效力アリトスル以上ハ既ニ事故カ發生シタル後ハ解除ヲ爲スモ保險者ハ填補ノ義務ヲ免ルル能ハサルノ理ナルヲ以テ之ニ對シテハ特ニ反對ノ規定ヲ設ケ保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セス云々ト明言セサルヘカラサルカ如キ體裁ノ不備ヲ表示セサルヘカラス然レトモ此ノ如ク修正シタル理由ハ思フニ獨逸保險契約法及ヒ瑞西保險契約法カ之ト同一主義ヲ執レルニ倣ヒタルニ非サルカ

二 解除權ハ保險者カ告知事項ノ不實ヲ知リタル後一箇月間之ヲ行ハサレハ消滅スルコトハ舊商法ニモ現行商法ニモ全ク無キコトニシテ瑞西ニテハ之ヲ四週間トセリ(瑞西保險契約法第六條)此ノ如キ被保險者保護ノ方法ヲ設ケンニハ無效主義ヲ去

リテ解除主義ヲ執ラサルヘカラサルナリ

三 解除權ハ又契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ消滅スルコトト定メタルハ所謂不可爭條款ヲ採用シタルモノニシテ現今我國ニ於ケル新設生命保險會社ノ多數ハ之ト類似ノ約款ヲ有シ五年間有效ニ繼續シタル契約ニ對シテハ事故發生ニ際シテ告知義務ノ違反ニ因スル契約ノ無效ヲ主張セスト定ムルヲ以テ修正案モ之ヲ用ヒタルナルヘシ

四 危險ノ發生カ違反シタル告知事項ニ基カサル場合ニハ保險者ハ解除權ヲ有セス例ヘハ火災保險ニ於テ保險契約者カ屋内ニ於ケル暖爐ノ數ヲ虛陳シタルカ如キ場合ニ於テ火災カ暖爐ヨリ發シタル如キ場合ニハ保險者ハ解除ヲ主張シ得ルモ全ク之ニ拘ハラズ類焼ニ遭ヒタル如キ場合ニハ解除權ヲ有セサルナリ之ヲ生命保險ニ就テ言ヘハ例ヘハ被保險者カ肺結核ニ罹レルヲ隱蔽シテ契約ヲ締結シ同病ニテ死セシナラハ保險者ハ解除ヲ請求シ得ルモ之カ腸胃扶斯ニテ死セシトセハ解除ヲ爲スヲ得サルナリ此一段ハ全ク新ナル規定ニシテ保險者カ告知義務ノ違反ヲ問フコト峻峭ニ過クルノ弊ヲ防カンカ爲メニ設ケタ

ルモノナルヘシ然レトモ疾病ノ如キ場合ニ在リテ死因タル疾病カ隠蔽シタル  
既往症ト全ク無關係ナルヤ否ヤハ之ヲ證明スルノ困難ナルト同時ニ之ヲ否認  
スルモ亦極メテ困難ナル爲メニ實際上爭議ヲ惹起スルノ餘地少カラスト知ル  
ヘシ

### 第三節 保險期間 (Versicherungsdauer)

#### 第一款 保險期間ノ意義

保險契約ハ保險者カ之ニ依リテ被保險者ニ對スル危險ノ引受ヲ爲スモノナル  
カ故ニ其引受ニハ自ラ一定ノ期間ナカラサルヲ得ス之ヲ保險期間ト稱シ其間ニ  
事故カ發生シタルトキハ保險者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ填補シ若クハ保險  
金ヲ支拂フノ責ニ任スルナリ而シテ此期間ハ保險契約ノ期間ト區別セサルヘカ  
ラス保險契約ノ期間トハ其文字ノ示スカ如ク保險契約ノ存在スル期間ニシテ凡  
テ契約ハ當事者ノ意思ノ合致ヲ指スモノニシテ存續スルモノハ契約自體ニ非ス

保險期間  
ト保險契約  
別期間ノ

危險期間

シテ其效力ナリトノ論理的説明ヨリスレハ保險契約ノ期間ナル語ハ妥當ナラサ  
ルカ如キモ説明ノ便宜上保險契約ノ效力ノ存スル間ヲ保險契約ノ期間ト謂ハン  
トス

而シテ茲ニ謂フ所ノ保險期間ハ又危險期間 (Dauer der Gefahr) トモ稱シ危險ノ存  
續期間ヲ指スナリ勿論危險ハ絶對ニ言ヘハ常ニ存續スルモ保險者カ之ニ對シテ  
責ニ任スル期間ヲ保險期間ト稱シ之カ保險契約ノ期間ト一致スル場合少カラサ  
ルモ而モ亦一致セサル場合ナキニ非サルナリ先ツ其始期ニ就テ言ハンカ保險契  
約成立シ保險契約ノ期間ハ茲ニ開始スト雖トモ保險者カ未タ保險上ノ責ニ任ス  
ルニ至ラサル場合アリ例ヘハ保險契約カ東京ニ於テ横濱ニ碇泊セル船舶ニ就テ  
締結セラレ契約期間ハ其時ヨリ一箇年ナリトスルモ航海ノ開始ハ尙數日ノ後ニ  
在ル如キ場合ハ即チ未タ保險期間ノ始マラサル場合ニシテ我商法ニ於テハ第四  
百七條及ヒ第四百八條ニ保險者ノ責任カ始マル前云々ノ語アリ保險者ノ責任ノ  
存續スル時期カ即チ保險期間タルヲ證スルナリ又繼續保險ト稱スル方法ニ依リ  
船主カ其船舶ニ就テ一箇年間ノ保險契約ヲ締結シ置クモ其船舶カ其間ニ數回ノ

新ナル航海ヲ爲ス如キ場合ハ保險期間ハ數個ヨリ成ルモノナリ保險期間ノ終期モ然リ契約ノ終了セサル間ニ保險者ノ責任ノ消滅スルコトハ吾人ノ容易ニ想像スルヲ得ル所ナリ

商法第四百十條及ヒ第四百十一條ニ保險期間中危險カ變更増加シタル場合ニハ保險契約ハ其效力ヲ失ヒ又ハ保險者カ契約ノ解除ヲ爲スノ權利ヲ有スル旨ノ規定アルコト前節ニ述ヘタル如シ而シテ之ヲ保險期間中ノ出來事ニ限リタルハ何故ナルヤ吾人ハ一應ノ疑問ヲ抱カサルヲ得ス保險契約ヲ締結シ而モ保險者ノ責任ハ未タ始マラサル前即チ保險期間ニ入ラサル前ニ於テモ危險ニ變更増加アリタルトキハ保險者ハ解除權ヲ有シ又ハ契約ノ失效ヲ主張シ得ヘキニ非スマ又前述シタル繼續保險ニ於テ一ノ保險期間ト次ノ保險期間ト中絶セル間ニ危險ノ變更増加セル場合ハ如何是亦同様ノ效果ヲ生セシメサルヘカラス然ルニ是等ニ就テ何等豫想シタル所無キニ似タルハ我商法ハ保險期間ナル文字ヲ以テ保險契約ノ存續スル期間ヲ指スニ非サルヤヲ疑ハシムルモノナリ果シテ然ラハ我商法ノ保險期間ナルモノハ茲ニ謂フ所ノモノト異ナリ保險者カ保險上ノ責任ヲ有ス

我商法ニ於ケル保險期間ノ意義

我國ノ一般保險社會ニ於ケル保險期間ノ意義

保險期間ノ確定ノ必要

ル期間ニ非スシテ契約ノ成立シタル時ヨリ其重要ナル效力ノ終了スヘキ豫定ノ時期マテヲ指スモノト解セサルヘカラス而モ我商法カ又一方ニ於テ保險期間ノ始期及ヒ終期ナル文字ヲ用フルヲ見レハ(第四〇三條第二項)又之ヲ區別スルノ意ナルヤヲ忖度セシムルニ足ルモノアリ而シテ我國一般保險社會ノ解釋ハ保險期間ヲ以テ保險者ノ責任ノ存スル期間トスルニ歸セリ

### 第二款 保險期間ノ確定

保險契約ハ損害填補又ハ保險金支拂ノ事實ヲ以テ契約ノ目的トスルモノニ非ス之ニ依リテ保險者カ被保險者ニ代リテ危險ノ引受ヲ爲スノ行爲ナルヲ以テ此引受ノ期間ハ契約成立ノ要件ナリ然レトモ此期間ハ固ヨリ自然ニ存在スヘキモノニ非スシテ保險契約ノ當時之ヲ確定セサルヘカラス其長短ハ保險者ノ義務ノ容積ニ關シ其時期ニ依リテハ保險者カ引受ヲ肯セサルコトモアルヘク又保險契約者ノ義務タル保險料ノ多寡ヲ支配スルモノナルカ故ニ其確定ハ絕對的ニ必要ナリ而シテ此期間ノ確定ニ就テハ次ノ三種ノ場合アリ

合意上ノ  
期間

第一 合意上ノ期間

保險期間ハ最多クノ場合ニ於テ當事者間ノ合意ニ依リテ定マルモノニシテ而シテ之ニ時ヲ標準トシテ定ムルト事實ノ繼續ニ由リテ定ムルトアリ例ヘハ火災保險ニ於テ幾日幾週幾月ト云フカ如キ短期間ヲ定メ生命保險ニ於テ五年十年二十年ト云フカ如キ長期間ヲ定メ又海上保險ニ於テ定時契約 (Time Policy) ト稱シテ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテヲ期間トスルカ如キハ皆前者ニ屬シ航海契約 (Voyage Policy) ト稱シテ或一定ノ航海ニ就テ出發ヨリ到着スルマテヲ引受ケシムルカ如キハ後者ニ屬セリ又定時契約ト航海契約ヲ混シタル如キ保險期間ノ設定方法アリ即チ航海ト期間ヲ二ナカラ指示スルモノニシテ之ヲ混合契約 (Mixed Policy) ト稱セリ例ヘハ橫濱ヨリ桑港ニ至ル三週間ノ期間ヲ保險スト言フカ如シ然レトモ是レ實際定時契約ニ外ナラス橫濱ヨリ桑港ニ至ルマテトハ單ニ航海ノ種類ヲ明示シタルニ外ナラス保險期間ハ三週間ヲ以テ盡クルモノナリトス生命保險ニ於テ定期保險又ハ養老保險ト稱スルモノハ定マリタル期間ノ死亡若クハ生存ヲ保險スルモノニシテ終身保險ハ人類ノ生存

法定ノ期  
間

第二 法定ノ期間

ト言ヘル事實ニ關スル不定ナル期間ヲ保險期間トスルモノト解スハキナリ  
當事者ノ合意ヲ以テ定メストモ法律上自ラ定マレル期間アリ我商法第四百三條第二項ニ保險者カ保險契約者ノ請求ニ應シテ發行スヘキ保險證券上ニ掲クヘキ事項ヲ舉ケタル中ニ就キ第六號ニ保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期トアルヲ以テ見ルモ保險期間ヲ定メサル場合アルヲ想像シタルヲ知ルヘシ然レトモ是レ保險期間ノ確定ナクシテ保險契約ノ有效ナルヲ認ムルノ意ニ非ス當事者カ特ニ之ヲ定メストモ法律上當然ノ期間アル場合ヲ想像シタルモノニシテ例ヘハ運送保險ニ於テハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテヲ保險期間トシ(商法第四百三條)又海上保險ニ於テ一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニハ船積ニ着手シタル時ヨリ陸揚ノ終リタル時マテヲ保險期間トスルカ如シ(商法第六五九條及第六六〇條)

推定上ノ  
期間

第三 推定上ノ期間

當事者ノ明約ナク又法律ノ規定ニ依ラサルモ保險契約ノ性質上ヨリシテ當

然保險期間ノ推定セラルヘキモノアリ予ハ又之ヲ條理上ノ期間ト言ヘリ道理ニ由リテ明ナル期間ノ謂ニシテ例ヘハ耕作物ノ收穫ヲ保險スル場合ノ如キ別ニ契約ヲ以テ定メサルモ刈入ヲ終リタルトキ又ハ通常終ルヘキ時期ヲ以テ期間ノ終了ト見ルヲ得ヘキナリ

上記ノ如キ特別ナル場合ニ非スシテ當事者カ保險期間ヲ定メサルトキハ之カ保險契約ノ期間ト一致スルモノト推定スルヲ當然トス何トナレハ保險契約ヲ取結フノ趣旨ハ保險者ヲシテ事故ノ發生ニ對スル責ニ任セシメントスルニ在ルコト明ナレハ其責任ノ時期ニ就テ定ムル所無ケレハ保險契約ノ期間ハ即チ保險期間ナリト言ハサルヘカラス

以上三種ノ場合ヲ以テ保險期間ハ確定セラルルト雖トモ期日カ日ニ依リテ定メラルル場合ニ於ケル始期ト終期ハ最精確ニ明示セサルヘカラス古來之ニ關スル訴訟少カラス生命保險訴訟ノ嚆矢トシテ傳ヘラルル所ノモノハ此期間ノ計算ニ關スルモノニシテ千六百九十七年英國ノ一貴族某生命保險會社ト一箇年ノ定期保險ヲ契約シ翌年同月同日ニ死シタリシカ會社ハ期間滿了後ナリト主張シ終

ニ判決ノ結果翌日ヨリ起算シテ一箇年ナルヲ以テ翌年同月同日ヲ包含スルコトト爲レリ我國ニ於テモ民法ノ規定ニ依レハ期日ハ總テ翌日ヨリ起算スヘキモノナレトモ保險者カ一箇年ノ危險ヲ引受クルノ意バ即チ三百六十五日ヲ引受クルノ意ナルヲ以テ通常民法ノ起算法ニ據ラス保險約款又ハ保險證券上ノ文言ヲ以テ何年何月何日何時マテト確約シ一箇年ノ契約ト言ヘハ翌年同月同日午後四時ヲ以テ終ルトスルヲ普通トセリ

### 第三款 保險期間ノ中斷及ヒ短縮

保險期間ハ其間保險者カ保險上ノ責ニ任スル期間ナルヲ以テ保險者カ或事情ノ爲メ一時保險上ノ責任ヲ負ハサルコトアラハ之ヲ以テ保險期間ノ中斷ト稱スルコトアリ又之ヲ保險契約ノ效力ノ中止 (Suspension der Versicherung) ト呼フコトアリ例ヘハ生命保險ノ被保險者カ熱帶又ハ戰地ヘ旅行中若クハ特ニ冒險ナル旅行ヲ企ツル間ハ保險者其死亡ニ對スル責ヲ負ハスト約スル如キ或ハ船舶カ契約ノ航路以外ニ寄港シタル場合ニ其特別航路中ニ於ケル危險ヲ負擔セサルカ如キ或

中斷



ハ又保險料ノ延滞中契約ノ效力ヲ中止スル場合ノ如シ此ノ如キ場合ハ保險者カ  
 危險ヲ負擔セサル期間ナレハ其間ニ對スル保險料ハ免除セラルヘキモノニシテ  
 保險者既ニ之ヲ受取リタル後ナラハ其部分ヲ返還スヘキモノト言ハサルヘカラ  
 但之ヲ實行スルハ計算上不便少カラサルヲ以テ反對ノ處置ヲ採ル場合ヲ多シ  
 トス

又保險期間ノ短縮ト稱スルコトアリ即チ保險期間ノ滿了セサル前ニ契約ノ終  
 了スル場合ニシテ當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ爲シ得ルハ勿論ナレトモ或ハ契約ノ  
 失効解除ノ爲メ或ハ豫期セラレタル事故ノ發生又ハ豫期セラレサル事故ノ發生  
 ノ爲メニ保險ノ目的カ滅失スル場合ニ生スルモノトス但事故カ發生スルモ保險  
 金ノ一部ノミカ支拂ハレタル場合ニハ殘餘ノ金額ニ對シテハ保險者ノ責任尙存  
 續セルヲ以テ期間ノ短縮ハ起生セスト雖トモ殘餘ノ保險金至テ小部分ナルトキ  
 ハ特約ニ依リ之ヲ以テ期間ヲ終了セシムルコトアリ

### 第四節 保險料 (Premium, Premie)

短縮

保險料ノ  
要素以下  
スル所

保險契約ニ於テハ保險者ハ危險ノ引受ヲ爲シ相手方ハ之ニ對シテ保險料ヲ  
 拂フコトヲ約スルヲ以テ保險料ニ關スル事項ハ時トシテ保險契約者ノ義務ヲ論  
 スル場合ニ説明セラルト雖トモ保險料ハ宛ラ危險ノ反影ニシテ保險者カ危險ヲ  
 負フハ保險料ヲ得ルカ爲メニシテ其保險料ノ多寡ハ即チ渠ヲ契約ノ締結ニ決意  
 セシムルノ原因タリ故ニ予ハ之ヲ保險契約ノ要素トシテ危險ト相並ヘテ論述ス  
 ルヲ便利ナリトシ茲ニ之ヲ納メタリ

### 第一款 保險料ノ性質

保險料ノ  
性質上及  
ノヒ技術  
上ノ

保險料ハ經濟上及ヒ技術上ノ見地ヨリスルトキハ純保險料ト附加保險料トニ  
 部ヨリ成リ前者ハ共同ノ危險ヨリ生スル損害ノ填補ニ對スル各員ノ釀出分ニシ  
 テ其多少ト高低ハ危險ノ種類ト程度ニ由リテ定マラサルヘカラス後者ハ事務費  
 用ノ分擔額ニシテ是亦相當ノ道理ニ基キテ定メラレサルヘカラス故ニ保險契約  
 カ投機冒險ノ契約ニ非スシテ真正ナル保險契約タルニハ數理上ノ根據ヲ有スル  
 保險契約タラサルヘカラストノ論近來一部ノ學者間ニ於テ唱ヘラルルニ至レリ

例へハば「くす氏、ろいれんす氏」ノ如キ保險料ハ危險ニ相當シタル報酬ナリト言ヘリ然レトモ是レ保險料カ當ニ斯クアルヘシトノ理想ニシテ且危險ニハ本來ノ危險ノ外ニ人意的危險、數學的危險等ノ分子アリ其分量マテ盡ク正確ニ測定シテ定メラレタル保險料ニ非サレハ眞ノ保險料ニ非スト言ハハ到底保險契約ノ存在ヲ許スヲ得サルニ至ルヘシ故ニ法律上ハ是等ノ内容ヲ問ハスニ保險契約ニ於ケル危險引受ノ對價トシテ取扱ハレツツアルナリ然レトモ其經濟上ノ性質ハ法律ヲ解釋スルニ於テ之ヲ知ラサルヘカラス特ニ生命保險ニ於テハ保險料中ニ將來ノ危險ニ對スル時蓄分子ヲ包含シ商法ニ在リテモ例へハ第四百三十一條ニ「被保險者ノ爲メニ積立ツヘキ金額」ニ關スル規定アルカ故ニ是等ノ法文ヲ解スルニハ其經濟的技術的性質ヲ詳知セサルヘカラス

保險料ノ返還

保險料ハ危險引受ニ對スル報酬ナルカ故ニ保險者カ危險ノ引受ヲ爲ササルトキハ之ヲ請求スルヲ得サルモノニシテ商法第四百七條ニ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

ト規定シ又同第四百八條ニ

保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス  
ト規定セルハ保險者カ危險ヲ負擔セサルトキハ保險料ヲ請求スル能ハサルヲ示スナリ然レトモ一旦契約ヲ締結セル以上ハ之ニ關スル費用ヲ要シタルコトモ亦想像セサル可カラサルヲ以テ次ノ第四百九條ニ於テ

前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

ト定メタリ半額トハ立法者カ別段ノ標準ニ據ラス其見計ヲ以テ定メタル額ナルヘシト雖トモ所謂附加保險料ニ相當スヘキモノナリ

前節第三款ニ述ヘタル保險期間ノ中斷ノ場合ニ於テ保險者カ引受ケサル期間ニ對スル部分ノ保險料ヲ返還スルヲ以テ正當トスル場合ニ於テモ保險者ハ費用ノ見積額ヲ請求スルコトヲ得サル可カラス

然ルニ之ト權衡ヲ得サル規定アリ即チ商法第三百九十九條ニシテ  
保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善  
意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ  
返還ヲ請求スルコトヲ得

トアリ無効ナル契約ニ於テハ保險者ハ始ヨリ危險ヲ負擔セサルカ故ニ保險料ヲ  
取得スルヲ得ス既ニ受取リタルモノハ之ヲ返還セサルヘカラストスルハ正當ナ  
ルモ保險者ニモ亦惡意又ハ過失ノ有ラサリシ場合ニハ相當ナル契約費用ノ請求  
ヲ許スコト前掲第四百九條ニ於ケルカ如クスルノ必要ナキヤ一考セサルヘカラ  
サルナリ

### 第二款 保險料ノ不可分

一保險料ハ保險者カ危險ヲ負擔スル爲メニ受クヘキ報酬ニシテ保險料ト危險ト  
ハ保險契約ニ於テ因果ノ關係ヲ爲シテ存在スル缺クヘカラサル要素ナリ故ニ保  
險者ノ負擔義務カ分割スヘカラサルト同時ニ其權利モ亦分割スヘカラス保險料

保險料ト  
危險ノ關  
係

危險ノ不  
可分

ハ保險者ノ引受ケタル危險ノ容積ニ對スル分ヲ一時ニ授受スヘキモノトス故ニ  
一箇年ノ契約ヲ結ヒタルトキハ保險契約者ハ一箇年分ノ保險料ニ羈束セラレ一  
航海ノ契約ヲ結ヒシトキハ一航海ニ對スル保險料ニ羈束セラレルモノニシテ例  
ヘハ一月一日ニ一箇年間ノ火災保險契約ヲ締結シ一箇年分ノ保險料ヲ拂込ミタ  
ルトキハ三日ノ後ニ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ危險カ消滅スト雖トモ  
一旦拂込ミタル保險料ハ其幾部分ヲモ返還セラレサルモノトス  
此ノ如ク保險料ノ分割スヘカラサル法理ト習慣トハ第一危險ノ性質ヨリ來ル  
モノニシテ保險者ノ負擔シタル危險ハ一年ノ始ニ起ルヤ將タ最終日ニ起ルヤ固  
ヨリ不明ナリ保險者カ保險契約ヲ締結シテ或一定期間内ノ危險ヲ負擔シタル以  
上ハ其期間ニ踏込ムヤ否ヤ全責任ヲ負フモノニシテ保險者ハ此全責任ニ對スル  
報酬ヲ享受スルノ權利ヲ得サルヘカラスト故ニ縱令三日ノ後又ハ半年ノ後保險契  
約者カ其保險セラレタル利益ヲ拋棄スト雖トモ溯リテ保險者ノ負擔ヲ輕メ得タ  
リト言フヘカラサルナリ而シテ第二ニ保險ノ數學的原理ヨリスレハ一箇年ノ危  
險ハ其度ニ於テ始終同一ナラス例ヘハ火災ノ危險ノ如キハ一月ヨリ三四月頃マ

テ非常ノ高度ナレトモ五六月ヨリ八九月ニ至ルマテハ極テ低度ナリ而シテ十月ヨリ年末ニ至ルマテハ火災ノ稍頻繁ナラントスルノ候ナリ況ンヤ時々刻々ニ於ケル程度ニ至リテハ殆ント算定スヘカラサルナリ故ニ平均ヲ以テ定メラレタル一箇年ノ危険ノ度ハ之ヲ分割シテ考量スル能ハサルカ故ニ保險者ハ常ニ一箇年分ノ保險料ヲ請求セサルヘカラス此理ニ基キ一航海ニ對スル保險料モ亦分割スヘカラサルモノニシテ總テ契約セラレタル危険ニ對スル分ハ分割スヘカラサルナリ乏<sup>レ</sup>ヲ保險料不可分ノ原則ト稱ス

此原則ハ昔ヨリ保險法上ノ原則トシテ認メラルル所ナレトモ決シテ絶對的ノ真理ニ非ス數理上竝ニ事實上半年間ノ危険ハ一年間ノ危険ヨリ少ク三箇月ノ危険ハ更ニ少キコト明ナルカ故ニ保險料モ亦分割シテ考察スヘカラサルモノニ非ス現ニ保險業者ハ其營業ノ基礎トシテ一箇年分ノ保險料ヲ算出シ置キ之ヲ保險料ノ單位トシ一箇年ヨリ短キ期間ノ契約ヲ結フトキハ長短ノ比例ニ應シテ保險料ヲ分割シ季節ニ應シテ之ニ相當ノ割増ヲ爲シ之ニ依リテ契約ヲ締結セリ是レ保險料ノ單位ハ絶對的ニ分割ス可カラサルモノニ非サル道理ヲ示ス所ノ一例ニ

保險料ハ  
對的ニ  
不可分  
ルニ非  
スナリ

保險料ノ  
不可分  
ハ基礎  
ニ基キ  
テ契約  
スルニ  
タリ

シテ假ニ一箇年ノ契約ヲ締結シ半年ヲ經過シタル後保險契約者カ保險契約ノ解除ヲ請求シタリトスレハ數理上及ヒ純理上保險者カ危険ノ負擔ヲ幾分免ルルハ爭フヘカラサルコトニシテ從テ保險料ノ幾部分ハ返還セサル可カラサル理ナリ現ニ保險業者ハ自己ヨリ契約ノ解除ヲ申立タル場合ニハ殘餘ノ期間ニ對スル保險料ヲ日割ヲ以テ返還スト定ムルモノ少カラス又其會計上ノ實際ニ於テハ決算ノ際未タ經過セサル時日ニ對シテ保險料ノ一部ヲ未經過保險料トシテ積立ツルコトトシ此事ハ法律ヲ以テ強制セラルルニ至レリ(保險業法施行規則第十五條及第十七條)故ニ保險料不可分ノ原則ト言フハ昔時ノ保險者カ爲シタル取扱ニ基キテ法學者ノ立論シタル結果ニ外ナラスシテ決シテ之カ絶對的ノ真理ト言フヘキニ非ス數理上純理上保險者カ未タ經過セサル時日ニ對スル保險料ノ一部ヲ返還セサル可カラサル道理アリ又事實アリトスレハ是レ即チ所謂保險料不可分ノ原則カ法理上ニ於テモ既ニ業ニ陳套ニ歸シタル所以ニシテ保險ニ關スル計算上ノ知識カ世間一般ニ發達スルニ至リナハ保險料ハ寧ロ可分ナリトノ原則カ唱ヘラルルニ至ルヤモ知ルヘカラス此點ヲ以テ予ハ保險料不可分ヲ以テ絶對的ノ原則ニ非スト云フナリ

然ラハ現行法規ノ下ニ在リテハ如何ニ之ヲ解スヘキヤト言フニ直接ニ之ニ關スル規定ナシト雖トモ次款ニ説明スル所ノ第四百條ノ規定ヨリ類推スルトキハ危險カ途中ニ減少若クハ消滅スルトモ保險契約者ハ一旦拂込ミタル保險料ノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトセサル可カラズ而シテ此原則ハ實際多クノ保險會社ノ保險約款ニ現ハレ例ヘハ

保險料不可分約款

保險料ハ一箇年分ヲ前拂スヘキモノトス但當會社カ分割拂込ヲ承諾シタル場合ト雖トモ之カ爲メニ一箇年分ヲ請求スルノ權利ヲ妨ケララルコトナシト云フカ如キ條項ヲ設定セリ然レトモ實際ニ於テハ之カ行ハルル場合ト然ラサル場合トアリ例ヘハ生命保險ニ於テ保險料ノ毎月拂込ヲ承諾セラレ三箇月經過ノ後被保險者カ死亡セルカ如キ場合ニ保險者ハ拂渡スヘキ保險金ノ中ヨリ九箇月分ノ保險料ヲ差引ク便アルカ故ニ此原則ヲ實行シ得ヘシト雖トモ契約ノ解除其他ニ於テ保險契約者カ保險者ヨリ受取ルヘキモノ無キ場合ニハ保險者カ保險契約者ニ就テ未拂込分ヲ請求スルコトノ困難ナルカ故ニ殆ント之カ實行ヲ見サルナリ然レトモ是レ保險者カ任意ニ其權利ヲ拋棄シタルニ外ナラス若シ其權利

保險料可分ノ實行

ヲ行使セントナラハ無論之ヲ爲シ得ヘシ即チ保險契約者ニ返還スヘキ金目アル如キ場合ニハ之ヲ差引クコトヲ得之ナシトスルモ商法第四百十七條時効ノ規定ニ從ヒ一箇年間ハ保險契約者ノ支拂義務カ存留スルカ故ニ其期間内ニ相當ノ手續ニ依リテ請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ其他ノ保險ニ於テモ皆然リ外國ニ於テハ二回以後ノ保險料ヲ豫メ約束手形ヲ以テ拂込マシメ置クコトアリ此ノ如キ場合ニハ分割拂込ニ於ケルカ如キ問題發生セサルナリ

長期生命保險ノ保險料

實際ノ狀態已ニ此ノ如クシテ保險料ノ不可分論ハ日ヲ逐ヒテ其勢力ヲ失ヒ來リ現ニ保險者カ其約款ニ依リ又ハ其計算ノ基礎ニ基キ縱令一箇年分若クハ其ヨリ短キ契約期間ニ對スル保險料ニ就テ契約ヲ締結セル場合ニ於テモ中途ノ事故發生又ハ契約解除ニ際シテ未拂込保險料ヲ請求セス若クハ殘餘期間ニ對スル保險料ヲ返還スル特約ヲ結フモノ多キニ至レリ此趨嚮雖テ一步ヲ進ムル時ハ終ニ法律上ニ於テモ未經過保險料ヲ返還スルノ義務カ保險者ニ懸ルニ至ルヘキナリ死ツ其時期ニ達スルマテハ契約セラレタル期間ニ對スル保險料ノ不可分ナルコト前述ノ如シ然ルニ保險期間ハ契約ノ種類ニ由リテ長短區々タリ就中生命保

險ノ如キハ定期保險ト稱シテ僅ニ一箇年ヲ保險期間トスルモノ無キニ非サルモ例ヘハ養老保險終身保險ノ如キハ數十年ノ長期ニ亘ルヲ通常トセリ而シテ是等ノ場合ニ保險期間ヲ數十年ナリト解釋スルトキハ保險契約者ハ所謂保險料不可分ノ原則ニ依リテ全期間ニ對スル保險料ヲ支拂フノ義務ヲ負フモノナリトノ結論ヲ生セサルヲ得ス然レトモ從來保險料不可分ノ說ハ此ノ如キ程度マテ應用セラレス漸ク一箇年未滿ノ範圍ニ於テ論セラレ實際ニ於テモ斯ク取扱ハルル事實ナルヲ以テ長期ノ生命保險契約ハ一箇年宛ノ契約ヲ數年又ハ數十年間無條件ニ更新スルノ契約ナリト解スルモ可ナルヘク又此原則ノ例外ナリトモ説明スルヲ得ヘキナリ

### 第三款 保險料ノ増減

契約シタル保險期間ニ對スル保險料ノ不可分ナル原則ハ雷ニ事故發生契約解除危險消滅等ノ場合ノミナラス危險ノ減少セル場合ニモ之ヲ適用スヘシ例ヘハ横濱ヨリ長崎ニ至ル積荷ノ海上保險ヲ契約シタル場合ニ該積荷カ神戶ニ於テ陸

保險料ノ不可減

特別危險ノ消滅ニ對スル保險料ノ可減

揚セラレタル場合ノ如キハ神戶以西ノ危險カ忽チ消滅シタルニモ拘ハラズ保險契約者ハ保險料ノ返還ヲ求ムルコトヲ得サルト同シク神戶ヨリ一層安全ナル船舶ニ搭載セラレ危險減少スト雖トモ保險料ノ減額ヲ請求スルヲ得サルカ如シ是レ吾人カ商法第四百條ノ規定ヨリ類推シ得ヘキ所ニシテ同條ニ

保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

ト定メタルハ初ヨリ危險カ分割シテ算定セラレタル特別ノ場合ヲ想像シタルモノニシテ例ヘハ生命保險ニ於テ契約ニ際シ被保險者カ戰爭ニ赴クカ爲メニ特ニ高キ保險料ヲ以テ契約ヲ締結シタル場合ニ無事歸休ノ曉ニ其増加部分ノ撤去ヲ將來ニ向ヒテ請求スルコトヲ得ルノ意ナリ然ラハ此ノ如キ特別ナル場合ニ非サレハ保險料ノ減額ヲ請求スルヲ得サルモノト解釋セサルヲ得サルナリ然レトモ一定ノ保險期間ヲ經過シテ更ニ契約ノ繼續ヲ約セラレタル場合ニ更新保險料ヲ拂込ムニ際シテハ危險ノ減少ヲ理由トシテ保險料ノ減額ヲ請求シ得ルモノトセ

更新保險料ノ可減

サル可カラス何トナレハ是レ毫モ保險者ニ損害ヲ與フルノ虞ナケレハナリ  
 保險期間内ニ於ケル危險減少ハ上述ノ如ク認メラレサルヲ原則トスト雖トモ  
 之カ反對ナル危險ノ増加ハ明ニ保險者ノ責任ヲ重カラシメ其負擔ヲ大ナラシム  
 ルモノナルヲ以テ保險者ハ保險契約者ニ對シ保險期間内ト雖トモ保險料ノ増額  
 ヲ請求スルヲ得ルナリ但我商法ニ在リテハ第四百十條及ヒ第四百十一條ニ於テ  
 保險者ハ危險ノ變更増加ニ對シテ契約ノ失効又ハ解除ヲ主張シ得ル旨ヲ規定セ  
 ルヲ以テ保險料ノ増額ヲ請求シ得ルノ權利ハ問題タラサルモ通常保險者ノ任意  
 ニ之ヲ爲シ保險契約者ニ於テ之ニ應セサルトキハ法定ノ權利ヲ行使スルコトト  
 セリ

#### 第四款 保險料ノ拂込時期

保險料ハ契約ニ對スル報酬ナルカ故ニ契約ノ履行ヲ待チテ支拂ヲ爲スヲ當然  
 ト爲スヘキニ似タレトモ通常保險契約ハ締結ヨリ履行ニ至ルマテニ長キ期間ヲ  
 要スルコトト若シ保險料ヲ契約履行ノ後ニ授受スルトセハ保險契約者ノ不拂多

保險料前  
 拂ノ理由

カルヘキコト又危險發生ノ場合ニノミ拂込ミテ無事ニ危險ヲ通過シタル場合ニ  
 ハ拂込マサル憂アル等ノ事情ニ因リ實際ニ於テハ契約ノ締結ト同時ニスルカ又  
 ハ寧ロ第一回保險料ノ拂込ヲ以テ契約ノ成立スルモノト爲スヲ普通ノ習慣トセ  
 リ然レトモ我商法ノ規定ニハ保險料ノ實際支拂ヲ以テ契約成立ノ要件ト爲サス  
 當事者ノ一方カ之カ支拂ヲ約スルヲ以テ充分ナリトスルカ故ニ多數會社ノ保險  
 約款ハ第一回保險料ノ拂込ヲ以テ保險者ノ責任開始ノ時期ナリト規定セリ然レ  
 トモ法理上ヨリ言フトキハ保險料ノ支拂ハ契約成立ノ要件ニ非サルハ固ヨリ保  
 險者ノ責任開始ノ要件ニモアラス而モ實際ニ於テハ多クノ場合ニ於テ前拂ヲ普  
 通ノ習慣トシ我商法ニ於テモ保險契約ノ定義ヲ示スニ方リテハ之カ反對ヲ示ス  
 ニモ拘ハラス他ノ多クノ規定ハ保險料ハ當然前拂ニ依ルモノノ如ク起草セラレ  
 タリ例ヘハ第三百九十九條第四百八條及ヒ之ニ關係アル條項ノ如シ然レトモ保  
 險期間ノ比較的ニ短キ場合若クハ當事者間ニ信用ノ厚キ場合ノ如キニ於テハ保  
 險料ノ後拂亦少カラス例ヘハ日歩火災保險ノ如キ又ハ常得意ノ海上保險契約若  
 クハ再保險ノ如キニ於テハ契約滿了ノ後又ハ毎月末若クハ毎年末ノ勘定ヲ以テ

保險料後  
 拂ノ場合

保險料ヲ授受スルコトアルカ如シ

保險料ハ保險契約者カ之ヲ支拂ヒタル時ヲ以テ拂込マレタルモノト看做スヘキヤ又ハ保險者カ之ヲ領收シタル時ヲ以テ斯ク看做スヘキヤノ問題ノ發生スルコトハ他ノ契約ニ於ケルト同一ナリ我國ノ實際ニ付テ言ヘハ保險約款ニ於テ保險者ノ保險契約上ノ責任ハ第一回保險料ヲ領收シタル時ニ始マルト規定スルモノ多キカ故ニ此場合ニ於テハ議論ノ餘地無シト雖トモ若シ斯クノ如キ明約ナケレハ如何ト言フニ第一回保險料ニテモ亦其後期日毎ニ拂込ムヘキ保險料ニテモ保險契約者カ單純ニ保險料支拂ノ義務ヲ履行セハ可ナル場合又ハ其他ノ條件アラハ之ヲ滿シタル場合ニ於テ予ハ發信主義ヲ以テ至當ナリト信ス勿論我民法ハ發信主義ヲ採用セルカ故ニ實際疑問ナカルヘシト雖トモ保險契約ニ就テハ理論上特ニ發信主義ヲ採ラサルヘカラスト思惟スルナリ何トナレハ保險契約者カ保險料ヲ拂込ムハ保險者カ個々ニ若クハ包括的ニ之カ受領ヲ諾シタル後ニ起ルコトニシテ保險者ハ特別ナル理由アル外之カ受領ヲ拒ムヲ得サルヲ普通ト爲スカ故ニ少クトモ此普通ノ場合ニ於テハ保險契約者カ其手ヨリ保險料ヲ發シタルト

保險料ニ關スル發信主義ト受信主義ト

保險料ニ關スル發信主義ト受信主義ト  
 保險料ニ關スル發信主義ト受信主義ト  
 保險料ニ關スル發信主義ト受信主義ト

第二回以後ノ保險料拂込ノ逆意ニ對スル效果

キヲ以テ拂込カ行ハレタリト解セサルヘカラサレハナリ保險料カ往々郵便ニ依リテ發送セラレ又近時振替貯金ニ依リテ拂込マルルコトアリ前者ニ在リテハ郵便ヲ發シタルトキ後者ニ在リテハ振込タルトキヲ以テ保險料ノ拂込カ行ハレタリトスヘキナリ

保險料拂込ノ期日ハ第一回分ニ就テモ往々之カ保險者ニ依リテ指定セラルルコト無キニ非サルモ通常ハ保險者カ保險契約者ノ申込ヲ承諾シタル後ニ於テ保險契約者ノ隨意ニ拂込ムコトトシ之ト同時ニ保險者ノ責任カ始マルモノトスルコト多シ然レトモ更新保險料及ヒ分割拂込ニ於ケル第二回以後ノ保險料ハ必ス契約ニ於テ定メラレタル期日毎ニ拂込ムヘキモノニシテ其拂込カ忘ラレタル場合ニ於ケル效果如何ト言フニ之ニ就テ二様ノ說アルヘシ予ハ保險料ヲ以テ保險契約ノ要素トシ從テ契約シタル期日ニ保險料ノ拂込マレサルコトハ保險契約者カ保險ノ利益ヲ享受セントスルノ意思ナキモノニシテ保險者ハ之ニ因リテ危險ノ負擔ヲ免ルルモノト解スル者ニシテ舊商法ニ於テモ保險料カ契約ノ期間ニ拂込マレサル場合ニハ保險者ハ契約ニ羈束セララルルコトナシト規定シ又生命保險



ノ節ニ於テ保險料ノ不拂ハ保險者ニ於テ之ヲ契約解除ノ豫告ト看做スコトヲ得ト規定セルモ新商法ハ全ク是等ノ規定ヲ删除シ保險料ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ對スル效果ヲ明言スルコト無シ而シテ予ハ是レ當然ノ事態ナルカ爲メニシテ何等明文ナクトモ期日ニ於ケル保險料ノ不拂ニ因リテ契約ハ其效力ヲ失フモノト解スルナリ然ルニ他ノ一説ハ保險料ノ不拂ハ保險者ノ保險義務ニハ關係ヲ有セス保險義務ハ依然トシテ繼續シ保險料ノ不拂ニ對シテハ之ニ關スル別種ノ債權カ保險者ノ方面ニ發生スルニ過キスト言フニアリ保險料ヲ保險契約ノ要素ト看做サス危險ト保險料トカ互ニ表裏因果ノ關係ニ於テ存スルト云フコトヲ承認セサル學者ニ在リテハ或ハ此ノ如キ結論ニ達スヘシト雖トモ予ハ之ヲ採ラス而シテ實際ニ在リテハ多クノ保險會社ノ約款ニハ保險料ノ延滞ヲ以テ契約失效ノ原因ト爲ス旨ヲ明記セリ

猶豫期間

契約セラレタル期日ニ於ケル保險料ノ不拂ヲ保險契約失效ノ事由ト爲スコトハ前記ノ如クナリト雖トモ實際之ヲ履行スルトキハ被保險者ニ對シテ甚殘酷ナル結果ヲ惹起スルコトアリ即チ保險契約者カ契約ヲ解除セント欲スルニモ非ス止ムヲ得サル事情若クハ單純ナル過失ノ爲メニ期日ヲ經過スルコト決シテ無キニ非ス此場合ニ於テ直チニ保險契約ノ效力ヲ失ハシメ即チ被保險者ヲシテ忽チ保險上ノ利益ヲ失ハシメ多年ノ耐忍ト希望トヲ水泡ニ歸セシムルハ人情ヲ酌マサルノ所業ナルヲ以テ保險社會ノ習慣トシテ通常猶豫期間ナルモノヲ設定シ正當期日ヲ經過シタル後ト雖トモ該期間内ニ保險料ヲ拂込ムニ於テハ正當期日ニ拂込ミタルモノト看做スコトトセリ此習慣ハ獨リ泰西諸國ニ於ケルノミナラス我國ニ於テモ普ク實行セラルル所ノモノナリ而シテ此設定セラレタル猶豫期間ハ通常之ヲ左ノ二種ニ別ツコトヲ得

第一ノ猶豫期間

第一ハ單純ナル保險料拂込猶豫期間ニシテ其間ニ拂込マレタル保險料ハ全然正當期日ニ拂込マレタルモノト看做サルナリ之ヲ換言セハ正當拂込期日カ到達スルトキハ保險契約者ハ當然保險料ニ相當スル金額ニ對スル債務ヲ負フモノニシテ猶豫期間ハ契約ノ效力ニ影響セスシテ只此債務ノ辨濟ニ猶豫ヲ與フルノミナリ此期間ニハ恩惠期間榮譽期間保險料拂込猶豫期間等ノ名アリ性質上絕對的ノ猶豫期間ニシテ其間ニ事故發生スルトキハ保險者ハ契約上ノ責任ヲ果スヘ

キモノナレハ保險期間ノ延長トモ説明セラルルナリ此期間ノ長短ハ保險者ノ隨意ニ定ムル所ナリト雖トモ火災保險ニ於テハ通常十五日ヲ附與シ生命保險ニ在リテハ三十日ヲ許スコト多ク其他ノ保險種類ニ於テモ亦之ニ類似ノ規定アリ然レトモ保險期間ノ短キニ過キタル契約ニハ通常之ヲ與ヘスシテ一箇年以上ニ亘ル契約ニ對シテ與フルヲ普通トス我國ニ於テハ以前ハ火災保險業者モ更新保險料ノ拂込ニ對シ一週間ノ猶豫ヲ與フルノ習慣アリシカ數年前ヨリ全ク之ヲ廢シ獨リ生命保險會社カ通常三十日ノ期間ヲ設定スルノミ而シテ延滞保險料ニ對シテ利息ヲ徵收スルノ規定多クノ約款ニ掲ケラルルト雖トモ實際之カ勵行セラルルコトナキカ如シ

第二ノ猶豫期間

第二ノ猶豫期間ハ實質上稍制限セラレタル猶豫期間ニシテ通常生命保險ニ於テ第一種ノ期間ノ上ニ更ニ附與セラルル所ノモノナリ即チ此期間ハ一旦效力ヲ失ヒタル契約ヲ回復シテ將來ニ進行セシムル所ノモノニシテ危險カ未タ發生セサル場合ニ於テノミ契約ノ繼續ヲ許スモノナリ此期間ハ又回復期間ト稱シ其相手方ニ對スル恩惠ハ保險契約者ヲシテ單ニ解約ノ損失ヲ免レシムルニ過キサ

休日及ヒ大祭日

カ故ニ保險者ハ比較的ニ長期間ヲ之ニ與ヘ例ヘハ第一種ノ猶豫期間經過後尙二箇月間ニ保險契約者カ保險料及ヒ延滞利息ヲ拂込ムニ於テハ契約ノ回復ヲ承諾スルコトトセリ而シテ此場合ニ被保險者ノ生存セル事實ヲ以テ足レリトセス其健全ナルコトヲ條件トスル旨ヲ規定セル約款アリ此ノ如キ回復期間ハ恩惠ノ程度少キモノト言ハサルヘカラサルナリ(猶豫期間ニ就テハ拙著保險論集第三二頁乃至第三七〇頁參照) 拂込期日カ休日又ハ大祭日ニ際シタルトキハ當然一日ノ猶豫アリト謂ハサルヲ得ス即チ大祭日又ハ日曜日ハ一般ノ休日ト謂フコトヲ得スト雖トモ少クトモ保險者ハ店舗ヲ閉チテ休業スルノ日ナレハ此休業日ニハ保險者ハ保險契約者ニ對シテ保險料ノ拂込ヲ強制スルヲ得ス獨逸商法第三百二十九條ハ明ニ之ヲ定メタリ而シテ我國ニ於テハ民法第四百四十二條ニ據リテ斯ク解釋セサルヘカラサルナリ

保險料ノ支拂ハ持

### 第五款 保險料ノ拂込場所

保險料拂込ノ場所モ亦當事者ノ合意ニ由リテ定ムヘキモノナレトモ特別ノ意

思表示ナケレハ營業保險ニ在リテハ保險者ノ營業所即チ保險會社ノ本店へ拂込ムヘキモノトス何トナレハ保險契約ハ少クトモ保險者ノ方面ヨリシテ商行爲ニシテ一方ニ對シテ商行爲ナラハ之ヲ商行爲トスヘキカ故ニ商法第二百七十八條ノ規定ニ據リ債權者ノ營業所ニ就キテ支拂フヘキモノナレハナリ而シテ支店ト契約ヲ締結シタル場合ニハ同條第三項ニ依リテ之ニ就キ支拂フヘク又會社カ代理店ヲ設ケテ之ニ保險料ノ受取ヲ委託セル場合ニハ又之ニ拂込ムヲ以テ足レリトス而シテ相互保險ニ在リテハ別段ノ合意ナケレハ民法ノ規定ニ依リ債權者ノ住所即チ保險會社ノ本店ニ拂込マサルヘカラス故ニ保險料ハ原則トシテハ持參債務ニシテ尙保險業者ハ通常其保險約款ヲ以テ之ヲ明定セリ然ルニ實際ニ於テハ我國ニ於テモ亦外國ニ於テモ保險會社カ集金人ヲ派遣シ保險契約者ニ就テ之ヲ請求スルノ習慣アリ約款其他ノ文言ヲ以テ保險者カ之ヲ明約シタルトキハ勿論取立債務ト爲ルヘキモノナレトモ然ラサル場合ニハ此習慣ノ爲メニ疑義ノ發生スルコト少カラス例ヘハ集金人カ拂込期日ニ保險契約者ヲ訪問セサリシカ爲メニ保險料ノ拂込カ延滞ニ歸シ時ニハ猶豫期間ヲモ經過シテ被保險者カ死亡シ

タル場合ノ如キニ在リテ保險者ハ契約ノ失效ヲ主張シテ保險金ノ支拂ヲ拒ミ被保險者側ハ延滞ノ責ヲ保險者ニ歸シテ保險金ノ支拂ヲ促スヘシ然レトモ卑見ヲ以テスレハ我國ニ於テ保險者カ集金人ヲ派シテ保險料ヲ徵收セシムル習慣ハ未タ約款ノ明約ヲ打消スヘキ商慣習ト言フヘカラサルモノニシテ唯保險者カ其營業ノ利便上即チ主トシテ保險料ノ延滞ヲ防キ契約ノ失效解除ヲ減少セシメンカ爲メニスル行爲ニシテ之ニ拘束セラルヘキモノニ非ス何トナレハ保險者ヲシテ必ス期日ニ於テ保險契約者ニ就テ之ヲ請求セシムルコトハ數多ノ保險契約者ヲ有セル保險者ニ對シテ之ヲ強ユルコトノ頗ル苛酷ナルト同時ニ期日ニハ保險契約者カ必ス自宅ニ在リテ保險料ヲ用意シ居ルモノト假定セサルヘカラス而モ事實ハ之ニ反シ保險契約者ハ通常此用意ニ乏シクシテ或ハ不在或ハ都合不良等ノ口實ノ下ニ再三集金人ヲシテ足ヲ運ハシムルノ狀況ナリ而モ保險者カ尙之ニ羈束セラルト言ハンカ何人モ其不公平ナルヲ覺ルヲ得ヘキナリ故ニ保險料ハ保險契約者ヨリ約定ノ期日ニ拂込マサルヘカラサルモノニシテ幸ニ集金人來ランカ之ニ交付スルノ便アリト雖トモ猶豫期間モ將ニ經過セントシテ尙集金人來ラ

サレハ集金人ノ派遣ヲ督促シ若クハ自ラ保險料ヲ持參シテ拂込マサルヘカラサルナリ

集金ニ關  
スル最近  
ノ判例

然ルニ先頃之ニ關シテ顯著ナル爭訟發生シ集金ノ習慣ハ商慣習ト言フ能ハストスルモ保險者カ數回繰リ返シテ集金セシメタルトキハ取立債務タルノ默約成立セルモノナリトノ判決アリ又保險者カ猶豫期間ヲ經過シテ尙保險料ヲ領收シタルコト數回ニ及ヘルトキハ保險料ノ延滞ヲ默認シタルモノナリトスルノ意見アリ若シ之ヲ正當ナリトスルトキハ保險者ハ此點ニ於テ少カラサル危險ニ臨メリト言ハサルヘカラサルナリ(守屋甲子對内國生命保險株式會社事件)

## 第四章 保險契約ノ關係者

### 第一節 保險者 (Assurer or Insurer, Versicherer, Assureur)

保險契約ニ於ケル當事者ノ一方ヲ保險者ト稱ス即チ保險契約ニ依リテ損害填補ノ責ニ任シ若クハ保險金支拂ノ責ニ任スル者ニシテ其權利義務ノ詳細ハ次章ニ記述スヘント雖トモ今其資格ニ就テ言フナラハ昔ハ之カ一個人ナルト會社若クハ組合ノ如キ團體ナルトヲ問ハス殊ニ海上保險業者ニハ一個人ノ保險者少カラス現ニ英國ニ於テハるいづ組合ニ屬スル一個人ノ保險者アリト雖トモ此ノ如キ歴史的產物ヲ除キテハ現今世界各國ノ法律ニ於テ一個人ノ保險業者ヲ認許セズ而シテ保險契約ハ事實上同一ノ保險者カ多數ノ保險契約者ト同種若クハ類似ノ契約ヲ締結スルニ於テ存在セルカ故ニ保險者ハ皆保險業者ニシテ現今我邦ニ於テハ之カ株式會社ト相互會社ニ限定セラルルナリ獨逸ニ於テハ此二者ノ外相

個人ノ  
保險者

互保險組合ヲ許セリ而シテ是等ノ會社又ハ組合ハ其目的ニ於テハ營利的タルト相互的タルトノ別アリト雖トモ法律上ノ形態ニ於テハ保險者ノ地位ニ在ルモノナリ

會社又ハ組合

此ノ如ク保險者カ會社又ハ組合ノ如キ法人ニ非サレハ不可ナリトセラレル理由ハ營利的ナル保險者ニ就テハ之カ多數ノ保險契約ヲ締結シテ廣ク長キ責任ヲ負フ者ナルカ故ニ命數ニ際限アリ資力ニ變動アル一私人ヲ以テハ之ヲ營ムニ適當ナラス自己ノ利益ト共ニ社會ノ福利ヲ進ムヘキ公共的ノ法人即チ株式會社ニ限ルト爲シタルモノニシテ而シテ相互組織ノ保險團體ニハ契約上ノ關係ニ於テ保險者ノ地位ニ立ツヘキ者ヲ要スルヨリシテ特ニ相互會社ナル形式ヲ認メ之ニ法人格ヲ附與シタルナリ

保險業法

右ノ如キ資格上ノ制限ノ外諸國ノ立法ニ於テ頗ル綿密ナル要求アリ多クハ保險業法又ハ保險會社法ト號クル特種ノ法律ニ依リテ規定セラレ我國ニ於テモ明治三十三年七月一日ヨリ施行セラレタル保險業法アリ保險事業ヲ營ムニハ株式會社及ヒ相互會社ニ限ルトスル外之ヲ爲スニ付テ主務官廳ノ免許ヲ要シ他ノ事

業トノ兼營ヲ許サレヌ殊ニ生命保險會社ハ他種ノ保險ヲ兼營スルヲ得ス資本金額ノ最低ヲ限定セラレ其他諸種ノ監督ニ服シ特別ノ制裁ヲ被ル等ノ重要ナル事項アリ予カ保險法ヲ講スルニ當リテハ保險業法論中ニ之ヲ説明スルヲ例トセシカ本書ハ彙ニ述ヘタル如ク保險契約ニ關スル論述ヲ專ラニスルヲ以テ茲ニハ之ヲ省ク

### 第二節 保險契約者 (Versicherungsnnehmer)

保險者ノ對手

保險契約ヲ締結シテ保險者ヲシテ危險ノ引受ヲ爲サシメント欲スル者ハ被保險利益ヲ有スル者タルヘキハ自然ノ結果ニシテ當初ハ此者カ自ラ保險契約ノ當事者ト爲リ保險者ノ對手ト爲リテ保險契約ヲ締結シタリ此時代ニ在リテハ保險者被保險者ノ名稱ハ恰モ原告被告加害者被害者ト言フカ如ク對手關係ヲ示スモノトシテ存在セリ然ルニ社會交通ノ發達ニ伴ヒ或場合ニ於テハ被保險者自身カ契約ノ締結ニ關係セスシテ他人カ契約ヲ締結スルヲ便利トスルコトアリ例ヘハ自身利益ヲ有セサルモ此利益ニ關スル物件ヲ保管シ使用シ又ハ之カ質權者其他

類似ノ關係ヲ有スル者ニシテ被保險者ノ爲メニ該利益ヲ保護セントスルコト屢之アリ又ハ事務管理ノ爲メ或ハ全ク好意思惠ノ心ヲ以テ他人ノ利益ヲ保險セントスル者アリ此ノ如キ意思ト好意ハ社會ノ財産ヲ保全シ人々ノ間ニ存在スル信用ト情誼トヲ進ムル等ノ爲メニ嘉スヘキ事實ナルヲ以テ之ヲ禁スヘキニ非サルハ固ヨリ進ンテ之ニ對スル法律的關係ヲ明ニスルノ必要上新ナル名稱ヲ作り此ノ如ク他人ノ爲メニ保險契約ヲ締結スル者ヲ保險契約者ト稱スルニ至レリ而シテ此名稱ノ生シタル上ハ總テノ場合ニ於テ保險者ノ相手方トナル者ヲ保險契約者ト稱スルヲ以テ文字ノ一致ヲ得ルモノト言ハサルヘカラス是ニ於テカ現今ニ於テハ他人ノ爲メニスルト自己ノ爲メニスルトト問ハス保險者ニ對シテ保險契約ヲ締結スル者ヲ保險契約者ト稱スルニ至レリ例ヘハ倉庫業者カ其保管スル所ノ貨物ニ就キテ火災保險ノ契約ヲ締結スルニ當リ自己カ之ニ就テ有スル責任ノ關係ヲ被保險利益トシテ契約スルトキハ是レ保險契約者カ自己ノ爲メニスル場合ナルカ貨物ノ所有者カ該貨物ニ付キテ有スル利益ヲ目的トシテ契約スルトキニハ所有者カ被保險者ニシテ保險契約者タル倉庫業者ハ他人ノ爲メニ契約ヲ締

結シタルナリ

我商法ニ於テハ保險契約者カ契約ノ當事者ナリトノ明文ハ存セサルモ第四百一條ニ

保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

トアリ之ト第三百八十四條及ヒ第四百二十七條ノ報酬即チ保險料ヲ支拂フコトヲ約スル者ヲ保險者ノ相手方トスル文詞ト照應シテ斯ク解釋スルコトヲ得且實際ニ於テハ現今一般ニ此用語ニ依レリ斯ク保險契約者ハ契約ノ當事者タルカ故ニ一般ノ契約ヲ締結スル能力アル者ナラサルヘカラス法律上ノ無能力者ハ保險契約者タルヲ得ス彼等ノ締結シタル契約ハ民法ノ規定ニ依リテ無効又ハ取消シ得ヘキモノトス然レトモ保險契約中生命保險ハ一般人類ノ生存竝ニ社會ノ繁榮ノ爲メニ必要ナル行爲ニシテ同時ニ之ニ對スル保險料ヲ負擔スルコトハ少額ナル貯蓄ヲ爲スカ如キモノニシテ元本ヲ處分運轉スルカ如キ大事件ニ非サルヲ以テ法律上ノ無能力者ニモ保險契約者タルコトヲ許ス立法例アリ例ヘハ妻カ夫ノ

保險契約者ノ資格

生命保險ニ於ケル特例

其結婚財  
產法

保險契約  
上ノ地位

許諾ヲ經ス又未成年者カ後見人ニ依ラスシテ自ラ契約ヲ締結スル場合ノ如キ多クノ外國ニ於テハ特別法ヲ以テ之ヲ認ムルコトトセリ例ヘハ英國ニ於テ既婚婦財產法 (Married Women's Property Act 1882) ヲ以テ前者ヲ保護シ又妻ハ自己又ハ夫ノ生命ニ付キ其別産トシテ保險契約ヲ締結スルコトヲ得ル旨規定スルカ如シ我國ニ於テハ未タ是等ノ特別法ナキニ依リ無能力者ノ締結セル保險契約ハ取消サルルノ危險アルヲ以テ保險者ハ之ヲ締結セサルナリ

保險契約者ハ前述ノ如ク保險行爲利用ノ擴張ヨリシテ比較的新ニ發生シタルモノナルヲ以テ其法律上ノ地位ニ就テハ議論少カラスト雖トモ要スルニ之ヲ以テ被保險者ノ代理人ナリトスル說ト第三者ノ爲メニ保險契約ヲ締結スル者ナリトスルノ二說ニ歸スルカ如シ然レトモ代理人ナラハ契約上ノ權利義務トモニ之ヲ有スヘカラサルニモ拘ハラズ保險契約者ハ保險料支拂ノ義務ヲ負ヒ又獨立シテ保險契約ヲ解除シ(商七條四)又積立金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ル(商四二)カ如キ權利ヲ有セリ故ニ代理人ナリトノ說ハ有力ナラサルナリ而シテ他人ノ利益ノ爲メニスルモノナリトノ說ハ沿革上ノ事實ヨリ推スモ亦現今ノ法律ノ形式上ヨリ論

スルモ最根據アルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ保險契約者ナルモノハ保險契約ニ特有ナル發生ト沿革ヲ有スルコト前述ノ如クナルヲ以テ之カ第三者ノ爲メニ契約ヲ締結スルモノトスルモ必シモ民法ニ所謂第三者ノ爲メニ契約ヲ締結スルモノト全然同一ノ圈内ニ在ルモノト解スヘカラス即チ我民法第五百三十七條第一項ニ

契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ストアルハ直チニ之ヲ保險契約ニ適用スルヲ得ヘント雖トモ同條第二項ニ前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ストアル規定ハ保險契約ノ場合ニ適用セラレズ即チ商法第四百二條ニ左ノ規定アリ

保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險

者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

即チ被保險者ハ受益ノ意思ヲ表示スルヲ要セスシテ直チニ給付ヲ受クルノ權利ヲ取得スルモノトス。而シテ本條ニ「保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ」トアル文字ヨリ推セハ我商法ハ保險契約者カ又被保險者ノ委任ヲ受ケテ保險契約者タル場合アルカ如ク想像セラルルモ實際ニ於テハ此ノ如キ場合アルコト無シ是レ保險契約者タルノ資格ハ契約ノ能力ヲ有スヘキ外何等要求セラルル所無キカ故ニ委任ノ問題ハ發生セス殊ニ之カ爲メニ保險契約者ヲ被保險者ノ代理人ナリト解セシムル恐アルヲ以テ我商法ノ「委任ヲ受ケスシテ」ナル言語ハ其文字ニ多ク拘泥シテ解スヘカラス。又法者カ之ニ依リテ保險契約者ノ地位ヲ説明シ之カ被保險者ノ依頼ヲ受ケタルニモ非ス又承諾ヲ得タルニモ非スシテ任意ニ契約ヲ締結シタル場合ニ之カ他人ノ爲メニスルモノタルヲ告白セスシテ自ラ給付ヲ受ケントスルカ如キ危險ヲ防止セント欲スルノ規定ナリト解釋スヘキナリ

前掲商法第四百一條損害保險ノ規定ハ生命保險ニモ準用セラルルニモ拘ハラヌ第四百二條ノ然ラサルハ生命保險ニ於テハ次節ニ示スカ如ク保險ノ目的カ被保險者ニシテ通常保險者ハ危險測定ノ爲メニ其身體ヲ検査スルヲ以テ被保險者ノ知ラサル間ニ契約ノ締結セラルルコト稀ナルト同時ニ生命保險ニ於テハ契約ノ際利益享受者ヲ定ムルヲ例トスルヲ以テ實際第四百二條ノ如キ規定ヲ設クルノ必要ヲ見サレハナリ

### 第三節 被保險者 (Assured or Insured. Versicherten.)

被保險者ノ地位

被保險者ハ以前ハ保險者ニ對シテ當事者ノ一方ナリシカ今ヤ保險契約者ナル名稱ノ發生ヲ見ルニ及ヒ被保險者ハ契約ノ當事者タラサルニ至レルモ而モ保險契約ニ缺クヘカラサル關係者ニシテ保險契約者自身カ被保險者タルコトアリ又他人カ被保險者タルコトアルハ前節ニ述ヘタル如クナルカ被保險者トシテ具備セサルヘカラサル資格ハ保險契約者ノ如ク契約能力ヲ有スルヲ要セス即チ能力者タルト未成年者タルト有夫ノ婦タルト禁治産者タルト間ハス苟モ保險セラレヘキ利益ヲ有スル者ハ何人ニテモ被保險者タルヲ得ルモノトス。而シテ如何ナ



損害保險  
ニ於ケル  
被保險者  
ト其保險  
トケルニ於  
保險者ト保  
差險者ト保

ル場合ニ吾人カ被保險利益ヲ有スルヤハ曩ニ第三章中ニ詳述シタルハ茲ニ之ヲ  
贅セスト雖トモ特ニ注意ヲ要スルコトハ損害保險ニ於ケル被保險者ト其他ノ保  
險ニ於ケル被保險者トハ契約上ニ於ケル地位全ク異ナル場合アルコトナリ  
即チ損害保險ニ於ケル被保險者ハ必ス常ニ利益ノ享受者ニシテ事故ノ發生ニ  
方リテ損害ノ填補ヲ受クル者ナリト雖トモ疾病保險傷害保險等ニ在リテハ被保  
險者カ罹病若クハ負傷ニ因リ治療ヲ要シ若クハ不具癘疾ト爲レル場合ニハ被保  
險者自身ヲ以テ給付ヲ受クルモノトスルモ疾病又ハ負傷ノ爲メ死亡シタル場合  
ニ給付スヘキ金額ハ相續人若クハ契約ニ於テ定メラレタル受取人ニ拂渡スコト  
トセリ此場合ハ是レ利益ノ享受者カ被保險者以外ニ存スル場合ナリ生命保險ニ  
於テモ亦然リ養老保險ニ於テ被保險者カ豫定ノ年齢マテ生存シタル場合ニハ自  
ラ保險金ヲ受取リ死亡シタル場合ニハ別ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ受取ラシム  
ルハ利益享受者ヲニスルモノニシテ生存保險ト死亡保險ニ就テハ取扱ノ異ナ  
レルヲ知ラサルヘカラス

死亡保險  
ニ於ケル

而シテ死亡保險ニ於テ利益ノ享受者ヲ被保險者以外ニ設クルコトハ死亡保險

利益享受  
者

ノ當然ナル性質ヨリ來ルモノニシテ人ハ自己ノ身體上ノ損傷ノ爲メニ自己ノ利  
益ヲ喪フコトハ素ヨリ想像セラルヘキモ死亡シタル場合ニ自ラ之カ回復ヲ得ン  
コトハ自然的不可能事ナルヲ以テ此場合ノ利益享受者ハ相續人又ハ其他ノ指定  
セラレタル者ナラサルヲ得ス是ニ於テカ死亡保險ニ於ケル被保險者ナルモノハ  
生存保險又ハ損害保險ニ於ケル被保險者ト其地位ヲ異ニシ恰モ火災保險ニ於ケ  
ル家屋ノ如ク保險ノ目的又ハ客體タルニ過キス法語ニ之ヲ (est un que vic) ト稱ス故  
ニ若シ生命保險モ亦一種ノ被保險利益ヲ保險スルモノナリトスルナラハ死亡保  
險ニ於ケル被保險利益ハ相續人又ハ指定セラレタル利益享受者カ被保險者ノ生  
命ニ就キテ有スル所ノ利益關係ナリト解セサルヘカラサルナリ

#### 第四節 保險金受取人 (Beneficiary, Begünstigte)

前節ニ述ヘタル如ク被保險者ノ死亡ニ際シテ保險金ノ支拂ヲ爲ス所ノ保險ノ  
種類即チ死亡保險ニ在リテハ被保險者自身カ保險金ヲ受取ルコト不可能ナルヲ  
以テ別ニ之ヲ受取ルヘキ者ヲ定ムルノ必要生ス之ヲ保險金受取人ト稱シ我商法

保險金受  
取人ノ必

ニハ之ヲ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト言ヘリ即チ同第四百二十八條ニ  
 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス  
 トアリ此人格ノ存在ヲ以テ生命保險契約ニ特別ノモノトセリ而シテ此規定ハ生  
 命保險全體ニ對スルモノナルカ故ニ死亡保險タルト生存保險タルノ區別ヲ論セ  
 ス適用スヘキモノナリ前ニモ述ヘタル如ク被保險者以外ニ保險金額ヲ受取ルヘ  
 キ者ヲ要スルハ本來死亡保險ノミニシテ生存保險ニ於テハ其必要少シト謂ハサ  
 ルヘカラス而モ商法ノ規定カ此ノ如クナルハ死亡保險ト生存保險ノ區別ヲ顧慮  
 セサリシニ因ルカ將又生存保險ニ於テモ被保險者以外ニ保險金受取人ヲ定ムル  
 コトヲ得セシムルヲ以テ適當ナリト思惟シタルニ因ルヤ知ルヘカラサルモ此法  
 文ノ解釋上ヨリスレハ生存ノ場合ト雖トモ被保險者以外ノ者カ受取人タルヲ得  
 ルトセサルヘカラス例ヘハ養老保險ノ如キ被保險者カ一定ノ老齡ニ達シテ保險  
 金ノ支拂ヲ受クルニ當リ自ラ之ヲ受取リ得ルハ勿論其子又ハ其他ノ親族カ之ヲ  
 受取ルコトヲ妨ケサルカ如キ是ナリ殊ニ教育結婚資金保險ノ如キニ在リテハ被  
 保險者自身ヲ受取人トスルヨリハ父兄ヲ受取人タラシムルヲ以テ寧ロ便益トセ

生存保險  
ニ於ケル  
保險金受  
取人

サルヘカラス是ニ於テカ生命保險ニ於テハ一般ニ被保險者以外ニ保險金受取人  
 ナル名稱ヲ缺クヘカラサルニ至レルコト第一般保險契約ニ於テ被保險者以外ニ  
 保險契約者ナル名稱ヲ缺クヘカラサルニ至レルカ如クナルニ及ヘリ

然レトモ生命保險ニ於テハ必ス被保險者ト相違ンテ保險金額ヲ受取ルヘキ者  
 ヲ指定セサルヘカラサルヤト言フニ然ラス我商法第四百三十條第三號ニモ  
 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者ト  
 ノ親族關係

ナル文字アリ即チ契約ノ當時ニ之ヲ定メストモ性質上當然ノ理由若クハ推定ニ  
 依リテ決定スルヲ得レハ足レリ即チ生存保險ニ在リテ保險金受取人ノ指定ナケ  
 レハ被保險者自身ヲ以テ受取人トシ死亡保險ニ於テ指定セラレサレハ相續人ヲ  
 以テ受取ルヘキ者ト看做スヲ得ヘキナリ

志田博士ハ拙著ノ批評中ニ「生命保險證券ハ無記名式ニテ之ヲ發行スルヲ得ヘ  
 ク唯其所持人ハ商法第四百二十八條ノ規定ノ範圍内ノモノニ限ルトノ制限アル  
 ノミ又損害保險證券ト雖トモ尙記名ノ形式ノ外ニ指圖若クハ無記名ノ形式ニテ

無記名式  
生命保險  
證券ノ說

發行スルヲ妨ケス唯其所持人ハ當該被保險利益ヲ有シ且保險契約上ノ權利ノ讓渡ヲ受ケタルモノニ限ルトノ制限アルノミ云々ト述ヘラレタレトモ我國ニ於ケル現時ノ思想ヨリスレハ此ノ如キ説明ハ寧ロ奇矯ニ走リテ立法ノ趣意ニモ協合セサルノ感ナキ能ハス我商法ニ於テモ保險證券ハ保險契約ノ成立ニ必要ノモノナラサルハ固ヨリ之ヲ發行スルコトハ保險契約者ノ請求ニ基クモノニシテ即チ同第四百三條ニ

保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ストアリ保險契約者カ之ヲ請求セサレハ之ヲ交付セスシテ單ニ保險料ノ領收證ヲ以テスルモ又ハ其他ノ書面ヲ以テスルモ要スルニ保險契約ノ成立ヲ證明スレハ足レリ從テ保險者ハ通常其事業上ノ體裁ヲ備ヘ相手方ノ信用ヲ博センカ爲メニ美麗ナル證券ヲ發行スト雖トモ其紛失再交付等ニ就テモ更ニ複雑ナル形式上ノ手續ヲ要求セス又保險契約ノ解除解約拂戻金等ノ語アレトモ未タ外國ニ於ケルカ如ク保險證券ノ糶賣又ハ買戻價格等ノ語ヲ見ス即チ契約本位ニシテ證券本位ニ非ス之ヲ一種ノ有價證券ノ如クニ看做シテ記名式無記名式又ハ指圖式等ノ語

保險證券  
所持人

ヲ以テ説明スルハ誤解ヲ招クノ虞アリ商法第四百三條ノ損害保險證券ニ記載スヘキ事項中ニ被保險者ノ氏名ヲ掲クルコトヲ要求セス又第四百三十條ニ依リ必シモ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定ムルヲ要セスト認メラルルヲ以テ同博士ハ無記名式云々ノ説明ヲ試ミラレタルナルヘシト雖トモ契約ノ實質ニ就テ言フトキハ損害保險ニ在リテハ被保險者カ保險契約者ト別人ナル場合ニハ之ヲ告知セザレハ保險契約ハ無効ニシテ從テ其保險證券モ無効タリ又保險契約者ト被保險者カ同人ナラハ特ニ被保險者ノ名ヲ掲クルヲ要セス生命保險ニ在リテモ保險金受取人ヲ指定セサル契約ハ證券ノ所持人ヲ當然ノ受取人トスルノ意ニ非スシテ被保險者自身又ハ其相續人ノ如キ推定セラルヘキ者ヲ受取人トスルノ意ニシテ保險證券ノ占有カ保險金受取人ノ權利ヲ確定スルモノニアラス

予ハ上述ノ點ヲ以テ我國ニハ英國ニ存スル保險證券所持人 (Tolleyholder) ノ如キモノナク又我商法ハ保險證券所持人ヲ認メスト説明シタルナリ是レ我國ニ於テハ此證券ノ取得占有ニ因リテ保險金ヲ受取り得ヘキ者ノ存在カ認メラレサルノ意ニシテ事實又然リ英國ニ於テ證券所持人ト稱スルハ有效ニ發行セラレタル生

命保險證券ヲ所持スル者ニシテ彙ニモ述ヘタル如ク英國ハ生命保險契約ノ成立ニハ嚴重ニ金錢的保險利益ノ證明ヲ要求スルニモ拘ハラヌ一具之カ成立シタル以上ハ保險證券ハ有價證券ノ如クニ賣買讓渡セラレ之ヲ譲リ受ケタル者カ保險者ニ對シテ將來保險料ヲ拂込ムヘキ義務ヲ負フ點ニ就テハ保險契約者ニ類似シ被保險者ノ死亡ニ際シテ保險金ヲ受取ルコトハ保險金受取人ニ同シ此ノ如キ場合ニ於テコソ保險證券ノ所持カ保險金受取ノ權利ヲ確定スルモノト謂フヘケレ我國ニ於テハ保險證券ヲ所持占有スルト言フコトハ無意味ナリ

予ハ彙ニ保險契約者カ被保險者ト別人ナル場合ヲ第三者ノ爲メニスル保險契約ナリトシテ説明シタリシカ是レ被保險者自身ヲ利益ノ享受者トシテ論述シタルモノニシテ生命保險ニ於テ被保險者以外ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタル場合ニハ被保險者ハ保險ノ客體即チ *Cesui que vie* 又ハ *Versicherten Leben* ニ過キスシテ第三者ハ即チ保險金受取人ナリトス故ニ其權利ノ性質竝ニ之カ確定ノ時期ニ就テハ別ニ研究セサルヲ得ス

保險金受取人ノ性質

第三者ノ爲メニスル保險契約

抑保險金額ヲ受取ルヘキ者トシテ契約中ニ指定セラレタル者ノ權利ノ性質如

何ノ問題ハ常ニ討究セラルル所ノモノニシテ之ニ就テ三說アリ

遺贈說

第一說 第一說ハ保險金受取人ノ權利ハ恰モ遺贈ヲ受クル者ノ權利ノ如ク本人ノ死亡ニ因リテ始メテ確定スルモノニシテ其以前ニ在リテハ何時ニテモ保險契約者ノ意思ニ依リテ變更スルコトヲ得ルモノナリト言フニ在リ此說ハ古クヨリ諸外國ニ行ハレタル普通ノ觀念ニシテ我國ニ於テモ現行商法制定前ニハ生命保險會社ハ殆ント一般ニ此主義ニ基キテ保險規則ヲ定メ即チ保險契約者ノミノ請求ニ依リテ會社ハ保險金受取人ノ變更ヲ承認シタリシナリ之ニ就キヘック氏ハ其著ノ劈頭ニ於テ左ノ如ク言ヘリ

死亡保險ニ於テハ保險金ヲ受取ルヘキ權利者カ契約ノ際若クハ其後保險者ニ對シテ指定セラルルヲ普通ノ習慣トス而シテ原則トシテハ契約者カ指定セラレタル者ノ承諾ヲ要セスシテ保險料ノ停止契約ノ解除其他ヲ行ヒ又受取人ヲ變更スルノ權利ヲ有セリ但之ニ反對ノ契約ヲ爲ス場合モ無キニ非ス  
又リ「ちが」氏カ其著ノ末尾ニ掲ケタル獨逸組合十七會社ノ保險約款第二條ニ左ノ規定アリ

保險カ第三者ノ利益ノ爲メニ締結セラレタル場合ニハ被保險者ノ死亡スルマテ若クハ保險金ノ支拂ハルヘキ時マテハ縱令此第三者カ保險證券ヲ所持スルト雖トモ此事實ノミニテハ會社ハ之ト何等ノ契約上ノ關係ヲ有セサルモノトス且保險證券ニハ何人ヲモ指定スルコトヲ得ルモ保險金ノ支拂ハルヘキ時期マテハ獨リ保險契約者ノミカ保險上ノ權利ヲ有スルモノトス

此ノ如ク獨逸ニ於ケル慣習ハ固ヨリ英米ニ於テモ此思想ヲ普通ト爲スト雖トモ我國ニ於テハ現行商法ハ固ヨリ生命保險會社ノ普通保險約款ニ在リテモ現今此ノ如キ明文ヲ設クルモノナキヲ以テ直チニ保險金ノ受取ヲ遺贈ト解釋スルコト能ハサルヘシ殊ニ保險契約者カ被保險者ト同人ナル場合ハ兎モ角之カ別人ナル場合ニハ毫モ遺贈ト見ルノ餘地ナキカ如シ

第三者ニ對スル給付契約說

第二說 第二說ハ保險契約者カ自己以外ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタル保險契約ハ民法ニ所謂第三者ノ爲メニスル契約ニシテ第三者ノ權利ハ其受益ノ意思表示ニ由リテ確定スト言フニ在リ損害保險ニ在リテハ第二節保險契約者ノ條下ニ説明シタルカ如ク商法第四百二條後段ニ依リ被保險者ハ當然契約ノ利益

被保險利益說

ヲ享受シ且被保險利益ノ原狀回復ヲ受クヘキ者ハ被保險者以外ニ存スル道理ナキヲ以テ保險契約者カ中途ニ被保險者ヲ變更スルト言フコトハ想像スルコト能ハサル場合ナルヲ以テ意思表示ノ問題ハ損害保險ニハ發生セスト雖トモ生命保險ニ在リテハ民法ノ規定ヲ覆スニ足ルヘキ明文ナキ以上ハ斯ク解釋セサルヘカラスト言フニ在リテ最多數ノ贊成者ヲ有スルニ似タリ

第三說 第三說ハ保險金受取人ノ權利ヲ初ヨリ確定不動ナリト解釋スルモノニシテ即チ生命保險契約ニモ被保險利益ノ觀念アリテ其利益ハ或ハ被保險者カ自己ノ生命ニ就テ有スル利益タリ或ハ相續人カ被相續人タル被保險者ニ付キ若クハ指定セラレタル受取人カ被保險者ニ付キテ有スル利益タリ故ニ受取人ヲ指定シテ締結セラレタル保險契約ハ本來其受取人ノ爲メニ生シタルモノナルヲ以テ之ヲ變更スルヲ得サルハ當然ナリ然レトモ受取人ノ承諾サヘアラハ便宜上契約其レ自身ニ影響ヲ與ヘスシテ漸ナル受取人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ト言フニ在リ此說ハ生命保險者一般ノ習慣ニ協ハサルヲ以テ贊成者少キ說ナルモ予ハ現行商法ノ解釋ハ此ノ如クナラサルヘカラスト思惟スルナリ而シテ此說ノ有力ナ

現行商法ノ解釋

ルヲ證スル條文ハ第四百二十八條第三項ニ在リ即チ

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ト規定シ保險金受取人ノ死亡又ハ親族關係ノ斷絶ハ保險契約ノ要素タル被保險利益ノ消滅ヲ惹起スルモノニシテ之ト同時ニ保險契約ハ當然消滅ニ歸スヘキモノナレトモ保險者ノ利益ト保險契約ノ利用ヲ保護スル爲メニ保險契約者ニ新ナル保險金受取人ヲ指定スルコトヲ許シタリ而シテ保險契約者カ若シ之ヲ爲ササルトキハ契約ハ當然消滅シ了リ保險契約者ハ只積立テタル金額即チ契約ニ附隨セル責任準備金ヲ請求スルヲ得ルノミナリ尙斯ク解釋スルニ就テ有力ナル參酌條文ハ第四百四條ニシテ

被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

トアリ損害保險ニ於テ被保險者カ保險ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ自己ノ

被保險利益ハ消滅スルヲ以テ契約モ亦消滅ニ歸スヘキモノナレトモ便宜上此ノ如キ推定ヲ設ケテ保險契約ノ利用ヲ保護シタルナリ此立法者ノ趣旨ハ又以テ生命保險ニモ應用セラレサルヘカラサルナリ

予ハ我商法ノ解釋トシテ第三說ヲ主張スト雖トモ前二說モ亦多少ノ根據ヲ有シ其結果實際問題ノ上ニ疑議ノ發生ヲ免ルル能ハス生命保險會社ハ此點ニ於テ或フ所少カラサリシカ今回ノ商法修正案ニ於テハ此疑議ヲ除クニ足ルヘキ規定ノ設ケラルルヲ見ル即チ前ニ掲ケタル第四百二十八條ノ修正條文ノ次ニ左ノ規定アリ

第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

商法修正  
案ノ規定

此規定ハ全ク現行商法ニ類似ノ規定モ無キ所ニシテ生命保險ニモ亦損害保險ニ對スル第四百二條ノ如ク第三者カ直チニ契約ノ利益ヲ享受スル旨ノ明文ヲ加ヘタルモノナリ勿論一時契約ノ利益ヲ享受スルモ後ニ又保險契約者ノ意思ニ依リテ之ヲ變更セシメラルルコト無キヤノ疑ヲ挾ムキアリトスルモ并ハ但書及ヒ第二項前段ノ字句ヲ以テ其然ラサルヲ知ルニ餘アリ是ニ於テカ前記第三說ハ爭フヘカラサル根據ヲ有スルニ至レリト謂フヘシ然レトモ此確定シタル保險金受取人ノ權利ト雖トモ其他ノ種類ノ權利ニ比シテハ其實質ニ於テ大ニ趣ヲ異ニシタルモノニシテ先ツ其權利ヲ行使スル時期ハ保險セラレタル事故ノ發生スル時ニシテ此機會ハ定期保險ノ如キニ在リテハ遂ニ來ラサルヤモ知ルヘカラス又保險契約者カ受取人ヲ指定又ハ變更スルノ權利ヲ留保セサル場合ニハ被保險者自身又ハ已ニ指定セラレタル受取人ハ動カスヘカラサルモノトスルモ其他ノ契約上ノ權利ハ全然保險契約者ニ屬シ例ヘハ保險契約者ハ任意ニ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ受取人ノ利益ハ其知ラサル間ニ何時消滅スルヤモ測ルヘカラサルナリ

今回ノ商法修正案ハ前記ノ規定ニ依リテ保險金受取人ノ權利ヲ確定シタル外尙現行商法ノ規定ヲ修補シタル所少カラス即チ現行商法ノ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ被保險者其相續人又ハ親族ニ制限スルコトヲ改メテ被保險者ノ同意アル者トシタルハ曩ニ生命保險ノ被保險利益ヲ論シタル條下(第一七)ニ説明シタルカ如クナレハ茲ニ再言セス現行商法第四百二十八條第四項ニ依リ保險金受取人カ死亡シタルトキ保險契約者カ新ニ保險金受取人ヲ指定シ得ルニモ拘ハラヌ之ヲ爲サスシテ自分モ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキモノトナレルヲ修正シ保險金受取人ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト定メタルハ保險金受取人ノ權利ノ性質竝ニ生命保險契約ノ性質ヲ明ナラシムルニ於テ更ニ與テカアルモノト謂ハサルヲ得ス

### 第五節 保險代理者 (Versicherungsgent)

保險契約者カ代理人ヲ以テ契約ヲ締結スル場合ハ實際多カラス又縱令之アル場合ト雖トモ普通代理ノ規定ヲ應用シテ足ルカ故ニ茲ニ之ヲ説明スルノ必要ヲ

保險契約者ノ代理人

保險者ノ代理人

認メス唯保險者ノ代理人ニ付テ説ク所アラント欲ス抑保險事業ノ性質上保險者ハ成ルヘク廣ク危險ヲ分配シ成ルヘク多數ノ相手方ト契約ヲ結ハサルヘカラサルカ故ニ保險會社ノ大多數ハ各地ニ其代理人ヲ置キ之ヲ通シテ契約ヲ締結シ之ヲ繼續シ竝ニ義務ヲ履行スルノ慣習ヲ執レリ保險會社ノ代理者即チ是ニシテ皆營業ノ店舗ヲ構フルヲ以テ之ヲ代理店トモ云フ我國ニ於テモ其數萬ヲ以テ數フヘシ而シテ是等ノ代理店ハ保險會社ヨリ手数料ト稱スル報酬ヲ受クル所ノ一種ノ代理商ニシテ其代理權ノ範圍ハ相互ノ契約ニ因リテ定マルヘキモノナリ而シテ一般ニ言ヘハ商法第一編第七章ノ規定ニ從ハサルヘカラサルモノナレトモ實際ニ於テハ此ノ如キ嚴格ナル制裁ニ依ラスシテ果シテ商法ニ所謂代理商ナルヤ否ヤ明瞭ナラサル點多シ例ヘハ會社ノ許諾ヲ得スシテ他ノ會社ノ代理ヲ爲シ又ハ自ラ保險業ヲ營ム會社ノ社員ト爲ル場合多シト雖トモ何方ヨリモ異議ヲ述ヘサルカ如キ狀態ナリ然レトモ一般ノ保險契約者ハ概シテ知識ノ程度低クシテ殊ニ法律ヲ解セサル者多キカ故ニ代理店ヲ信シ其權限如何ヲ確ムル者無ク代理店ハ凡テノ關係ニ於テ本店同様ナリト思惟スルヲ普通ノ狀態ト爲スヲ以テ諸國ノ

代理商

獨逸保險契約法ニ於ケル保險代理者ノ規定

舊商法ノ規定

法律ハ皆保險代理者ニ就テ特別ノ規定ヲ設ケ最近ノ獨逸保險契約法ニ於テモ第四十三條乃至第四十八條ノ六箇條ニ於テ保險代理者ノ權限ニ關スル詳密ナル規定ヲ設ケ代理者ハ單ニ契約ノ媒介ノミヲ委託セラレタルトキト雖トモ保險契約ノ申込更新及ヒ變更ノ申込竝ニ申込ノ取消ヲ受ケ保險ノ存續中必要ナル告知ヲ受ケ契約ノ解除其他ノ意思表示ヲ受ケ又保險者ノ作リタル受取證ヲ以テ保險料利息及ヒ費用ヲ受取ルコトヲ得ルモノトセラレ又保險契約締結ノ權限ヲ附與セラレタル代理者ハ其契約ノ變更又ハ更新ヲ約シ又其解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトセラレ又保險契約者ハ代理者ノ媒介又ハ締結シタル契約ニ就テハ其地ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得ルト定メタリ我舊商法ニ於テモ其第六百四十五條ニ於テ左ノ如ク規定セリ

保險營業者ノ其取引場ヨリ他ノ地ニ置キタル代辦人又ハ外國保險營業者ノ内國ニ置キタル代辦人ハ被保險者ニ對シ契約ノ取結陳述ノ承諾保險料ノ受取被保險額ノ支拂其他總テ保險者ノ代理ヲ爲ス權アリト看做ス但其代辦人カ被保險者ニ反對ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス



此ノ如クニシテ特ニ保險契約者ト其關係者ヲ保護セシカ現行商法ニハ何等ノ規定モ無シ故ニ其權限ノ範圍ハ保險會社ト代理店トノ契約ニ依リテ定マルモノニシテ保險契約者ハ事ニ臨ンテ果シテ代理店カ之ヲ處理スル權限ヲ有スルヤ否ヤヲ確メサルヘカラサルノ不利アリ

保險代理者カ爲シタル權限以外ノ行爲ニ付キ屢保險契約者ト保險者トノ間ニ爭議ノ發生スルコトアリ例ヘハ保險契約者カ期日ニ保險料ヲ拂込マサリシ爲メ保險契約カ效力ヲ失ヒシ後保險契約者カ保險料ヲ拂込ミ來リシトキ保險約款ニ從ヘハ保險契約者カ被保險者ノ健康證明書ヲ提出セサルヘカラサルニ代理者ハ之ヲ要求セスシテ保險料ヲ受領シタルカ如キ場合又ハ全然本店ノ承諾ヲ得サレハ保險料ヲ受取り契約ノ復活ヲ爲スノ權限ナシトセラルルニモ拘ハラス代理者カ隨意ニ之ヲ受取り而シテ被保險者カ之ニ尋テ死セリト假定セヨ此ノ如キ場合ニ於テハ保險者ハ該保險料ノ受取ヲ以テ代理者カ權限外ノ行爲ナリトシ被保險者ノ側ヨリハ之ヲ以テ有效ナリト主張スヘク現ニ之ニ就テ訴訟ノ發生シタルコト少カラス故ニ是等ノ異議ヲ防ク爲メニハ保險者ハ約款ヲ以テ代理者ノ權限ヲ

明示シ置クヲ適當ナリトス今日我國ノ實際ニ於ケル代理者ハ其權限ノ差異ニ依リテ二種ニ區別スルコトヲ得其一ハ全然舊商法ノ規定ニ合シタル權限ヲ有スルモノニシテ他ノ一ハ單ニ保險料ノ取次及ヒ保險契約者ト會社トノ間ノ交渉ノ媒酌ヲ爲スニ過キササルカ如シ火災海上ノ保險ニ於テハ前者多ク生命保險ニ限リテ後者多シ又保險中込所又ハ取次所ト稱シテ一見代理店ニ似タルモノアリ然レトモ是等ハ保險中込人ヲ會社ヘ紹介スルニ止マリ當事者ニ對シテ毫モ契約上ノ權利義務ヲ有セサルナリ(保險代理者ニ關シテハ拙著生命保險代理者參照)

### 第六節 保險仲立人 (Insurance Broker)

株式ノ賣買ニ株式仲買人ノ存スル如ク保險契約ニ保險仲立人ノ介在スルコトアリ其職務ハ前記ノ保險中込所又ハ保險取次所ノ如キ單純ナルモノニアラスシテ一方ニハ保險者ニ代リテ保險契約者トノ交渉ヲ取扱フモノナリ保險ノ事情ニ不案内ナル人々カ多クノ會社ノ信用程度ヲ知ラス又契約ノ手續等ニ通セサルヨリ過誤ノ無カラシ爲メニ自ラ保險契約ノ中込ヲ爲サスシテ仲立人ニ依頼スルノ

便利ナルト又るいづノ如キ保險者ノ組合ニ於テハ多クノ事務員ヲ使用シテ自ラ保險ノ申込ヲ集ムルコトヲ爲ササル等ノ原因ヨリ斯業ノ隆盛ナル西洋諸國ニ在リテハ保險仲立人カ申込ヲ受ケテ之ヲ會社ヘ傳達シ會社ヨリハ相當ノ紹介料ヲ受ケテ之ヲ其業務ノ所得トセリ我國ニ於テハ近來ニ至ルマテ保險仲立人ナル者無ク會社ノ募集員代理店主申込所主等カ自己ノ屬スル會社ノ爲メニ契約ノ媒介ヲ務ムルカ又ハ運送會社廻漕店又ハ倉庫業者カ荷主ノ爲メニ海上運送等ノ保險ノ申込ヲ爲スニ過キサリシカ最近ニ至リテ二三ノ專門ニシテ外國ニ於ケルト同一ナル保險仲立人發生シ保險ふるゝかト稱シテ獨立ノ營業ヲ爲スニ至レルヲ見ル而シテ仲立人ノ保險契約ニ對スル地位ハ所謂仲立ニ過キスシテ何等ノ權利義務ヲモ有セサルヲ原則トスト雖トモ保險事業ノ進歩シテ仲立人ノ制度ノ發達シタル所例ヘハ英國ノ如キニ在リテハ保險者カ仲立人ヲ信用スルコトノ至厚ナルヨリ仲立人ノ定メタル保險料ハ異議ナク之ヲ承認シ又仲立人カ保險ノ申込ヲ受ケテ之ヲ保險者ニ提供シ其承諾ヲ得タルトキハすりぶ(五三)ト云ヘル覺書ノ如キモノヲ作り保險者ヲシテ之ニ署名セシメタル以上ハ彼ハ之ヲ以テ契約ノ效

保險仲立人ノ權利義務

カヲ主張スルヲ得ルカ如キ習慣アリ我國ニ於テハ今日未タ保險仲立人ノ關係ニ於ケル法律問題ノ發生ヲ見ルニ至ラスト雖トモ將來必ス其期アルヘシ(保險仲立人ニ關シ)

テハ村瀬氏海上保險一九九頁以下及拙著保險論集附錄三一頁參照)

## 第五章 保險契約ノ手續

### 第一節 保險契約ノ申込 (Proposal, Antrag)

保險契約ハ當事者ノ意思ノ合致ニ因リテ成立スル所ノ所謂諾成契約ニシテ一定ノ方式ヲ要スル所ノ要式契約ニ非スト雖トモ是レ寧ロ其發達シタル後ノ事實ニシテ昔時ハ第一回保險料ノ支拂ヲ以ツテ契約成立ノ要件トシズメリゴん氏ハPremium(保險料)ナル語ハPrimo(第一)ヨリ出テ保險契約ニハ先ツ第一ニ之カ支拂ヲ要シタル事實ヲ證スルモノナリト言ヘリ語源ノ當否ハ姑ク措クモ以テ昔時ノ保險契約ヲ推知セシムルニ足ルヘシ故ニ今日ト雖トモ法律上契約ハ當事者ノ合意ニ因リテ成立スト雖トモ實際ニ於テハ一般ノ保險契約ニ對シテ其申込承諾其他ニ就キテ殆ト一定ノ形式アリ

茲ニ先ツ契約ノ申込ニ就テ言ハンニ自己又ハ他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲サント欲スル者ハ保險契約者ノ地位ヲ取リ保險者(保險業者)ノ作レル保險申込書用紙

今日ノ保險契約ノ諾成契約

保險申込

ヲ得テ之ニ保險契約ノ要件及ヒ之ヲ説明スル所ノ詳細ナル事項ヲ記入シ且其記載ノ事項ニ虛偽隱蔽又ハ錯誤ノ事實アラハ契約ノ無効ナルコトヲ承認スル旨ヲ記シ保險契約者記名捺印シテ之ヲ保險者ニ差出ササルヘカラス是レ曩ニ述ヘタル如ク保險者カ相手方ヨリシテ危險ニ關スル充分ナル告知ヲ得ンカ爲メニ要求スル所ニシテ生命保險ニ於テハ申込書ニ於テ保險契約者ノミナラス被保險者ノ記名捺印ヲモ要求シ又會社ニ依リテハ申込書記載事項中ノ數項例ヘハ被保險者ノ血族關係既往ノ病歴現在健康ノ感覺等ニ關スルコトヲ別ノ書面ニ記載セシメ尙醫師ニ對スル陳述ニ就テマテ被保險者ノ記名捺印ヲ要求スル所アリ

危險ノ測定

契約ノ成立

保險者ニ於テ此申込書ヲ受付ケタルトキハ直チニ危險ノ測定ヲ行フヲ順序ナリトス即チ海上保險ニ就テハ船舶ノ種類構造大小等級航海航路ノ如何ヲ調査シ火災保險ニ於テハ建物ノ位置構造使用法貨物ノ保險ニ付テハ其化學的性質ヲ調査シ之ニ依リテ請求スヘキ保險料ノ額ヲ決定シ之ヲ保險ヲ申込ミタル保險契約者ニ通知シ之ヲ以テ契約ヲ承諾スヘキ旨ノ意思ヲ表示スルモノトス我商法ノ規定ニ從ヘハ此時ヲ以テ保險契約ノ成立スルモノト謂ハサルヘカラサルモ我保險

社會ノ實際ニ於テハ斯ク看做スモノ殆ト無シト謂テ可ナリ即チ以前ハ「當會社ノ保險契約ハ第一回保險料ヲ領收シタル時ニ成立ス」ト云フカ如キ條項ヲ保險約款中ニ見ルヲ得タリシカ近來保險ノ主務官廳カ保險會社ノ保險約款ヲ認可スルニ當リ此ノ如キ商法ノ規定ト抵觸スル條款ヲ設定セシムルヲ好マサルカ爲メニ現今ニ於テハ殆ント一般ニ左ノ如キ規定ヲ設ケタリ

當會社ノ保險契約上ノ責任ハ第一回保險料ヲ領收シタル時ヨリ開始スルモノトス

ト而シテ契約ノ成立モ亦責任開始ノ日ヲ以テ爲スモノトスルヲ普通ノ習慣トセリ

生命保險ニ於テモ亦然リ保險者カ申込書ヲ受ケタルトキハ普通ノ死亡保險ニ於テハ醫師ヲシテ被保險者ノ身體ヲ診査セシメ醫師ハ其結果ヲ診査報狀ト言ヘル書式ノ上ニ記載シテ之ヲ保險者ニ報告スルヲ以テ保險者ハ之ヲ參考トシテ或ハ所定ノ保險料ヲ以テ或ハ増加保險料ヲ以テ契約ヲ承諾スヘク決定シ此旨ヲ保險契約者ニ通知シ第一回保險料ノ拂込ヲ俟テ契約ヲ成立セシムルモノトス勿

生命保險  
ニ於ケル  
醫師ノ地

論頗ル稀ニ契約ノ通知ト共ニ之ヲ成立シタルモノトシテ處置スル保險會社ナキニ非スト雖トモ而モ保險契約者ノ保險料ノ不拂ニ對シテ何等制裁ヲ加フルコト無ク又責任開始前ニ於ケル契約解除ニ關スル商法ノ規定(第四百七條及第四百九條)ヲ適用スルコト更ニ無キヲ以テ第一回保險料領收前ニ保險契約カ成立シタルモノトスルハ單ニ會社内部ノ規定ニ過キササルナリ

生命保險ニ於テ保險者カ醫師ヲシテ被保險者ノ身體ニ關スル危險ヲ測定セシムル事實アルカ爲メニ保險契約者又ハ被保險者ノ告知義務ノ違反カ往々問ハレサルノ結果ニ陷ルコトアル事情ハ曩ニ論シタル如クナルカ此醫師カ會社ノ社員タルカ又ハ囑託醫タルカニ由リ其行爲カ當事者ノ利害ニ影響ヲ及ホス程度ヲ異ニスヘシ例ヘハ診査醫カ重大ナル過失ニ因リテ診査ヲ誤リ即チ被保險者ノ隱蔽シタル疾病ヲ知ルコトヲ得ヘキニモ拘ハラス之ヲ見落セシ如キ場合ニ於テ彼カ社醫ナルトキハ會社ノ使用人ナルカ故ニ保險者ハ全然其實ニ任セサルヘカラサルモ彼カ囑託醫ナルトキハ獨立セル鑑定家ナルヲ以テ其誤診ノ結果ハ獨リ保險者ノミ其損害ヲ被ラサルヘカラサルヤ將又被保險者カ其告知義務違反ノ制裁ヲ

受ケサルヘカラサルヤ爭議ノ原因トナルヲ免レサルカ如シ

### 第二節 保險契約ノ方法

保險契約ハ保險契約者カーノ被保險者ノ有スル一ノ利益ニ就キテ確定シタル金額ノ保險ヲ申込ムニ因リテ成立スルヲ普通ノ場合ト爲スト雖トモ此制度ノ發達セル今日ニ於テハ保險者ハ相手方ノ便益ノ爲メニ此單純ナル契約方法ノ外ニ二三ノ特種ナル方法ヲ設ケテ之ニ依リテ契約ヲ締結スルニ至レリ仍テ茲ニ其方法ノ異同ヲ説明スヘシ

#### 第一 特定保險 (Special Versicherung)

保險契約ノ普通ノ方法ヲ法語上斯ク指稱スルモノニシテ一ノ特定シタル被保險利益ニ付テ保險カ行ハレ保險金額モ危險モ契約ノ當時ヨリ其終了ニ至ルマテ確定不動ナルヲ以テ特定保險トハ呼フナリ而シテ之ニ對シテ總括保險 (General Versicherung)ノ語アリ次ニ其細別ヲ列舉セント欲ス

#### 第二 集合保險 (Kollektivversicherung)

一件ノ保險契約ヲ以テ一個ノ利益ヲ保險スルハ普通ノ場合ナリト雖トモ時トシテハ便宜上情態ノ相類似セル數多ノ利益ヲ同一ノ保險契約ニ依リテ保護スルコトアリ疾病傷害等ノ保險ニ於テ最多ク行ハルル所ノ方法ニシテ例ヘハ同一工場ニ使役セラルル多數ノ職工ヲ其傷害ニ對シテ保險スル如キ場合ニ其各人ニ付テ一件ノ特定保險ヲ契約スルノ煩ナルヨリ備主カ保險契約者ト爲リ多數ノ職工ヲ一團ノ被保險者トシテ契約ヲ締結スル場合ノ如シ而シテ之カ備主責任保險ノ形態ニ於テ結ハルル場合ニハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ備主一人ナリト雖トモ通常ノ傷害保險ニ在リテハ各被保險者ニ付キテ各別ノ受取人アリ又契約ノ際指定シタル被保險者カ中途ニシテ解備セラレ他ノ職工カ代リテ使用セラルルニ至レル如キ場合ニ前者ノ代リニ後者ヲ被保險者タラシムルコトヲ許ス場合アリ或ハ又初ヨリ全ク各個ノ被保險者ヲ指定セスシテ一團ノ人數ヲ目的トシテ契約ヲ締結スルコトアリ是等ヲ總テ集合保險ノ方法ト稱スルモノトス

#### 第三 包括保險 (Pauschal Versicherung)

Pauschalナル語ハ一東又ハ一括ノ意ニシテ多種ナル保險ノ目的ヲ一括シテ保險

包括保險

特定保險  
ト總括保險

集合保險

ニ付スル場合ヲ指スナリ例ヘハ倉庫業者カ其倉庫内ニ貯藏スル貨物ヲ保險ニ付スル場合ニ於テ其出入常ナラサルカ爲メ其都度新ニ契約ヲ締結スルノ煩ナルヨリ一定ノ期間一定ノ金額ヲ限度トシテ該倉庫内ノ貨物ヲ一括シテ保險シ保險料モ亦總體ニ對シテ一定ノ額ヲ約シテ而シテ損害填補ハ危險發生當時ノ在高ニ據リテ之ヲ行フノ方法ヲ執ルカ如シ海上保險ニ於テモ亦往々行ハルル所ノモノニシテ例ヘハ貿易業者カ其輸出入ニ係ル物品ヲ一定ノ期間一定金額ヲ限度トシテ一定ノ保險料ノ下ニ保險ニ付シ置ク場合ノ如シ只前ノ場合ニ在リテハ保險ノ目的カ常ニ集合シテ同一狀態ノ下ニ存スルヲ以テ集合保險ニ似タリト雖トモ後ノ場合ニ於テハ航路モ時期モ異ナレル多クノ場合ヲ總括スルヲ以テ集合保險ト懸隔シテ寧ロ次項ノ繼續保險ニ近似スルノ差違アルノミ共ニ包括保險ナル名稱ノ下ニ行ハルルモノトス

繼續保險

第四 繼續保險 (Laufende Versicherung)

最多ク總括的ノ性質ヲ有スル保險契約ノ方法ニシテ主トシテ海上運送及ヒ再保險ニ於テ行ハルル所ノモノナリ即チ當事者間ニ多數ノ獨立シタル保險ヲ授受

スヘク概括的ニ保險契約ヲ締結スルモノニシテ再保險ノ繼續保險ハ曩ニ再保險ノ性質ヲ論スルニ當リテ(六一〇)説明シタルカ如ク凡テ此保險契約ニ在リテハ各保險ノ間ニ被保險利益ハ勿論危險ノ共通存在セサルナリ

豫定保險

以上ノ區別ト説明ハ主トシテ獨逸ノ習慣ニ就テ爲シタル所ナルカ英米及ヒ我國ニ於テ實際行ハルル所ノ總括的保險ノ方法ハ *Open Policy* 又ハ *Open cover* ト稱

セラレ繼續保險ノ如ク契約ノ當時ニ於テ未タ總テノ保險契約ノ要素カ具備確定セサルモ當事者相互間ノ信用ト誠實ノ了解ノ下ニ概括的ニ締結セラルルモノナリトス故ニ又豫定保險ノ名アリ主トシテ海上保險ニ於テ行ハレ例ヘハ貿易商カ其取扱ニ係ル輸入貨物ヲ常ニ保險セシムヘク契約ヲ締結シタル場合ニ契約當時ニ於テハ保險ノ目的タル積荷ノ種類モ價額モ分明ナラサルヲ以テ從テ保險金額ヲ定ムルヲ得ス後ニ之ヲ通知スルノ條件ヲ以テ保險契約ヲ成立セシムルカ如クシテ之ヲ不定額證券 (Unvalued policy) ノ契約ト云ヒ又船名ノ未タ分明ナラサル場合ヲ浮動證券 (Floating policy) ノ契約ト云ヒ共ニ *オープン* ぶりしニ屬スルモノトセラレ火災保險ニ於テモ倉庫貨物ノ保險ニ就テ此種ノ方法行ハレサルニ非サルナリ

不定額證券  
浮動證券

### 第三節 保險證券 (Policy, Police)

保險證券  
ト其代用  
書類

保險者ニ於テ保險申込書所載ノ事項ヲ認メテ之ヲ承諾スルトキハ(通常保險料ヲ領收シタルトキハ)保險證券ヲ作成シテ之ヲ保險契約者ニ交付スルヲ普通トス。保險證券ハ申込書ト同シク保險契約ニ必要ナル方式ニ非ス。保險契約者ニ安心ヲ與フル爲メ竝ニ契約ノ證據ノ爲メ保險者カ發行スル所ノ慣習上略一定セル書面ニシテ時トシテハ保險證券ヲ交付スル以前ニ他種ノ書類例ヘハ保險料領收證又ハ仲立人ノ覺書ノ如キモノヲ以テ之ニ代用スルコトアリ又商業家ノ如キ常ニ多クノ保險契約ヲ締結スルモノニ對シテハ一々保險證券ヲ交付セス又申込書ヲ徵セス通帳ヲ以テ爲スコト頗ル多シ例ヘハ倉庫内ニ出入スル貨物ノ短期保險ノ如キニアリテハ保險契約者カ通帳ニ貨物ノ種類員數及ヒ金額ヲ記載シ保險者カ單ニ其部ニ印章ヲ押捺スルコトニ依リテ證據立ラレルカ如シ。

上述ノ如ク保險證券ハ法律上必要ナル書類ニハ非サレトモ保險契約者カ之カ交付ヲ請求シタルトキハ保險者ハ之ニ應セサルヘカラス而シテ又之ヲ發行スル

以上ハ法律ノ要求スル所ノ事項ヲ記載セサルヘカラス即チ我商法第四百三條ニ左ノ如ク規定セリ

保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス  
保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
  - 二 保險者ノ負擔シタル危險
  - 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
  - 四 保險金額
  - 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
  - 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
  - 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
  - 八 保險契約ノ年月日
  - 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
- 本條ハ損害保險一般ニ付テ規定スル所ノモノニシテ其事項ノ何タルヤハ既ニ各

保險證券  
ノ記載事  
項

火災保險  
證券

所ニ於テ説明シタルカ故ニ茲ニ再言スルノ要ヲ見スト雖トモ我商法ニ於テ要求  
スル所ノ是等ノ事項ハ發達シタル保險契約ノ方法ニ於テ必シモ皆保險證券ニ記  
載スルコトヲ得ルモノニアラス從テ此規定ハ甚實際ニ適セサルモノト評セサル  
ヲ得ス何トナレハ繼續保險豫定保險等ニ於テハ保險ノ目的竝ニ保險金額カ保險  
證券ヲ作成スルニ當リテ未タ分明セサルコト前節ニ述ヘタル如クナレハナリ保  
險料亦之ト同シク必シモ當初ヨリ其額ヲ決定スル能ハサルナリ但他ノ方法例ヘ  
ハ割合若クハ再保險ノ場合ニハ原保險料トノ關係ヲ記載スルヲ妨ケサルノ意ナ  
ラハ可ナリ而シテ其支拂ノ方法トハ前拂、後拂、一時拂、分割拂等ヲ指スモノトス而  
モ我商法ハ尙保險證券ニ付キ以上九項ノ外保險種類ノ異ナルニ因リテ特種ナル  
事項ノ記載ヲ必要トシ即チ火災保險ニ付テハ第四百二十二條ニ左ノ規定アリ

火災保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スル  
コトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方
- 二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

運送保險  
證券

是レ保險ノ目的ナル項目ヲ擴張シタル規定ニシテ特ニ火災保險ニハ不動産ト動  
産ノ別アリ動産ニ在リテハ之ヲ納レタル建物ノ危險カ動産其物ノ危險ヲ支配ス  
ルコト多ケレハ之カ契約ニ付テ必要ナル事項ナルヲ以テ保險證券ニモ其記載ヲ  
命シタルナリ又運送保險ニ就テハ第四百二十五條ニ

運送保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スル  
コトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

トアリ又海上保險ニ就テハ第六百六十一條ニ左ノ如ク規定セリ

海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スル  
コトヲ要ス

- 一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍竝ニ種類、船長ノ氏

海上保險  
證券



名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

有名證券

トアレトモ第二號ノ事項モ亦契約ノ當時未タ不分明ニシテ保險證券ニ記載スルコトヲ得サル場合アリ即チ海上保險ニ於テハ浮動證券ノ契約ト有名證券 (Named policy) ノ契約アリ前者ハ保險ニ付セラレタル積荷ヲ載セタル船舶ノ名稱カ證券面ニ記載セラレサルモノニシテ遠隔ナル土地ヨリ齎ラサルヘキ貨物ニシテ之ヲ搭載スヘキ船名ノ未タ詳ナラサル場合ニ主トシテ用ヒラルル所ノモノナリ船舶ノ名稱スラ分明ナラス何ソ國籍、種類ヲ詳知スルヲ得ヘケンヤ是レ亦實際ニ適合セサル規定ナリ勿論我商法ハ保險契約ノ當時ニ未タ船名ノ明ナラサル場合アルヲ想像シテ第六百六十六條ニ左ノ規定ヲ設ク

保險契約ヲ爲スニ當リ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

ト言ヘルヲ以テ浮動證券ヲ想像セサルニ非サルハ明ナルモ而モ尙保險證券ニ之ヲ要求スルハ撞着ニ非スヤ

## 第六章 保險契約ノ效力

保險契約ノ效力トハ契約ノ成立ニ因リテ當事者間ニ發生スル所ノ權利義務ノ關係ヲ指スモノニシテ次ニ節ヲ逐ツテ之ヲ講述セント欲ス

### 第一節 保險者ノ權利義務

保險者ノ權利ハ(一)相手方ヨリ保險料ヲ要求シ事故ノ發生シタル後ハ(二)保險ノ目的ニ關スル權利竝ニ(三)第三者ニ對ズル求償權ヲ取得スルニ在リ而シテ其義務ハ頗ル單純ニシテ事故ノ發生ニ當リテ財産ノ給付ヲ爲スニ在リ但此義務ノ前提條件トシテ相手方ヨリ種種ノ要求ヲ爲スノ權利アリト雖トモ保險契約ハ雙務契約ニシテ保險者ノ權利ノ反面ニハ保險契約者被保險者竝ニ保險金受取人ノ義務在テ存スルカ故ニ次ニ是等ノ義務ヲ説クニ依リテ自ラ保險者ノ權利ヲ知ルヲ得ヘシ

保險者ノ權利

其義務

### 第二節 保險契約者被保險者及ヒ保險金受取人ノ權利義務

#### 第一款 保險契約者被保險者及ヒ保險金受取人ノ權利

保險契約者ハ保險契約ノ當事者ナリト雖トモ被保險利益ヲ有スル者ニ非サルカ故ニ事故ノ發生ニ當リテ保險者ヨリ損害ノ填補ヲ受クルノ權利ヲ有セス其權利ハ契約シタル危險ノ發生セサル限ニ於テノミ存在スルモノニシテ任意又ハ法律ノ規定ニ因リテ契約ヲ解除スルノ權及ヒ契約ノ無効失効解除等ノ場合ニ於テ保險料又ハ積立金ノ拂戻ヲ請求スルノ權保險契約者タルノ權利ヲ讓渡スノ權保險金受取人ヲ指定スルノ權保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ相當ノ擔保ヲ供セシムルノ權等即チ之ナリ而シテ契約カ有效ニシテ事故カ正當ニ發生シタル後保險者ノ給付ヲ請求シ得ルノ權利ハ被保險者又ハ保險金受取人ニ存在スルモノトス

保險契約者ノ權利

被保險者又ハ保險金受取人ノ權利

此外保險契約者被保險者又ハ保險金受取人ハ其契約セル保險會社ノ定時總會  
終結ノ後該總會ニ於テ決議セラレタル財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算  
書其他決算ニ關スル諸書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル  
コトヲ得ルノ權利ヲ有シ（保險業法第九條）又生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保  
險金受取人ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ  
有スルモノトス（保險業法第九條）

### 第二款 保險契約者被保險者及ヒ保 險金受取人ノ義務

#### 一 告知義務

保險契約ノ申込ニ際スル告知義務ノ意ニシテ屢ニ詳述シタル如ク保險契約カ  
未タ成立セサル以前ニ存スルモノナルカ故ニ之ヲ以テ保險契約者其他ノ義務ト  
云フハ妥當ナラスト雖トモ一般ニ之ヲ告知義務ト稱シ且保險契約者竝ニ被保險  
者カ契約上常ニ之ヲ拘束セラルルモノナルカ故ニ一ハ又記憶ヲ喚起センカ爲メ

ニ茲ニ之ヲ掲ケタリ而シテ此告知義務ハ損害保險ニ在リテハ保險契約者、生命保  
險ニ在リテハ之ト被保險者ニ存スルコトハ前ニ述ヘタル如クニシテ疾病、傷害等  
ノ總テ人的ノ保險ハ生命保險ニ準スヘキ道理ナリトス（本編第三章第二節  
第四款參照）

二 告知事項ノ變更増加ヲ通知スル義務  
保險申込ニ際スル告知事項ハ保險契約ノ前提條件ニシテ保險者ノ義務ハ之ニ  
緊カルモノナルカ故ニ其變更増加ハ保險契約者又ハ被保險者カ其權利ヲ保ツニ  
就テ之ヲ保險者ニ通知スルノ義務アリ而シテ告知事項ノ變更増加ハ所謂危險ノ  
變更増加ニシテ之ニ關スル論述ハ本編第三章第二節第三款ニ於テ之ヲ悉セルヲ  
以テ茲ニハ之ヲ略ス

#### 三 保險料支拂ノ義務

保險料ノ支拂ハ保險契約者ノ責任ニシテ被保險者自身カ保險契約者ナル場合  
ハ勿論ナレトモ他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ト雖トモ此義務ヲ負フコ  
トハ商法第四百一條ニ之ヲ明定セリ然レトモ保險契約者ト被保險者トカ別人ナ  
ル場合ハ前者カ破産ノ宣告ヲ受ケ將來支拂ノ義務ヲ盡スコト能ハサルノ狀態ニ

陥リタルトキハ被保險者カ之ニ代リテ保險料ヲ支拂ハサルヘカラス但被保險者カ保險契約ノ利益ヲ享クルヲ欲セサルトキハ保險料ヲ支拂フニ及ハサルコト勿論ナリ即チ第四百六條ニ左ノ規定アリ

他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

又第四百五條第三項ニハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケ尙保險者ニ保險料ヲ支拂フヘキ義務ノ殘レル場合ニハ保險者ハ其請求權ヲ確保スル爲メニ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ

#### 四 利益ヲ保護スル義務

保險契約ノ目的ハ避クヘカラサル損害ヲ救済スルニ在リ故ニ被保險者ハ可及的ノ注意ヲ以テ損害ヲ避クルコトヲ努メ力及ハサル場合ニ於テ始メテ保險者ノ填補ヲ受クヘキモノタルヲ記憶セサルヘカラス自己ノ家屋財産ヲ火災保險ニ付シタリトテ火ノ用心ヲ粗末ニシ或ハ近傍ヨリ出火シテ自家ニ延燒シ來ルヲ見ナ

利益ヲ保護スル義務

損害ノ防止  
危險ノ防止

費用ノ防止

カラ消防ニ盡力セス又ハ荷物ヲ運ヒ出サスシテ冷然タル如キハ自己ノ財産ヲ保護スルノ念慮ナキ者ニシテ保險契約ノ利益ヲ拋棄シタル者ト看做シテ可ナリ是ニ於テカ商法第四百十四條ハ  
被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖トモ保險者之ヲ負擔ス  
ト規定セリ而シテ此義務ヲ特ニ被保險者ニ負ハシメタルハ被保險者カ保險ノ目的ト最利害關係ヲ有シ且適當ナル防衛ヲ爲シ得ルニ最便利ナル地位ニアレハナリ

而シテ損害ノ防止トハ危險ノ防止ト混同スヘカラス損害ハ危險發生ノ結果ナルカ故ニ其結果カ永續ノ性質ヲ有スルコトアリ例ヘハ難船ニ因リテ海中ニ陥リタル貨物ノ如キ之ヲ引揚クルコトヲ得ル場合ニハ勿論之ヲ引揚ケサルヘカラス是レ損害ノ防止ナレハナリ而シテ引揚ケタル後ト雖トモ成ルヘク速ニ之ヲ處理シテ潮水ノ爲メニ被ルヘキ腐蝕侵染等ヲ防カサルトキハ保險者ハ損害填補ノ責ニ任セサルカ如シ而シテ防止ノ費用ヲ保險者カ負擔スルハ彼カ之ニ依リテ損害

填補額ノ減少ヲ得ヘキカ故ナリ然レトモ防止ノ爲メニ必要又ハ有益ナリシヤ否  
ヤハ屢事實上ノ問題ト爲ルヲ免レヌ被保險者カ不必要又ハ無益ナル防止ヲ試ミ  
之カ爲メニ多額ノ費用ヲ費シ而シテ之ヲ保險者ニ於テ負擔セサルヘカラストセ  
ハ其弊少カラサルヘキヲ以テ保險業者ハ往々之ニ反對ノ契約ヲ爲スコトアリ例  
ヘハ我國火災保險會社ノ保險約款ニ於テ左ノ如キ條項ヲ設クルカ如シ  
保險契約者又ハ被保險者カ損害ノ防止ニ要スル費用ハ特約アルニアラサレハ  
當會社之ヲ負擔セス

茲ニ又直接ニ損害ノ防止ト言フ能ハサルモ間接ニ利益ノ保護ヲ要求スル規定  
アリ即チ商法第三百九十六條ノ後段ニ

保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害  
ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

トアルコトニシテ惡意ノ場合ハ之ヲ除キ重大ナル過失ノ爲メニ損害ヲ發生セシ  
メタル場合ハ防止ヲ怠リ又ハ利益ヲ保護スルニ付テ懈怠アリト看做サルヘキモ  
ノナリ然レトモ本條並ニ第四百十四條ノ損害防止ニ關スル規定ハ損害保險ニノ

生命保險

ニ於ケル  
利益保護  
ノ觀念

ミ適用セラレ生命保險ニハ適用又ハ準用ナシ是レ吾人カ疾病ニ罹ルモ醫藥ヲ施  
サスシテ死ヲ待ツカ如キ又ハ不攝生ヲ爲シテ生命ヲ短縮スルカ如キハ此義務ニ  
違反セリト言フヲ得ヘキモ此ノ如キハ至靈ナル人類ノ普通一般ニ爲ササルモノ  
トノ推定ト且之ヲ證明スルノ困難ナルカ爲メナルヘシト雖トモ生命保險ニ於テ  
モ明ニ此義務ニ反セリト思ハルル場合ナキニ非ス例ヘハ電車ノ疾走スルニ飛下  
跳乗ヲ爲シ負傷ノ結果死ニ至リタルカ如キハ重大ナル過失ヨリ死亡ヲ惹起セリ  
ト言フヲ得ヘク又相當ノ醫藥ヲ加ヘテハ回復ノ見込アリシニモ拘ハラス之ヲ放  
任シ若クハ迷信ノ爲メニ神前ノ汚水ヲ飲用セシ爲メ死ニ至リタリトノ證明モ之  
ヲ爲シ得ル場合ナキニ非ス是レ即チ防止ヲ怠リシ場合ニ非スヤ故ニ實際ニ當條  
ムル場合ノ緩急ハ別問題トシ法律上ハ生命保險ニ於テモ被保險者ニ適當ナル防  
止ノ義務ヲ強制スルコト寧ロ社會上ノ必要ニ非サルカ傷害保險ニ在リテハ通常  
之ニ關スル規定ヲ保險約款中ニ設定シ例ヘハ被保險者又ハ保險金額ヲ受クヘキ  
者カ正當ノ理由ナクシテ傷害ニ對スル醫藥ヲ怠リタルトキハ保險者ハ以後保險  
金支拂ノ責ニ任セスト言フカ如クニセリ

最後ニ被保險者カ防止義務ヲ忘リタル制裁如何ト問フニ我商法ニ於テハ第四  
百十四條ノ義務違反ニ對シテ何等ノ制裁ヲモ規定セサルカ故ニ或學者ハ被保險  
者カ其爲メニ保險者ニ被ラシメタル損害ヲ賠償スルノ責ヲ負フニ過キスト說キ  
或學者ハ保險者ノ填補義務ヲ免除スルモノナリト言ヘリ而シテ理論上ハ姑ク措  
キ事實上被保險者カ防止義務ヲ忘リシ爲メ損害ヲ生セシメクリトスレハ保險者  
ヲシテ損害填補ノ責ニ任セシメ而シテ釀テ其損害ノ賠償ヲ請求セシムルト云フ  
カ如キ迂遠ナル方法ヲ執ラシムルヲ要セス保險者ヲシテ填補ノ義務ヲ免レシム  
ルヲ適當ナリトス

五 損害ヲ通知シ且之ヲ證明スルノ義務

危險發生シテ損害ノ生シタル場合ニハ保險契約者又ハ被保險者若クハ保險金  
受取人ハ直ニ其旨ヲ保險者ニ通知シ且之ヲ證明セサルヘカラス直ニ通知セサル  
ヘカラサル必要ハ保險者ヲシテ充分速ニ損害ノ調査ヲ爲サシメ又損害ノ防止ヲ  
行ハシメンカ爲メナリ例ヘハ生命保險ニ於テ被保險者カ死亡シ葬式ヲ濟マセ尙  
數日ノ後ニ之ヲ保險者ニ通知スル如キコトアラハ該死亡ニ就テ保險者カ疑問ヲ

挾ムトキト雖トモ之ヲ解クノ手懸ヲ埋没セシメラレテ如何トモスル能ハサル  
ノ不利ヲ來スカ如ク又海上保險ニ於テ貨物ノ沈没ヲ速ニ保險者ニ通知セハ保險  
者直ニ引揚ニ着手シテ出來得ル限り損害ヲ免レ得ヘキモ然ラサレハ損害ヲ増加  
セシメ若クハ遂ニ全部損失トナル場合アルカ如シ故ニ我商法第四百十二條ニハ  
保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約  
者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ  
對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

トアリ又第四百三十二條ニハ左ノ規定アリ  
保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リ  
タルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
所謂遲滞ナクト云フハ出來得ル限り速ナルノ意ナルヘシト雖トモ事實上爭ヲ惹  
起スルノ餘地ナキニ非サルカ故ニ特種ノ必要アル保險ノ種類ニ在リテハ通常當  
事者間ニ一定ノ期間ヲ設ケ保險契約者其他カ此期間内ニ通知ヲ發スル能ハサリ  
シトキハ其理由ノ正當ナルコトヲ證明シ得ル場合ノ外義務ノ不履行ト看做サル

傷害保險

ルコトトセリ例へハ傷害保險ノ如キ負傷ニ對スル手當ノ如何ニ由リ治癒スルヤ  
否ヤニ大關係アルモノニ在リテハ保險約款ニ左ノ如キ條項ヲ設ケタリ  
被保險者カ傷害ニ遭ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ二十四時間以内  
ニ於テ成ルヘク速ニ死亡又ハ重傷ノ場合ニハ電信又ハ電話ヲ以テ其他ノ場合  
ニハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ當會社ノ本店又ハ事故ノ發生シタル場所ニ最近キ  
當會社ノ支店出張店又ハ代理店へ通知スヘシ此場合ニ當會社ハ醫師ヲ派遣シ  
テ被保險者ノ身體ヲ検査スルコトヲ得(日本傷害保險株式會社普通保險約款)  
而シテ正當ノ理由ナクシテ此通知ヲ忘リタルトキハ保險者ハ之ニ對シテ保險金  
支拂ノ責ニ任セサル旨ヲ規定セリ

證明ノ義務

次ニ損害ヲ證明スルノ義務ハ被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ於テ當  
然有スル所ノモノニシテ例へハ生命保險ニ在リテハ主治醫ノ死亡證明書及ヒ戸  
籍吏ノ證明ヲ以テ被保險者ノ死亡ヲ證シ火災保險ニ於テハ損害調査海上保險ニ  
於テハ海損計算書ヲ提出セシムルカ如シ而シテ是等ノ證明書ヲ差出スニ就テモ  
亦甚シキ遲滞ハ保險者ノ大ニ不利トセサルヘカラスナルヲ以テ保險會社ハ

保險ノ目的ニ付キ  
有セル權利ヲ讓渡  
スル義務

一般ニ之ヲ差出スヘキ期間ヲ定メ例へハ被保險者又ハ保險金受取人カ事故ノ發  
生ヲ知リタルトキヨリ二週間又ハ一箇月以内ニ之ヲ差出ササルトキハ保險金支  
拂ノ責ニ任セサル旨ノ約款ヲ設ケタリ

六 保險ノ目的ニ付キ有セル權利ヲ讓渡スル義務

損害保險ニ在リテ被保險者カ損害ノ填補ヲ受ケタルトキハ從前其目的ニ付テ  
有シタル權利ヲ保險者へ讓渡ササルヘカラス然ラサレハ被保險者ハ損害ノ爲メ  
ニ却テ利益ヲ博取シ得ルノ結果ヲ生スレハナリ而シテ被保險者カ保險ノ目的ニ  
就テ有シタル權利ニハ二種アリ一ハ直接ニ其目的上ニ存在スル權利ニシテ一ハ  
第三者ニ對スル損害要償ノ權利ナリ保險者ハ此二者トモ取得スヘキモノナレト  
モ其取得スル限度ハ彼カ保險ノ目的ニ付テ損害ヲ填補シタル範圍内ナラサルヘ  
カラス即チ一部保險ノ場合ニハ其權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ヲ以  
テ定メサルヘカラス即チ商法第四百十五條ニ

損害保險  
ノ一般規定

保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒ  
タルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險價額ノ一部ヲ

保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

トアリ然レトモ茲ニ注意スヘキハ此條文カ全部損害ノ場合ノミヲ規定シテ一部損害ニ就テハ間フ所ナキコトナリ例ヘハ保險價額一千圓ノ家屋ニ一千圓ノ保險ヲ付シ之カ全部燒失シテ保險者カ一千圓ヲ支拂ヒタル場合ニハ殘留物例ヘハ半燒ノ木石材金物類ハ全部保險者ノ所有ニ歸スト言フナリ而シテ保險金カ五百圓ナリシ場合ニハ即チ千圓ニ對スル五百圓即チ二分ノ一ノ割合ニ依リテ權利ヲ取得スルト言フナリ然レトモ之ヲ全部損失ノ場合ニ限リ一部損失ノ場合ヲ間ハサルハ何故ソヤ勿論火災保險ノ如キニ在リテハ一部損失ノ場合ニハ實際生シタル損害ヲ精算シテ燒木燒釘ノ類ハ之ヲ被保險者ニ屬セシメ讓受クヘキ物ナキヲ以テ之ヲ規定セストノ辯明アルヘシト雖トモ運送保險ノ如キニ在リテ被保險貨物ノ一部カ損害ニ遭ヒタル場合例ヘハ湖川へ落下シ又ハ余部品質ヲ變セシメタル如シニ其損害ヲ精算シ引揚物又ハ變質物ヲ被保險者ニ屬セシムルハ實際不便ナリ而シテ海上保險ニハ特ニ委付ノ規定アリ故ニ前記條項ハ獨リ全損ノ場合ノミナラス總テノ場合ニ適用スヘ

第三者ニ對スル求償權

ク規定シテ可ナリト思惟ス

次ニ第三者ニ對スル求償權ニ就テハ第四百十六條ニ左ノ規定アリ  
損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス  
保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第三者ニ對スル求償權トハ損害カ第三者ノ過失又ハ不法行爲ニ因リテ發生シタルトキ被保險者カ之ニ對シテ損害賠償ヲ請求シ得ルノ謂ニシテ被保險者ハ既ニ保險者ヨリ損害ノ填補ヲ得タルカ故ニ其限度ニ於テハ第三者ヨリ賠償ヲ受クヘキニ非ス故ニ其權利ハ自然保險者ニ移轉シ保險者ハ第三者ニ對シテ賠償ヲ請求シ得ルナリ但之ヲ以テ被保險者ノ保險者ヨリ填補ヲ受ケタル以外ノ要償權ヲ妨ケタルニ非ス而シテ舊商法ニ於テハ第六百五十八條ニ一般ノ保險者ニ對シテ



生命保險  
ニ於ケル  
求償權

此要償權取得ノ權ヲ與ヘ又同商法修正案ニハ損害保險ノ規定ヲ生命保險ニ準用シタリト雖トモ現行商法ニ於ケル規定ハ損害保險ニノミ之ヲ規定シ生命保險ニハ之ヲ準用セシメス其意立法者カ生命保險ニハ之ヲ認メスト言フニ在ルヤ將又當然ノ事ナルヲ以テ特ニ規定ヲ設クル必要ナシト言フニ在ルヤ明瞭ナラスト雖トモ思フニ人ノ生命ニ關スル損傷ハ所謂金錢ニ見積ルヘカラサル損害ニシテ遺族カ被ル所ノ損害ノ見積額ハ確定セル標準ニ據ル能ハス故ニ此内ヨリ保險金ニ相當スル金額ヲ保險者ヘ移轉セシムルコトハ不當ナリト言フニ在ルカ如シ然レトモ損害賠償ノ理論ト損害保險ニ於ケル規定トノ權衡上ヨリスレハ生命保險ニ於テモ之ヲ許スト解スルヲ寧ロ適當トセサルヘカラス勿論保險者カ保險金ノ支拂ヲ爲スハ契約ノ當然ニシテ損害ニ非ス而モ尙被保險者ノ損害要償權ヲ取得シテ之ヲ行使セハ是レ不當ニ利得ヲ爲スモノナリトノ議論アルヘシト雖トモ是レ獨リ生命保險ニ於ケルノミナラス損害保險ニモ應用スルヲ得ヘキ議論ナリ故ニ吾人ハ立法者カ總テノ保險ニ付キテ同一ノ主義ニ出ツルコトヲ贊セサルヲ得サルナリ

傷害保險  
ト求償權

委付

但生命保險ニ於テハ保險者カ第三者ノ行爲ノ爲メニ被リタル損害額ヲ決定スルコト困難ニシテ定期保險ノ如キ保險期間内ニ死亡カ發生スルヤ否ヤ明ナラサル保險ニ於テハ第三者ノ兇行ノ爲メニ保險者ハ保險金全額ノ支出ヲ來サシメラレタリト言フヲ得ヘキモ終身保險ノ如キ契約ニ在リテハ此場合ニ保險者ノ被リタル損害ハ豫定ヨリ早ク保險金ヲ支拂ハサルヘカラサル事實ニ存スルノミニシテ其損害額ハ之ヲ計算スルニ容易ナラス是レ或ハ現行商法カ損害保險ノ規定ヲ生命保險ニ準用セシメサル一ノ理由ニ非サルカ

傷害保險ニ於テハ是等ノ疑問ノ發生ヲ避ケンカ爲メニ保險約款ニ於テ被保險者又ハ其相續人カ傷害ニ付キ第三者ニ對シテ有スル求償ノ權利ハ當會社ニ移轉セサルモノトス(日本傷害保險會社)ト規定セリ

被保險者カ保險ノ目的ニ付キテ直接ニ有セル權利ヲ保險者ノ取得スル場合ハ總テノ保險契約ニ存在スヘキモノナリト雖トモ特ニ海上保險ニ於テ其顯著ナル事例ヲ見ルコト多シ是レ海上危難ノ性質ヨリ來ルモノニシテ火災ノ如キハ大體

財産ヲ燒キ盡シテ餘ス所ナク又餘ス所アリトスレハ其部分ニ付テハ保險金ヲ支拂ハサルカ故ニ保險者カ取得スヘキ利益ノ殘留殆ント無キヲ以テ普通トスレトモ海上保險ニ於テハ此殘留分ノ存スル場合多キカ故ニ特ニ委付 (Assignment)ノ規定ヲ設ケタリ

海上保險ニ於テ保險ノ目的カ危險ニ遭遇シ被保險者カ利益ノ殆ント全部ヲ失ヒタリト看做サルルモ而モ尙充分ナル手段ヲ施シ又綿密ナル調査計算ヲ行フトキハ利益ニ多少ノ殘留分ヲ發見スルコトナキニアラス然レトモ被保險者ヲシテ成ルヘク速ニ損害ノ回復ヲ得セシムルコトハ保險契約ノ本旨ニシテ而モ被保險者ニ此ノ如キ面倒ナル調査手段ヲ盡スコトヲ強制スルハ此本旨ヲ没却スルモノナルカ故ニ多少ノ殘留分カ想像セラルル場合若クハ未タ必シモ多クノ損害カ發生シタリト断定スヘカラサル場合ト雖トモ被保險者ヲシテ速ニ利益ノ回復ヲ得セシメンカ爲メニ保險ノ目的ニ付テノ彼ノ權利ヲ保險者ニ讓渡シテ保險金額ノ全部ヲ請求セシムルコトヲ許セリ之ヲ委付ト稱シ我商法第六百七十一條以下ニ於テ之カ詳細ノ規定ヲ設ケタリ而シテ第六百七十一條ニ曰ク

委付ノ許  
サルル場  
合

左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六箇月間解放セラレサルトキ

是ニ由テ觀レハ委付ハ被保險者ノ義務ニアラスシテ權利ナリ然レトモ此權利ハ前記ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ全部滅失ヲ主張シ以テ保險金ノ全額ヲ請求シ得ルノ權利ニシテ保險ノ目的ヲ保險者ニ讓渡スコトハ依然トシテ其義務タリ

委付ハ被保險者カ損害ノ發生ヲ知リテヨリ三箇月内ニ保險者ニ其通知ヲ發セサルヘカラス(第六七條)而シテ委付ハ被保險者ノ一方行爲ナルカ故ニ此通知ヲ以テ直ニ其效力ヲ生スト雖トモ保險者ハ損害カ前記ノ諸項ニ該當セスト認ムルトキ

委付ニ對  
スル異議

委付ハ單  
純ナルヲ  
要ス

ニ限り之ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ此場合ニハ被保險者ニ於テ其原因ヲ  
證明セサルヘカラス又一且爲シタル委付ハ被保險者之ヲ取消スヲ得サルト同時  
ニ保險者カ一タヒ之ヲ承諾シタルトキハ後日異議ヲ述フルコトヲ得サルモノト  
ス(第六七六條及第六七九條)委付ハ又單純ナルヲ要シ條件又ハ期限ヲ付スルヲ得ス是レ委付  
ハ業ニ已ニ之ヲ以テ大ニ被保險者ノ便利ヲ圖リタルモノニシテ其上ニ尙隨意ノ  
選擇ヲ許スヘキモノニアラサルト委付ハ元來損害填補ニ際スル手續ノ簡易ヲ主  
トスルモノナルカ故ニ條件又ハ期限ヲ付シテ却テ之ヲ複雑ニスルヲ許ササルニ  
由ルナリ委付ハ又保險ノ目的ノ全部ニ付テ爲ササルヘカラス一部ノ委付ハ之ヲ  
許ササルナリ例ヘハ保險ニ付セラレタル船舶カ沈没セシ場合ニ被保險者カ之ヲ  
委付セント欲セハ其如何ナル部分カ引揚ノ後使用ニ堪ユヘキヤ如何ナル部分カ  
廢物ニ歸スヘキヤヲ考察スルコト無ク絕對的ニ之ヲ委付スヘキモノニシテ木材  
ノ部分ノミヲ委付シ鐵材ノ部分ハ委付セス又ハ船體ハ委付スルモ機關ハ委付セ  
スト云フカ如キ一部の委付ヲ爲スヲ得サルナリ是亦委付ノ利便ヲ害シテ其效ナ  
カラシムルモノナレハナリ但委付ノ原因カ其一部ニ生シタル場合ニハ當該一部

委付ハ全  
部ナルヲ  
要ス

ノ委付ハ有效ニシテ例ヘハ積荷百個ヲ保險ニ付シタルニ三十個カ沈没シタル場  
合ニハ百個ノ委付ヲ要セス沈没シタル三十個ノミヲ委付スルヲ得ルナリ是毫モ  
計算ノ煩雜ヲ招カスシテ委付ノ單純ヲ害セサレハナリ又一部保險ノ場合ニ於テ  
ハ委付ハ比例ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得保險者ノ取得スル權利モ此比例ニ據ルヘ  
キコト無論ニシテ例ヘハ船舶ノ保險價額ノ半カ保險ニ付セラレタル場合ニ於テ  
船舶沈没シ被保險者カ之ヲ委付シテ保險金ノ支拂ヲ受ケタル後船舶ヲ引揚ケ賣  
却シタルトキハ其賣價ノ半カ保險者ニ歸スルカ如シ(第六七五條參照)  
委付ノ場合ニ於テ保險者カ保險ノ目的ニ付キテノ權利ヲ取得スルニ當リテハ  
權利ノ讓渡ノ手續ヲ行ハサルヘカラス之ニ關シテハ第六百七十七條第二項ニ  
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付ス  
ルコトヲ要ス

トアリ海上保險以外ノ保險ニ於テモ亦然リ保險者カ求償權ヲ取得シタル場合ニ  
於テモ求償ヲ行フニ必要ナル書類ハ被保險者カ之カ保險者ニ供給セサルヘカラ  
サルナリ(委付ニ付テハ村瀨氏海上保險第二二九頁乃至第二九二頁ニ詳論アリ)

### 第三款 相互保險會社ノ社員ノ權利義務

保險契約者ノ權利義務ヲ説クニ當リテ余ク記述ヨリ脱スヘカラサルハ相互保險會社ノ社員ノ權利義務ニ關スル事項ナリトス何トナレハ相互保險會社ノ社員ハ相互保險契約ニ於ケル保險契約者ナレハナリ

然レトモ疑ニ營業保險契約ト相互保險契約トノ區別ヲ説明シタル場合ニ詳論シタル如ク相互保險契約ハ保險關係ト社員關係ノ二種ノ關係ヲ包有シ保險關係ニ在リテハ殆ント總テ營業保險契約ニ於ケル保險契約者ト同一ナルヲ以テ茲ニ贅セス只之カ社員關係トノ觸接ニ於テ普通ノ保險契約者ト異ナル點ヲ説明セントスルノミ

而シテ相互保險會社ノ社員ハ其保險關係ヲ離レテハ猶株式會社ニ於ケル株主ノ如ク社團ヲ構成スル所ノ要素ナリト雖トモ彼等カ如何ニシテ此團體ヲ組成シ如何ニシテ其機關ヲ設定シ如何ナル議決ノ權ヲ有スルヤト云フカ如キ所謂保險

社員ノ責任

團體ノ組成ニ關スル事項ハ本書ノ目的トスル所ニ非サルコト前ニ述ヘタル如クナルヲ以テ茲ニハ只其直接金錢上ノ關係ニ於ケル各個ノ權利義務ヲ説カント欲スルナリ

#### 第一 社員ノ責任

我保險業法ニ於テハ會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ三種ニ別チ

- 一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ
  - 二 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
  - 三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
- トセリ相互會社本來ノ性質ヨリスレハ第一種ノ社員ヲ以テ最之ニ適シタル者トセサルヘカラスト雖トモ實際ノ經營上ニ於テハ社員カ無限ノ責任ヲ盡シテ會社ノ債務ヲ辨濟セサルヘカラスルカ如キ事態ニ至ルコト稀ナルヲ以テ諸外國ニ於テハ第三種ノモノ多ク我國ニ於テハ第二種ノ社員ヲ有スルノミ而シテ一會社ニ於テ一種以上ノ竝立ヲ許ササルハ複雑ヲ避ケンカ爲メナルヘシト雖トモ外國ニ在リテハ保險料限度ノ社員ト追徵義務アル社員トカ一會社ニ混入スルヲ許セリ

保險料限度ノ社員ノ責任ハ營業保險ニ於ケル保險契約者ト其責任上ニ於テ毫モ  
擇フ所ナキモ(第三七條)只社員ハ其種類ノ如何ヲ問ハス任意ニ退社セント欲セハ  
六箇月前ニ之カ豫告ヲ爲シテ事業年度ノ終ニ於テノミ退社スルコトヲ得ルモノ  
ナルカ故ニ保險料限度ノ社員ト雖トモ其時期マテノ保險料ニ就テハ責任ヲ負ハ  
サルヘカラス(第六五條)然ルニ我國ノ相互保險會社ハ其實質ニ於テ頗ル營業保險  
會社ニ近接シ社員本位ヨリモ寧ロ保險契約者本位ニシテ此點ニ於テモ例ヘハ其  
保險約款ニ於テ「保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得」ト規定  
シ此解除ニ因リテ保險關係消滅スレハ保險契約者タル社員ハ自然ト退社スルコ  
トトナル(第六六條)カ故ニ業法第六十五條ノ規定ハ實際ノ應用無シ  
若シ夫レ第一種及ヒ第三種ノ社員ニ至リテハ我國ニ於テ全ク存セスト雖トモ  
法律ノ規定ニ從ヘハ退社後尙二年間會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フモノニシテ是  
レ普通ノ保險契約者ニ比シテ大ニ異ナル所ナリ(第七一條)

第二 社員ノ權利

社員ノ權利ハ保險關係上ニ於テハ概シテ營業保險契約ニ於ケル保險契約者ノ

社員ノ權利

解除權ト  
退社權

保險料及  
積立金  
拂戻金  
受クル權

權利ト同シク我國相互保險會社ノ實際ニ於テハ兩者殆トシテ雖トモ  
法律上社員關係ニ就テ特種ノ規定アルカ爲メニ自ラ影響ヲ受クル點無シトセス  
例ヘハ保險契約ヲ解除スルノ權利ト退社スルノ權利トノ關係ハ前項ニ述ヘタル  
如クニシテ保險料又ハ責任準備金ノ返還ヲ受クル權利モ普通ノ保險契約者トシ  
テハ其期限ニ關シ現行商法ニ於テ何等ノ規定ヲ見サルニモ拘ハラズ保險業法ニ  
於テハ第六十八條ニ

退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六箇月内ニ之ヲ爲スコ  
トヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ  
因リテ消滅ス

ト規定セリ勿論最近ノ商法修正案ニハ保險料返還ノ義務モ保險金支拂ノ義務ト  
同シク二年ノ時効ニ罹ルトシ又被保險者ノ爲メニ積立タル金額ヲ拂戻ス義務  
ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス「ト」ノ一條項ヲ加フルコトナレ  
ルヲ以テ一部ノ一致ヲ得タリト言フヘシ

保險契約者カ他人ヲシテ其權利義務ヲ承継セシムル場合ニハ相手方タル保險者ノ承諾ヲ要スルハ一般ノ法理ヨリシテ當然ノ事態ナルモ保險契約ニ在リテハ從來保險者カ保險契約者ノ變更ニ重キヲ置カサル結果之ヲ自由ニシ我國保險會社ノ古キ規則ニハ保險契約者ヲ變更セント欲スルトキハ新舊契約者連署ヲ以テ申出ツヘシト謂フカ如キ文言ヲ見タルコトアリ之カ習慣ト爲リテ今日一般ニ保險者ノ認ムル所タリ然ルニ相互保險會社ノ社員ハ形式上ニモセヨ會社ヲ組成スル所ノ要素ノ一員タルヲ以テ其交代ハ稍之ヲ重要視セサルヘカラサルノ道理ヨリシテカ保險業法ニ於テ左ノ二箇ノ規定ヲ設ケタリ

損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承継スルコトヲ得(第四十條)  
 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承継セシムルコトヲ得(第四十一條)

是ニ由リテ觀レハ損害保險ニ於テハ社員カ目的ノ讓渡ニ基カスシテ單純ニ他人ヲシテ其權利義務ヲ承継セシムルコトハ全ク認メラレス目的ノ讓渡ニ就テモ

會社ノ承諾ナケレハ讓受人ハ承継ヲ爲スコト能ハサルモノニシテ此點ハ我商法ノ規定(第四十四條)ト大差アル所ナリ勿論商法第四百四條ニハ

被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

トアリ保險業法ノ規定トハ表面ニ於テハ別問題ナルカノ如クニ見エ即チ此規定ハ先ツ被保險者カ讓渡人タル場合ヲ規定シタルモノニシテ保險契約者カ讓渡人タル場合ヲ規定シタルモノニ非ス次ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ目的トシタルモノニシテ保險契約者ノ權利義務ヲ目的トシタルモノニハ非サレトモ相互會社ノ社員カ被保險者タル場合ニハ(立法者ハ此場合ヲ想像シタルナリ何トシテハナレトモ)保險業法第四十條ノ規定ハ自ラ商法ノ例外ト爲ルモノト言ハサルヘカラサルナリ而シテ又生命保險ニ於テモ會社ノ承諾ヲ得サレハ社員カ他ノ保險契約者ト交替スル能ハサルハ相互保險ニ於ケル保險契約者ノ異色ナリト謂ハサルヘカラス

保險契約者カ死亡又ハ隠居シタルトキハ保險契約ハ當然其相續人ニ移ルヘキモノタルモ相互保險ニ於テハ其然ラサルコトナリ即チ保險業法第六十六條ニ依リ社員ハ死亡ニ因リテ退社スルヲ以テ保險契約ハ之ニ因リテ消滅セサルヘカラス而シテ隠居ノ效果ハ固ヨリ社員ノ如キ人的關係ニ及フモノニ非サルヲ以テ保險契約ハ依然トシテ元ノ保險契約者ニ依リテ存スルナリ社員破産ノ場合モ亦普通ノ保險契約者ノ破産ノ場合ト異ナリ同條ニ依リ社員ハ之ニ因リテ退社スルヲ以テ商法第四百五條第三項及ヒ第四百六條ノ規定ハ相互保險會社ノ保險契約者ニ對シテ適用ナキモノト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ相互保險會社ト保險契約者ニ爲ス者ハ是等ノ點ニ於テ非常ナル不利不安ナル地位ニ立ツモノナリ

上述ノ如ク相互保險ニ於テ保險契約者ノ死亡ノ爲メニ保險契約カ消滅スルコトトセハ現行商法第四百二十八條第四項ノ規定即チ保險金受取人カ死亡シ又ハ被保險者トノ親族關係カ止ミ而モ保險契約者カ新ニ受取人ヲ指定セス又積立金ノ拂戻ヲモ請求セスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金受取人トスルト云フ規定モ亦之ヲ修正シタル最近修正案ノ條項モ相互保險契約ニ對シテハ適

用ナキモノニシテ保險金受取人ノ爲メニ非常ニ不利益ナル結果ニ陥ラサルヘカラサルナリ

最後ニ相互保險會社ノ保險契約者即チ社員ニ最特種ナル權利トセララル所ノモノハ會社ヨリ剩餘金ノ分配ヲ受クルノ點ニ在リ然レトモ會社ニ基金ノ存在スル間ハ剩餘金ハ必シモ社員ノ獨占ニアラスシテ基金釀出者モ其一部分ノ分配ニ與ルヲ常トシ普通定款ニ於テ之ヲ定メタリ之ト同時ニ營業保險契約ニ於テモ保險契約者カ會社利益ノ一部分ノ分配ニ與ルコトヲ以テ現今ノ保險事業ニ於ケル普通ノ習慣ト爲スヲ以テ此點ハ兩者ノ間ニ大ナル差異ナシト謂ハサルヘカラス

### 第三節 保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ボス

#### 事由

保險契約ノ效力ハ諸種ノ事由ニ依リテ影響ヲ被ルモノナルカ我商法ニ於テハ之ヲ別チテ(一)無効(二)失効(三)解除(四)保險者カ給付ノ責ニ任セサル場合(五)保險者カ以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負ハサル場合トシテ規定セリ而シテ是等ノ場合ハ皆其

契約無効  
ノ原因

第二編 本論 第六章 保險契約ノ效力 第三節 保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ボス事由 三一六

適當ナル箇處ニ於テ論シタリト雖トモ茲ニ復習ノ爲メニ之ヲ列記セント欲ス

第一 保險契約無効即チ不成立ノ原因

一 超過保險ノ事實但超過分ノミ無効トス(第三八條)

二 危險ノ發生ニ關スル當事者ノ一方又ハ被保險者ノ知情(第三九條)

三 告知義務ノ違反(第三九八條及  
第四二九條)

最近ノ商法修正案ニハ之ヲ以テ解除ノ原因ト爲セリ

四 第三者ノ爲メニスル契約ナルコトノ不告(第四〇條)

五 保險申込ニ際スル重複保險又ハ共同保險ノ不告(火災、海上、運送等ノ保險ニ於テ通常保險約款ノ定ムル所

リナ)

六 被保險者ノ年齢相違但實際年齢カ保險者ノ契約シ得サル年齢ナリシ場合

ニ限ル(生命、傷害等ノ保險  
ニ限ル約款ニ定ムラル)

失効ノ原因

第二 契約失効ノ原因

一 保險ノ目的ノ讓渡ニ因ル危險ノ著シキ變更增加(第四〇四條)

相互保險契約ニ就テハ保險業法第四十條ニ特別規定アルコトハ前節ニ述ヘ

タル如クニシテ會社ノ承諾ヲ得サレハ讓受人ハ保險契約上ノ權利ヲ取得スル能ハサルヲ以テ之カ例外タリ

二 保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ危險ノ著シキ變更增加(第四一條)

三 保險者ノ責任開始前ニ於ケル航海ノ變更(第六六條)

四 浮動證券ヲ以テ積荷ノ保險ヲ爲シタル後保險契約者カ其船名及ヒ國籍ヲ知リテ之ヲ遲滞ナク保險者ニ通知セサリシトキ(第六六條第二項)

五 契約成立後ニ於ケル重複保險又ハ共同保險ノ端緒、目的ノ移轉、改築、修繕及ヒ目的ノ讓渡ノ事實ノ不告(火災、海上、保險ノ約款ニ於テ見ル所ニシテ)

六 被保險者カ失喪ノ宣告ヲ受ケタルトキ(生命、保險ノ特種ノ事由ニシテ保

以上ハ我商法及ヒ二三保險種類ニ屬スル保險約款ニ定メラルル所ノモノナリト雖トモ保險契約カ因テ以テ其效力ヲ失フ所ノ當然ノ事由ハ保險者ノ義務ノ履行ト保險契約ノ要素ノ消滅ニ在リ故ニ次ニ之ヲ列舉スヘシ

七 保險者カ給付ヲ行ヒタルトキ但一部ノ給付ヲ行ヒタルトキハ其部分ノミ效力ヲ失フモノトス

第二編 本論 第六章 保險契約ノ效力 第三節 保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ボス事由 三一七



解除ノ原因

- 八 保險期間ノ滿了又ハ短縮
  - 九 被保險利益ノ消滅
  - 十 危險ノ消滅
  - 十一 保險料ノ不拂
  - 第三 契約解除ノ原因
    - 一 當事者ノ合意(但保險契約者ヨリハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ請求シ得ルモノトスルナ一般ノ習慣トス)
    - 二 當事者ノ破産(第四〇五條)
    - 三 保險者ノ責任開始前但保險契約者ヨリ請求スルコトヲ得(第七四〇條)
    - 四 保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸セサル危險ノ著シキ變更増加但保險者ニ於テ解除權ヲ有ス(第四一一條)
- 保險契約ノ解除ハ總テ將來ニ向テ效力ヲ生スルモノトセララルモノニシテ是レ保險契約ハ危險擔保ノ契約ニシテ既往ニ於テ爲シタル保險者ノ擔保ハ之ヲ打消スヲ得サルヲ以テナリ然レトモ第三號ノ場合ハ保險者ノ責任カ未タ始マラサル前ナルヲ以テ之カ例外ナリトス

保險者カ給付ノ責ニ任セサル場合

- 第四 保險者カ給付ノ責ニ任セサル場合
    - 一 損害カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタルトキ但特約ナキトキニ限ル(第九三條及七三條)
    - 二 損害カ保險ノ目的ノ性質瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタルトキ(第九三條)
    - 三 被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ竝ニ保險金受取人カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ(第九四條)
    - 四 船舶ニ關スル保險ニ於テ航海準備ヲ忘リタルニ因リテ生シタル損害(第六六條及第六七條)
    - 五 積荷ニ關スル保險ニ於テ備船者荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害(第六六條及第六七條)
    - 六 一揆暴徒若クハ海賊ヨリ蒙ル損害密輸出入ヲ謀リ又ハ戰時禁制品ヲ積込メルニ因リ若クハ檢疫ニ因リテ生スル損害(海上保險約款ニ於テ通常見ル所ナリ)
    - 六 地震噴火ノ損害(運送保險火災)
- 此外尙多クノ場合カ保險ノ種類ニ由リ保險者ノ便宜ニ依リテ其責任ヨリ除

外セラルルヲ以テ實際ニ當リテハ各保險約款ニ就キテ之ヲ知ラサルヘカラサルナリ

以後ノ事  
以テ付キ  
責任セキ  
故ニ事  
責ニ合  
サル

第五 保險者カ以後ノ事故ニ付キ責ニ任セサル場合

- 一 保險者ノ責任開始後ノ航海變更(第六二條第六項)
- 二 航路ノ變更其他ノ危險ノ變更增加(第六三條第六項)
- 三 積荷ノ保險ニ於ケル船舶ノ變更(第六六條第五條)
- 四 船舶所有者船長又ハ船舶ノ構造ノ變更(海上保險約款ニ見ル所ナリ)
- 五 船舶カ戰時ニ軍用又ハ運送用トシテ使用セララルトキ(同上)
- 六 被保險者カ傷害ニ遭ヒテ治療費ヲ受クル間ニ保險契約者被保險者又ハ其相續人カ正當ノ理由ナクシテ保險者ノ派遣シタル醫師ノ身體診査ヲ拒ミタルトキ(日本傷害保險株式會社約款)

給付義務  
發生ス  
ル時期

第七章 保險者ノ給付

保險契約ニ因リテ負擔セラレタル危險事項發生シ其時契約カ有效ニ存續セルトキハ保險者ノ給付義務發生スルモノトス但被保險者又ハ保險金受取人カ之ヲ通知且證明シタル後始メテ保險者ノ義務發生ストノ說アリト雖トモ這ハ寧ロ義務ノ證明ニシテ義務其者ハ事故ノ發生シテ損害ノ生シタル時ニ生シタリトスルヲ穩當ナリトス而シテ給付ハ通常金錢ヲ以テ行ハルト雖トモ損害保險ニ在リテハ時トシテ代物又ハ修補ヲ以テ之ヲ爲スコトアリ傷害疾病等ノ保險ニ在リテモ藥餌用品等ノ現物又ハ治療ノ事實ヲ以テ給付スルコトアリ次ニ之ニ關スル諸般ノ事項ヲ記述セント欲ス

全部ノ損  
害ト一部  
ノ損害

損害ニハ全部ノ損害ト一部ノ損害トアリ生命保險ニ於テハ損害ハ必ス全部トシテ發生スルカ故ニ保險金ハ常ニ全部支拂ナリト雖トモ損害保險ニ在リテハ被保險利益ノ全部カ滅失スル場合ト一部カ滅失スル場合トアリ前者ニ對シテハ保險金全部ヲ支拂ヒ後者ニ於テハ比例ヲ以テ之ヲ填補スルモノトス但疾病傷害等

小損害

ノ保險ハ其保險金額ヲ定ムル場合ニハ通常生命保險ノ如ク定額保險ナリト雖トモ給付ニ際シテハ疾病傷害ノ輕重ニ應シテ之ヲ爲スコト前ニ述ヘタルカ如シ被保險利益ノ一部分カ損害セラレタル場合ニ於テ其部分カ過小ナルトキニハ之ヲ度外視シテ填補セサルコトアリ例ヘハ我商法第六百六十八條ニ

共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セズシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

トアリ當事者ハ尙之ヲ擴張シテ百分ノ四又ハ五ト云フカ如キ約款ヲ設定セリ是レ此ノ如キ小損害ハ之ヲ填補スルノ寧ロ煩ニシテ利甚キヲ以テナリ又舊商法第六百七十條ハ土地產物ノ保險ニ關シテ

保險者ハ損害ノ額カ其損害ノ生スルニ非サレハ產物ノ有シタルヘキ價額ノ少クトモ四分一ニ滿タサルトキハ其責ニ任セス

ト規定セルカ如キモ同一理由ニ因リ特ニ土地ノ產物ハ相場ノ爲メニ價格ノ變動多ク又多少ノ減作ヲ免レサルモノナルカ故ニ保險者ノ責ニ任セサル範圍ヲ大ニシタルナリ

海上保險  
ニ於ケル  
損害

海上保險ニ在リテハ特ニ全部損失ト一部損失トヲ區別シ全損及ヒ分損ノ名稱ヲ設ケ又全損ヲ分チテ絕對的全損ト假設的全損トセリ前者ハ保險ノ目的カ眞ニ全部滅却シテ回復スヘカラサルニ至リシ場合ニシテ後者ハ實際皆滅ニ至ラサルモ被保險者ニ對シテ全部ノ損失ト爲リタル場合例ヘハ船舶カ不毛ノ海岸ニ打上ケラレテ之ヲ引卸スニ由ナキ場合又修繕スレハ其費用カ却テ保險價額ヲ超過スル場合ノ如シ被保險者ハ其孰レニ對シテモ全金額ヲ請求シ得ルモノトス分損モ亦之ヲ分チテ共同海損ト單獨海損ト二ト爲スコトヲ得共同海損トハ海上危險ノ發生ニ際シ船舶又ハ全荷物ヲ保護センカ爲メニ人爲ヲ以テ船舶又ハ積荷ノ一部ニ加ヘタル處分ニ因スル損害ニシテ例ヘハ暴風ニ對シテ投荷ヲ爲シ又ハ帆檣ヲ切リテ救護ヲ試ミ又ハ燃料ノ缺乏ノ爲メニ積荷若クハ船材ヲ之ニ代ヘタル等ノ爲メニ生シタル損害ノ如ク德義上獨リ船主又ハ當該荷主ノ被ルヘキ損害ニアラスシテ船主及ヒ總テノ荷主カ共同シテ負擔スヘキ損失ナリ保險契約ヲ以テ此種ノ損失ヲ填補セシムルハ當ニ損害排除ノ效用ヲ爲スノミナラス德義ノ實行ヲ獎勵スルモノナルカ故ニ我商法ニ於テモ第六百五十五條ニ

保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス  
 ト規定シ又前記第六百六十八條ニ於テモ共同海損ニ限り保險價額ノ百分ノ二以  
 内ト雖トモ保險者ヲシテ填補セシムルコトトセリ次ニ單獨海損トハ任意ニアラ  
 スシテ危險ニ因リ直接ニ船舶又ハ積荷ニ發生シタル損害ニシテ其所有者カ獨リ  
 負擔スヘキモノナリ多クノ保險證券ニ特擔分損不擔保ナル文字ノ記載セラルル  
 ハ保險者カ此單獨海損ノ填補ヲ除外センカ爲メニ挿入シタル字句ナリ是レ此種  
 ノ損害ハ其發生ノ場合比較的ニ少キト之カ過失又ハ自然ニ因スルコト多キカ故  
 ナリ

主タル損  
害ト從タ  
ル損害

損害ニハ主タル損害ト從タル損害トアリ例ヘハ保險ニ付セラレタル家屋又ハ  
 物品カ火災ニ罹リタル場合ニ直接火力ヲ蒙リタル爲メニ生シタル損害ハ主タル  
 損害タリ然レトモ消防ノ必要上破壊セラレタル爲メニ生シタル如キハ從タル損  
 害タリ又所謂火事場泥坊ノ爲メニ竊取ノ災ニ遭フ如キモ從タル損害タリ保險者  
 ハ其主タルト從タルトヲ問ハス之ヲ填補スヘキモノニシテ火災保險會社ノ約款  
 ニ於テ保險ノ目的ノ紛失竊取ノ損害ヲ負擔セサル旨明約セルハ只其眞實ナルヤ

損害防止  
ノ費用

否ヤヲ知ルニ困難ナルノ理由ヨリスルナリ

損害防止ノ費用モ亦從タル損害ノ班ニ列スヘキモノニシテ抑保險契約ハ被保  
 險利益ノ破壊ヲ填補スルヲ以テ目的トスト雖トモ此破壊力ヲ防禦シ應急手段ヲ  
 取ル爲メニ當然要シタル費用モ亦保險者ノ負擔スヘキモノナリ何トナレハ此ノ  
 如キ手段ハ保險者ノ給付義務ヲ輕減スルノ結果ヲ生スルモノナレハナリ然レト  
 モ一部保險ノ場合ニ於テハ獨リ保險者ノミナラス被保險者モ亦其利益ヲ受クヘ  
 キモノナルカ故ニ雙方ニテ之ヲ分擔セサルヘカラス即チ商法第四百十四條第二  
 項ヲ以テ保險者ノ比例負擔主義ヲ適用スヘキ旨ヲ定メタリ而シテ此損害防止ノ  
 義務ハ獨リ損害保險ニ於テ規定セラレ生命保險ニハ之カ適用ナキコトハ曩ニ述  
 ヘタル如クナルヲ以テ從テ被保險者カ死亡スルニ當リ醫療ヲ加ヘタリトテ其代  
 價ヲ保險者ニ請求スル能ハサルハ勿論ナリ但傷害保險ニ在リテハ保險者ハ傷害  
 ニ對スル應急手當及ヒ醫療ノ義務ヲ被保險者ニ要求スルモ而モ其費用ヲ保險者  
 ノ負擔セサルハ人類カ自己ノ身體ヲ保護スルハ人道上ノ責務ニシテ且之カ爲メ  
 ニ利益ヲ得ルハ保險者ヨリモ寧ロ自己ニ於テ甚大ナレハナリ

從タル費用中ニハ損害ノ額ヲ計算スルニ必要ナル費用ヲモ包含スルモノニシテ例ヘハ共同海損ノ精算人又ハ損害鑑定人ノ日當報酬等即チ之ナリ而シテ我商法ノ規定ニ從ヘハ是等ハ當然保險者ノ負擔スヘキモノトセラレタリ(第三九三條第二項)然レトモ是レ果シテ道理ノ正當ナルヘキヤ既ニ損害ヲ證明スルノ義務カ被保險者ニ存スル以上ハ其證明ニ必要ナル費用ハ被保險者自身之ヲ負擔シテ可ナル所ニ非スヤ若シ夫レ保險者カ其信賴スヘキ特別ナル技術家ノ計算ヲ要求スル場合ニ於テコソ只始メテ之ヲ自家ノ便益ノ爲メニスルモノト言フヲ得ヘキナレ故ニ此費用ノ文字ハ之ヲ最狹義ニ解釋セサルヘカラス

火災ニ於テ燒跡ヲ整理シ板圍ヲ爲スカ如キ費用モ火災ニ伴フ從タル損害ト云フヲ得ヘシト雖トモ此ノ如ク擴張スルトキハ見舞人ニ供シタル酒飯ノ費用マテモ損害ト云ハサルヘカラサルニ至ルヘシ故ニ吾人ハ從タル損害ニ限度ヲ劃スルノ標準ヲ有セサルヘカラス即チ此ノ如キ損害ハ火災ヨリ生セルニハ相違ナキモ當該保險ノ目的トハ何等ノ物質的關係ヲ有セサルヲ以テ保險者ノ負擔スヘキ損害ト云フヘカラサルナリ

保險期間中ニ契約ノ危險發生シテ保險者カ保險金ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ之ヲ以テ保險契約ノ效力消滅スルコトハ言フ俟タス而シテ損害カ保險ノ目的ノ一部ニ發生シテ保險者カ保險金ノ一部ヲ支拂フニ過キサリシトキハ殘餘ノ金額ニ付テハ殘餘ノ期間ニ對シテ尙責任ヲ負フコト亦一般ノ原則トスル所ナリト雖トモ或種ノ保險ニ於テハ之カ例外ヲ設クルコト少カラス例ヘハ我國ノ火災保險約款ニ於テ殘額カ保險金額ノ五分ノ一未滿ナルトキハ全部ノ損害ト看做シ保險契約ハ終了スルモノトスト規定セル如キ又傷害保險ニ於テ保險金額ノ三分ノ一以上ヲ支拂ヒタルトキハ之ヲ以テ契約ノ終了スルモノト定ムルカ如キ即チ之ナリ

保險者ノ給付スヘキ金額ニ就テ保險者ト被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ間ニ意見ヲ異ニスル場合少カラス是レ人情ノ當然ニシテ保險者ハ成ルヘク嚴重ニ損害ノ累積ヲ爲シ相手方ハ成ルヘク多額ノ給付ヲ得ント欲スルハ止ムヲ得サルノ傾向ナレハナリ而シテ此ノ如キ場合ニ直ニ之ヲ法廷ニ爭フトキハ當ニ保險者ノ信用ヲ害スルノミナラス雙方ノ損失ヲ招キ又濫訴ノ弊ニ陷ルノ恐ア

ルヲ以テ是等ノ不利益ヲ避ケンカ爲メニ保險會社ハ皆其約款ニ於テ仲裁(Arbitration)ノ方法ヲ規定シ例ヘハ火災海上等ノ保險ニ於テハ保險ノ目的ノ價格又ハ損害ニ付キ信用保險ニ於テハ保險者ノ填補スヘキ損害額ノ決定ニ付キ傷害保險ニ在リテハ不具癆疾ノ程度又ハ治療費拂渡ノ停止ニ關シ保險者ト被保險者ト意見ヲ異ニシタル場合ニハ雙方ヨリ一名ツツノ鑑定人ヲ選定シテ之ヲ決定セシメ鑑定人ノ意見一致セサル場合ニ於テハ鑑定人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選定シ之ヲ判斷セシムルモノトシ此判斷ニ對シテハ雙方異議ヲ主張スルコトヲ得ス又鑑定及ヒ仲裁ニ要シタル費用ハ雙方半額ツツ負擔スルモノトスト云フカ如キ條項ヲ設ケタリ而シテ給付ニ對スル請求權ノ有無カ爭トナレル場合ニハ固ヨリ裁判所ニ訴フヘキモノナリトス

## 第八章 保險契約ノ移轉

保險契約ノ移轉トハ固ヨリ正確ナル言語ニ非スト雖トモ大體之ヲ二種ノ移動ニ別ツコトヲ得ヘシ一ハ保險契約者ノ權利義務ノ承繼ニシテ二ハ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ナリ

保險契約者ノ權利義務ノ移轉

保險契約者カ其權利義務ヲ他人ニ承繼セシムルハ法律上契約ノ更改ニシテ保險者ノ承諾ヲ得サレハ之ヲ行フコト能ハサルハ一般契約ノ原則ヨリシテ明ナリ(民法第五故ニ第六章ニ於テ述ヘタル如ク新舊保險契約者連署ヲ以テ保險者ノ承諾ヲ要求スルハ即チ其正常ナル手續ナリト雖トモ我國ニ於ケル從來ノ習慣ニ依レハ生命保險ニ於テハ單ニ保險契約者ヨリ保險申込書訂正届ナルモノヲ差出サシメ之ニ依リテ保險證券ヲ訂正スルノミ又火災海上等ノ保險ニ於テハ殆ント其實例ナクシテ今日ニ至レルナリ是レ通常保險契約ニ於テハ保險者カ保險契約者ノ人格支拂能力等ニ重キヲ置カサル結果ナルヘシト雖トモ法律上ノ關係ハ之ヲ明知スルノ必要アルナリ保險契約者ノ死亡隱居ニ因ル承繼相互保險契約ニ於ケ

保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ移轉

ル特例等ハ曩ニ述ヘタル如クナレハ茲ニ贅セス  
次ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ移轉ヲ吟味センニ我商法ニ於ケル此言  
語ハ其意義頗ル曖昧ナリト雖トモ要スルニ保險契約ノ利益ヲ享受スルノ權利ト  
解スヘシ而シテ保險上ノ利益ヲ享受スル者ハ本來之ヲ有スル者ニシテ損害保險  
ニ在リテハ被保險者即チ之ナリ故ニ被保險者ニ非サレハ其權利ヲ他人ニ讓渡ス  
ヲ得サルヲ當然トス然ラハ其讓渡ノ手續如何ト云フニ債權讓渡ノ手續ニ據ルヘ  
キモノナレトモ通常之カ他ノ方法ヲ以テ行ハルルヲ見ルナリ而シテ此權利ノ讓  
渡ハ多クハ左ノ二個ノ場合ニ行ハル

保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキ

一 保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキ  
被保險者カ保險ノ目的ヲ他人ヘ讓渡ストキハ保險契約ハ利益關係ノ消滅ニ因  
リテ同時ニ消滅スルヲ法理上ノ當然トスト雖トモ是レ實際上甚シキ不利ヲ招  
クモノナルヲ以テ我商法ニ於テハ特ニ便宜的ノ規定ヲ設ケ第四百四條ニ  
被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタ  
ル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

保險ノ目的ヲ買入

ト規定セリ故ニ此場合ニハ被保險者ハ債權讓渡ノ手續ヲ要セス只保險會社ニ  
在テハ其約款ヲ以テ遲滯ナク讓渡ノ事實ヲ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受  
ケシメ之ヲ怠リタルトキハ契約ハ其效力ヲ失フ旨ヲ規定スルノミ

二 保險ノ目的ヲ擔保ニ供シタルトキ

此場合ニ被保險者カ抵當權者ニ其權利ヲ讓渡スルコトアリ然レトモ通常ハ債  
權讓渡ノ手續ヲ取ラス保險金ヲ受取ルヘキ者ヲ何某トスル旨ノ通知ヲ保險者  
ニ向ツテ發シ其旨保險證券ニ裏書セシムルコトトセリ  
以上二個ノ外被保險者ハ何人ニテモ其好ム所ノ者ニ其權利ヲ讓渡スルコトヲ  
得ヘク又其死亡隱居ニ因リテ之カ其相續人ニ移轉スルハ勿論ナリ

任意及ヒ相續ニ因ル承繼

保險金受取人ノ讓渡

生命保險ニ在リテハ保險金受取人カ損害保險ニ於ケル被保險者ノ地位ニ在ル  
モノナルカ故ニ若シ生命保險ヲ以テ保險金受取人ノ利益ヲ保險スルモノトセハ  
受取人カ獨リ其權利ヲ他人ニ讓渡シ得ルモノト言ハサルヘカラス而シテ我商法  
ノ趣旨モ即チ是ニ存スルカ如ク最近ノ商法修正案ハ更ニ之ヲ明瞭ニセリ然レト  
モ相續ニ因ル承繼ハ損害保險ニ於ケルカ如クナラス又何人ニモ自由ニ之ヲ讓渡

スコトヲ許サスシテ現行商法ニ在リテハ被保險者ノ親族ニ限リ其修正案ニ於テハ被保險者ノ同意アル者ニ限ルトセルハ被保險利益ノ範圍ヲ制限シタル結果ナリト説明スルヲ得ヘシ我國ノ生命保險會社ハ此點ニ於テ解釋ト取扱ヲ區々ニスルカ如シ宜シク考フヘキナリ

特異ナル  
權利ノ移

最後ニ予ハ他ノ意味ニ於ケル一種ノ保險契約ノ移轉ヲ紹介セサルヘカラス現ニ生命保險會社ニ於テ行ハレタル所ニシテ例ヘハ二十歳ノ被保險者カ二十五歳ニ至ルマテ保險契約ヲ繼續シ來リタルニ事情ノ爲メ保險料ヲ拂續クル能ハサルトキハ會社ハ之ヲ他ノ同年齡ノ被保險者ニ讓渡シ其健康ニ付キ異議ナキトキハ新ナル保險契約者ヲシテ契約ヲ繼續セシムルコトヲ許スナリ是レ獨リ生命保險ニ於テノミナラス疾病傷害又ハ火災ノ保險ニ於テモ危險程度ノ同一ナル目的ヲ交代セシムルコトハ保險者ニ取リテ損ナク保險契約者ニ於テ利アルモノナレハ之ヲ實行スルニ不可ナルヲ見スト雖トモ此ノ如キ行爲ノ法律上ノ性質ハ頗ル複雑ナルヘク予ハ曩ニ之ヲ以テ保險契約ノ形式ノ移轉ト呼ヒタリシカ志田博士ハ此ノ如キ言語ノ法律教科書中ニ在ルヲ穩當ナラスト評セラレタルヲ以テ予ハ尙

其性質ト適當ナル言語ニ就テ世ノ示教ヲ請ハント欲ス



### 第九章 保險契約ノ時効

時効ノ年

商行爲ニ因リテ生シタル債權ノ時効ハ商法第二百八十五條ニ依リ五年ヲ原則トスト雖トモ保險契約ニ就テハ同第四百十七條ニ特ニ短キ期間ヲ定メ

保險金額支拂ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

ト規定セリ而シテ保險料返還ノ義務及ヒ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額支拂ノ義務ニ就テハ保險業法ニ於テ相互保險契約ニ付キ二年ノ時効ヲ定メタル外從來規定ヲ缺キタリシカ今回ノ修正案ニハ各二年ト定メタリ

短期時効ノ理由

保險契約ニ對シテ特ニ此ノ如キ最短期ノ時効ヲ定メタルハ蓋營業者タル被保險者カ一年以上モ其權利ヲ等閑ニ付スルノ理由ナク又保險金ノ支拂ニ付テハ一ハ證據ノ湮滅ヲ防ク爲メ一ハ保險ヲ付スル如キ用意周到ナル者カ二年ノ長日月ヲ空ウスルカ如キハ事實上存セサルカ爲メナリ返還スヘキ保險料及ヒ積立金ニ付テモ亦然リ凡テ是等ノ規定ハ其當ヲ得タリト謂フヘシ

更ニ短期ナル定期ノ時効

然ルニ多數ノ保險會社ハ其約款ニ於テ被保險者又ハ保險金受取人カ事故ノ發生ヲ知リタルトキヨリ十五日間一箇月又ハ二箇月ト云フカ如キ定メラレタル期間内ニ必要ナル證明書類ヲ提出シテ保險金ノ請求ヲ爲ササルトキハ會社ハ保險金支拂ノ責ヲ免ルル旨ヲ規定セリ是レ時効ノ規定ニ牴觸スルモノニ非サヤトノ説アリえ一れんべるひ氏ハ時効ニ關係ナキ特別ノ契約條項ナリト説明セリト雖トモ此條項ハ即チ時ニ關スル權利ノ消滅ヲ約シタルモノニシテ法律カ規定セハ即チ時効トナルモノニシテ單ニ危險發生ノ通知證明ヲ忘リタル爲メニ被保險者ノ請求權カ消滅スルトハ同日ノ論ニアラサルナリ故ニ若シ此ノ如キ特別ノ規定カ時効ニ對スル任意規定ナリト認メラルルナラハ予ハ時効ハ延長ヲ許ササルモ短縮ハ任意ナリトノ説ヲ以テ此規定ヲ活用セント欲スルナリ

時効ノ短縮

時効ノ起算點

次ニ時効ノ起算點如何ト云フニ保險料ニ就テハ正當拂込期日(猶像期間アフ)ヨリシ返還スヘキ保險料又ハ積立金ニ付テハ返還スヘキ事由ノ生シタルトキヨリスルヲ以テ更ニ疑フヘキ所ナシト雖トモ保險金ノ支拂ニ付テハ異論アリ一ハ事故發生ノトキトシ二ハ保險契約者被保險者又ハ保險金受取人カ事故ノ發生ヲ知

リタルトキトシ三八被保險者又ハ保險金受取人カ給付ノ請求ヲ爲シタルトキヨ  
 リスルモノトス證據ノ湮滅其他ヲ以テ保險者ヲ保護セントスル見地ヨリスレハ  
 第一說ヲ可トスルモ事故ノ發生ハ被保險者又ハ保險金受取人ノ知ラサルコト往  
 往ナキニアラス之ニモ拘ハラズ直ニ時效ヲ進行セシムルハ酷ニ失ストノ論モア  
 ルヘシ故ニ第二說ニ依ラントスレハ縱令被保險者又ハ保險金受取人カ事故ノ發  
 生ヲ知リタリトスルモ損害ヲ證明スルニ時日ヲ費シ保險者ヲ満足セシメントス  
 ル間ニ時效期間ノ經過ヲ見ルノ恐ナキニ非サルヲ以テ第三說ニ從フヘシトノ意  
 見アルニ至ル然レトモ是レ稍極端ノ嫌ナキニ非ス第二說ヲ以テ最穩當ナル解釋  
 ト謂ハサルヲ得サルナリ

## 日本保險法論終

## 日本保險法論跋

親友粟津博士ハ保險學ノ大家ニシテ學理及ヒ實際  
 ノ兩方面ヨリ保險ノ經濟的、法律的、統計的及ヒ數理的  
 ノ研究ヲ遺憾ナク發揮セラレ今ヤ進テ其抱負ヲ實地  
 ニ應用スルノ途ニ上ラル吾曹ノ如キ保險學ト密接ノ  
 關係ヲ有スル者ハ博士ノ過去ノ研究ニ對シテ感謝ノ  
 意ヲ表スル辭ナキニ苦シムト同時ニ博士ノ將來ノ事  
 業ニ對シテ成功ノ必然ナルヲ確信スルモノナリ

博士ノ名著ハ其數尠カラス就中保險法ハ保險學綱  
 要ト共ニ其白眉タルコト世既ニ定評アリ而シテ前者

ハ吾曹カ嘗テ歐洲留學ヲ終テ歸朝シタル際ニ著作セラレタルヲ以テ學友タルノ責ヲ果サンカ爲メ之ニ妄評ヲ加ヘ却テ筆罪ノ輕カラサルヲ自覺セリ後者ハ吾曹カ清國ノ招聘ニ應シテ北京ニ在ルノ日ニ上梓セラレタルヲ以テ學友タルノ責ヲ果ササルノ罪科ニ陥リ却テ妄評ノ筆罪ヲ免レタリ然ルニ博士ハ爾今其傷害保險事業ノ進行ノ爲メ永ク其健筆ヲ休止スルノ恐アルヲ遺憾トシ新著保險學綱要ト兩兩相俟テ雙璧タルヘキ保險法ノ訂正ヲ試ミ之ヲ日本保險法論ト題シ其上梓ニ際シテ特ニ吾曹ニ向テ跋辭ヲ徵セラル吾曹ハ未タ過去ノ筆罪ヲ贖フ能ハサルニ更ニ之ヲ加重スル

ノ恐アルヲ以テ固辭シタルモ寛大ナル博士ハ吾曹ノ前罪ヲ盡ク宥免シ却テ妄評中採擇シタルモノアル旨ヲ告ケラルルニ至テ更ニ辭スルノ罪科亦輕カラサルヲ思ヒ茲ニ謹テ博士ノ高著ニ裏書スルコトヲ敢テセリ吾曹ノ裏書ハ博士ノ著述ニ何等ノ色彩ヲ副ユルモノニ非スシテ單ニ博士ノ學ニ忠ナル能ク反對ノ見解ヲ熟慮明察シテ怠ラサルヲ贊スルノ辭トナルノミ吾曹ハ明年清國立法ノ任務ヲ終リテ歸朝スルニ至ラハ更ニ本書ノ對幅タル保險學綱要ニ對シテ精評ヲ試ミ博士ノ知遇ニ酬ユルノミナラス學友タルノ責ヲ果サシコトヲ期スヘシ博士モ亦其絶大ノ學力ヲ實地ニ應

用セラルルノ餘暇我保險學界ニ向テ常ニ研究ノ餘滴  
ヲ分タレンコト希望ノ至ニ堪エサルナリ

四

明治四十三年九月

法學博士 志田 鉀太郎

明治四十三年九月十日印刷  
明治四十三年九月十八日發行

日本保險法論叢付

定價 壹圓五拾錢



著作者 粟津清亮

東京市神田區南神保町二番地

發行者 三書樓

合資會社

右代表者 波多野重太郎

東京市本郷區眞砂町三十八番地

印刷者 藤田知治

發行所 東京市神田區南神保町二番地 合資會社 三書樓

發兌元 東京市神田區仲猿樂町 電話本局三二五四番 振替口座六五五六番 巖松堂書店

辯護士福岡伯監修  
巖松堂書店編輯部編纂

新版

法律經濟論題輯覽

(一名專門學者論說索引)

一冊數 六拾錢 送科

本書ハ專門雜誌三十餘種數千冊ニ登載セラレタル法律經濟ニ關スル大家ノ論說ノ題號ヲ教科書的ニ彙別類聚シ各題號ノ下ニ論者、氏名、雜誌名、年度、卷數及號數ヲ掲ケテ其索引ノ便ヲ圖リタルモノナレハ諸法家及ヒ實際家ノ机上ニ缺クヘカラサル珍寶ナリ

再版

明治大學編輯部 法制經濟大意

一冊數 九拾錢 並製六拾五錢 八錢

本書ハ一般國民ニ法律及經濟ノ概念ヲ與ヘ併ヒテ初學者ノ階梯ヲラシメンカ爲メニ著述セラレタルモノニシテ法制大意ノ部ニ於テハ主權、國權、政體、臣民ノ權利義務等ヲ始メトシテ總テノ公法私法ノ大意ヲ說明シ經濟大意ノ部ニ於テハ貨幣、爲替、公債、銀行、租稅等ニ關スル法理其他經濟財政ニ關スル諸事項ヲ簡述セラレタルモノナリ

法學博士 中村進午

新版

法學通論

一冊數 貳拾五錢

法學通論ハ法律學ノ全般ニ涉リテ其大體ヲ會得セシムルノ學ナリ隨テ學者モ之カ記述ヲ難スル所ニシテ其著ニ乏シキ所以ナリ著者中村先生、我邦法學界ノ嚮導トシテ推重セラレルノ人ナリ先生ノ博識ト能文トナリ以テ茲ニ本書ヲ公ニセラル論議明確ニシテ記述序アリ文章雄健ニシテ要領ヲ得タリ良ニ法學通論ノ真著トシテ推稱スルニ憚ラス

法典質疑會

再版

法典質疑錄

三冊數 一冊五拾錢 各六錢

上卷

憲法、行政法、刑法、國際公法、國際私法

中卷 民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法

下卷

破產法、競賣法、裁判所構成法

一本書ハ法學志林第一號ヨリ第三號(四十二年三月)ニ至ル十箇年間發表ノ質疑問答ヲ編輯録シタルモノナリ

一法學志林ノ質疑問答ハ法政大學校友及ヒ法典質疑會々員ノ提出シタル疑問ニ對シ各專門學者カ一々明快ナル答辯ヲ與ヘラレタルモノナリ

一本書ノ解答者ハ梅、富井、富谷、岡村、岡野、岡田、仁井田、志田、加藤、川名、横田、寺尾、副島、中村、秋山、粟津、山田、清水、岡松、山口、織田ノ二十一博士及ヒ上杉、牧野(彌)、牧野(英)、谷野、豊島、松岡、小崎、泉、二、松本、和仁、岩田(甫)、岩田(一)、片山、佐竹、鈴木(英)其他數十ノ學士ナリ

中央法律學館

六版

法學通論

一冊數 參拾五錢 四錢

法學博士 岸本辰雄

二十版

法學通論

一冊數 並製壹圓四拾錢 八拾錢



法學士奧村政雄

版新

新刑法正義

上製壹圓四拾五錢  
並製壹圓貳拾錢  
八拾貳錢

本書ハ逐條講義ノ方法ニ依リ各條毎ニ其意義精神及改正ノ理由等ヲ説明セラルモノニシテ殊ニ其特色トモ稱スヘキハ各條下ニ「字義」ナル一欄ヲ設ケ新刑法ニ於テ始メテ用ヒラレタル法語ハ勿論ナリモ刑法ヲ研究スル者ノ先ツ知ラントトテ要スル法語ヲ説明シ以テ容易ニ條文ノ意義ヲ知ルヲ得セシメタルニ在リ

法曹閣書院

版新

新式刑法論綱

上製壹圓五拾錢  
並製壹圓貳拾錢  
八拾貳錢

法學士草刈融

版再

刑法原理研究

上製壹圓五拾錢  
並製壹圓貳拾錢  
八拾貳錢

法曹閣書院

版新

犯罪論

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

法學士甘糟勇雄

版新

犯罪論ノ範圍

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

犯罪學ノ基礎

版新

犯罪ノ主體

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

社會ト犯罪

版新

犯罪ノ客體

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

犯罪原因論

版新

犯罪ノ主觀的要件

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

法律ト犯罪

版新

犯罪ノ客觀的要件

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

犯罪ノ意義

版新

違法阻却ノ事由

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

犯罪ノ類別

版新

錯誤論

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

犯罪ノ效果

版新

犯罪ノ態樣

壹圓七拾五錢  
拾貳錢

本書前編ハ社會學ヲ根トシテ、社會上ヨリ犯罪ヲ論評シ、刑事政策ヲ説キ、犯罪學ヲ叙述シ、深ク社會心理學ノ靈奧ニ入りテ終ニ哲學ノ玄ヲ鉤ス  
本書後編ハ新刑法ヲ指トシテ、法律上ヨリ犯罪ヲ考察シ東西ノ學說ヲ援キ、判決例ヲ指示シ、廣ク試驗問題ノ解説ヲ試ミテ能ク刑法學ノ疑ヲ闡ク

文章雄健、理論整正、一度ヒ本書ヲ讀メハ坐口ニ卷ヲ措ク能ハサラシム、從來無味潤滑トシテ人ノ厭フ所ナリシモノモ本書ニ依テ無限ノ趣味ノ隨所ニ溢ルルヲ見ン

司法省參事官大場茂馬

版再

刑法各論

貳圓五拾錢  
拾九錢

著者大場先生ハ我刑法學界ノ大家トシテ正統學派ノ重鎮トシテ以テ今其深遠ナル學識ト雄健ナル才筆トヲ以テ刑法各論ヲ公ニシテ著者カ正統學派ノ見地ヨリ犯罪ヲ分類シテ個人ノ法益ニ對スル罪、社會ノ法益ニ對スル罪、國家ノ法益ニ對スル罪ノ三ト爲シ心ヲシメ法典ノ條例ニ據ラサルナリ其上册ニ收ムル所ハ個人ノ法益ニ對スル罪ノ全部ニ屬シ總テ六百三十餘頁ノ大冊ニシテ而モ尙ホ多ク六號活字ヲ用ヒテ紙數ヲ節減シタルモノナレハ内容優ニ千頁ニ近シ洽ク東西ノ學說及判例ヲ引證シ議論明晰、說述詳密、眞ニ新刑法各論ノ良著トシテ近來無比ノモノナリ宜ナルカナ本書一度ヒ世ニ出ツルヤ好評湧クカ如ク幾クモナクシテ再版ヲ促サルルニ至レルコトヤ天下ノ法曹及ヒ學生諸子苟モ學界最新ノ刑法理論ヲ窺ヒテ我カ新刑法ノ眞義ヲ知ラント欲セハ必ラス本書ヲ一讀スルノ要アルヘシ

檢察事 山岡萬之助

版新

刑事政策學

壹圓拾錢  
拾貳錢

檢察事 山岡萬之助

版新

刑事政策根本問題

壹圓拾錢  
拾貳錢

司法省參事官大場茂馬

版新

刑事政策大綱

壹圓五拾錢  
拾貳錢

犯罪ノ發生ハ如何ナル原因ニ基クカ犯罪及ヒ其原因ト牽連スル社會政策ヲ如何ニ料理スヘキカ犯罪ノ檢罪刑罰ノ法定刑罰ノ執行ヲ如何ニスヘキカ大凡此等ノ諸問題ハ皆刑事政策學ノ分野ニ屬スルモノニシテ以テ犯罪ノ撲滅減少ヲ講スヘキ任務ヲ有スル所以ナリ  
著者ハ四歐ニ遊學中夙ク斯學ニ關スル一書ヲ公刊シテ歐洲ノ學界ニ一大警鐘ヲ與ヘ噴々タル盛名ヲ博セラレタリキ爾來造詣益々深ク今ヤ刑事政策學ヲ完成シ全圖セラレ茲ニ本書ノ發行ヲ告グルニ至レリ蓋シ此種ノ著作ハ我國ニ於テハ本書ヲ以テ嚆矢ト爲スヘキモノナリ敢テ當路ノ有司並ニ愛國愛民ノ士ノ座右ニ薦焉  
東京二六新聞ノ評ニ曰ク 著者ハ我國ニ於テ刑事政策學界ノ重鎮ナリ精敏ナル研究ヲ遂ケテ時急ヲ濟フノ實ニ供セントス、考證精透ニシテ議論亦明晰、可及的論ヲ避ケテ斷案ヲ事實問題ノ上ニ置キ其真弊ノ言論ヲ以テ敢テ正統刑法學派ノ爲メニ氣ヲ吐ケリト

判事 田山卓爾

版新

刑法施行法要論

上製九拾錢  
並製六拾五錢  
八錢

新刑法ハ全然舊派ノ思想ヲ棄テテ一躍新派ノ學理ヲ採用シタルヲ以テ舊法ト新法トハ其内容ニ甚タシキ懸隔アリ從ツテ刑法施行法ニ於テモ特殊ノ規定頗多ク到底舊派ノ解說ヲ映タラシムハ之ヲ解シ得ヘキニ非サル也本書ハ刑法法ニ堪能ノ令聞高キ田山判事力其明晰ナル頭腦

ナ以テ得意ノ能ナリシ詳論細説大ニ斯法ノ真髓ヲ開明セラレタルモノニシテラシクモノ難解ナル法條モ本書ナ一讀過スレハ頗ル明白ニ理解ヲ感得スヘシ今ヤ刑事事務ニ關係アルノ士ニ取テハ刑法ノ研究ト共ニ斯法ノ研究ハ急務中ノ一大急務ニ屬ス本書ハ即チ是等人士ノ指針タリ伴信タルニ庶幾フンカ

法學博士 遠藤 源六 版三 刑法 施行法 評釋 一 上製壹圓五錢 八八 鏡錢

釋註 民法全書

卷十全部

釋註 民法全書發行ノ趣旨

民法施行セラレテヨリ茲ニ十年之ニ關スル述作ノ公刊セラレタルモノ少ナカラスト雖モ其全部ニ亘レル學理的ノ著書ハ殆ト之ヲ見ルコトヲ得ス是レ我法學界ノ大缺陷ト謂ハサルヘカラス而シテ其逐條ノ註釋書ニ至リテハ特ニ一層ノ切要ヲ感セシムルハアラズ近時我法學界ノ傾向ハ學理ノ講究ヲ偏重スルノ結果動モスレハ逐條ノ註釋書ヲ輕視スルカ如シト雖モ一國ノ成法ヲ研鑽スルニ當リテハ法文ヲ離レテ學理ヲ求ムルコト能ハス學理ヲ講究セント欲スレハ必ス先ツ法文ノ意義ニ精通セサル可ラサルナリ故ニ註釋書ニシテ兼テ學理ノ蘊奧ヲ極メタルモノアラハ講學者及ヒ實際家ニ對スルハ上ノ指針タルヘシ而シテ此ノ如キ良著ヲ渴望セルノ急ナルニ拘ハラズ未タ之ヲ得ルコト能ハサルハ蓋シ其編纂事業ノ至難ナルニ由ルモノナルヘシ今敢テ吾カ微力ヲ願ヒス茲ニ註釋民法全書ヲ發行スル所以ノモノハ一世人ノ此渴望ヲ充タシテ以テ我法學界ニ貢獻スル所アラントスルノ微意ニ外ナラス幸ニ多數碩學ノ贊成ヲ得終ニ此至難ノ事ヲ成スノ機ニ際セリ本書ノ内容ノ完全一辭ノ贊意ニ外ナモノナカルヘキハ分擔著者ノ名聲之ヲ證ス豈ニ之レヲ廣告スルヲ須ヒンヤ著書ハ各最モ得意トスル部門ニ就キ執筆ヲ分擔セラレ且叙述ノ體裁ニ關シテ十分ノ協議ヲ遂ケラレタルヲ以テ庶幾クハ此ニ偏重シテ彼ニ偏輕スルノ憾無キヲ得テ眞ニ完璧ノ註釋書ヲ得ヘキナリ吾人ハ本書ノ發行カ吾人責務ノ一端ヲ竭シ得タルモノナルコトヲ以テ衷心ノ欣悅トシ併セテ現時ノ法學界ニ此光輝アル大著ヲ紹介シ得ルコトヲ以テ無上ノ光榮トスル者ナリ

發行 者 識

抄録目書圖免發 店書堂松巖 町樂猿仲市京東

總 則 編

人、法人、物

法律行為以下

第一條乃至第八十九條 第九十條乃至第九十七條

東京帝國大學法科大學助教授

法學士 松本 蒸 治

東京帝國大學法科大學助教授

法學士 鳩山 秀 夫

物 權 編

總 則、占有權

所有權乃至地役權

第七十五條乃至第七十九條 第二百六條乃至第二百九十四條

東京高等商業學校教授

法學士 乾 政 彦

早稻田大學法科大學教授

法學士 三 瀨 信 三

神戸高等商業學校教授兼神戸地方裁判所檢察官

法學士 吾 孫 子 勝

債 權 編

債 權 總 論

債 權 總 論

契 約 總 論

契 約 各 論

事務管理以下

第三百九十九條乃至第五百二十條 第三百九十九條乃至第五百四十一條 第五百四十一條乃至第五百四十八條 第五百四十九條乃至第六百四十六條 第六百四十七條乃至第七百二十四條

京都帝國大學法科大學教授

法學博士 中島 玉 吉

京都帝國大學法科大學講師

法學士 暁 道 文 藝

慶應義塾大學法科大學教授

法學士 神戶 寅 次 郎

司法省參事官兼東京控訴院檢察官

法學士 池田 寅 二 郎

東京地方裁判所部長判事

法學士 飯 島 喬 平

親 族 編

抄録目書圖免發 店書堂松巖 町樂猿仲市京東



第十一卷

親族編全部

第七百二十五條乃至第七百六十三條

東京地方裁判所部長判事

法學士 島田 鐵吉

相續編

第十二卷

相續編全部

第九百六十四條乃至第九百七十六條

東京帝國大學法科大學教授

法學博士 川名兼四郎

法學士 三浦信三

東京控訴院判事 團野新之

物權法網要

損害賠償論

一 貳圓貳拾五錢 拾九錢

要次目

論損害賠償請求權... 因ル損害賠償... 不法行為ニ因ル損害賠償... 債務不履行ニ...

法學士 牧野菊之助

法學士 牧野菊之助

親族法論

相續法論

一 貳圓 拾五錢

一 貳圓 拾五錢

著者ハ最高法院ニ列官トシテ命令アルノ人、殊ニ其親族法相續法ニ於ケル造詣ニ至リテハ現今ノ學界第一ニ指テ之レニ屬セラルヲ得ス...

氏奥田氏ノ逐條的註釋書アルノミ、組織的註釋法ニヨリ全編ニヲ統一的概念ヲ與フルモノニ至リテハ實ニ本書ヲ以テ嚆矢トス...

戶籍法釋義

一 上製壹圓四拾錢 拾四錢

不動產登記法正義

一 上製壹圓拾錢 拾貳錢

辯護士 宇都宮政市

法學博士 粟津清亮

法學博士 粟津清亮

法學士 豐田多賀雄

有價證券論

一 壹圓八拾錢 拾五錢

商取引ノ發達ト共ニ有價證券ノ組織的研究ハ刻下ノ急務ト爲レリ著者此ニ見ル所アリ乃チ此一本ヲ公ニス...

法學士 板倉 松太郎

版新

刑事訴訟法玄義

三前編壹圓四拾錢 拾貳錢

著者ハ訴訟法學ノ泰斗トシテ崇仰セラルルノ人ナリ著者ノ所學ニ於テ推展研鑽十年一日ノ如ク其大審院ニ檢事トシテ公務ニ熱心スルノ間ヲ以テ本書ヲ公ニスモ是將タ熱誠ノ餘ニ非ストセシムルモノモ本書ハ理論精緻、内容豊富、稀ニ見ルノ大著ニシテ加フルニ文章雄健、趣味無限ナリ  
殊ニ本書前編ハ刑事訴訟ノ原理ヲ論スルコト詳細ナリ種々東西古今ノ裁判制ヲ述ヘテ陪審制度ノ利害ニ及ヒ學說ノ推移、立法ノ發達等ヲ細説シテ著者ノ卓抜ノ識見、到ル處ニ其光茫ヲ放ツ、朝野篤學ノ士ノ一讀ヲ切望ス

法學士 清水 孝藏

版新

刑事訴訟法論綱

一 壹圓六拾錢 拾貳錢

本書ハ刑事訴訟法ニ造詣深キ著者カ斯學攻究者ナシテ容易ニ大綱ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ述作セラレタルモノニシテ總紙數四百餘頁、要ヲ摘ミ粹ヲ拔キ冗漫ヲ避ケテ實質ヲ主トシ文章簡勁ニシテ理論一貫、能ク著者ノ期シタル所ニ協フモノナリ實務及ヒ受験ノ指針トシテ最モ適當ナルヘキヲ信ス

判事 今村 信行

版再

民事訴訟法註解

二 上製四圓五拾錢 貳拾錢

本書ハ逐條講義ノ方法ニ依リ各條ノ下ニ於テ民法商法其他ノ諸法典ヲ參照論究シテ法意ノアル所ト實際ノ應用トヲ懇切ニ解説シ他日本法ノ改正セラルヘキ要點ヲ指示セラレタルモノナレハ現行法ノ正解トシテ又他日本法改正ノ嚆ニハ其理由書トシテ攻法家實際家共ニ缺ク可カラサル好著ナリ

法學士 岩田 一郎

版三

民事訴訟法原論

二 上卷貳圓八拾錢 八拾錢

本書ハ多年民事訴訟法運用ノ實務ニ當リ、傍ラ各私立大學ニ於テ斯法ノ講座ヲ擔任セラレタル著者カ、其豐富ナル學識ト、多年ノ經驗トニ基キ、學理上實際トヨリ斯法ヲ詳論セラレタルモノナレハ、實務家學生及諸試驗ニ應セントスル者ノ座右ニ缺クヘカラサル長著ナリ、本書ニハ民事訴訟法、人事訴訟手續法ノ條文索引ヲ卷尾ニ附シ讀者ノ便ヲ圖リタリ

辯護士 河西 善太郎

版新

民事訴訟法論綱

一 上製貳圓九拾錢 貳拾錢

確認訴訟ハ民事訴訟中ノ一大範圍ナリ然モ山來此範圍ニ向テ明快ナル說明ヲ與フル長著無ク實際家及ヒ學生ヲシテ迷惑セシムルコト多カ

確認訴訟論

一 五拾五錢 八拾錢

リシハ是レ眞ニ我民事訴訟法學界ノ一大缺陷タリシカ免カレズ著者ハ研學ニ忠實ニシテ實務ニ熱心ナルノ人ナリ其多年獲ル所ノモノヲ將テ按ニ本書ヲ公ニス確認訴訟ヲ總論講義シテ餘ス所無ク文章平明ニシテ論理穩健幾クハ民事訴訟界積年ノ疑義ヲ氷釋スルコトヲ得ン切ニ朝野法曹及ヒ學生諸子ノ一讀ヲ促ササルヲ得ス

強制執行論

一 壹圓貳拾錢 拾貳錢

強制執行ハ民事訴訟ノ生命ニシテ私權保護ノ最終手段ナリ、而モ其法理ト實際トニ至リテハ紛雜錯綜シ難キモノ多クシテ且ツ之ニ恰好ノ長著少キ所ナリ著者ハ多年東京區裁判所ノ執行部ニ在リテ夙ニ世間實際家ノ多クカ執行手續ニ暗キヲ概シ完璧ナル強制執行論ヲ著ハサントスルノ意アリ茲ニ其第一卷トシテ不動產競賣篇ヲ上梓セラレ既ニ第參版ニ及ヒタリ以テ其内容如何ヲ想像スルニ餘リアルヘシ

長谷川 平次郎 版新  
本書ハ單ニ公證人法ノ講義ニ止マラスシテ汎ク公證制度ニ關スル總テノ法令ニ涉リ解説詳密ヲ極ム常ニ生スヘキ法律問題ハ本書ニヨリテ始メテ理解スルコトヲ得ヘシ殊ニ本書ニ附録セル證書文例ハ一切之ヲ網羅シタルヲ以テ公證人辯護士各位其他荷モ法律事務ニ從事セララル各位ニハ無二ノ好參考書タルヘク銀行會社其他各種ノ取引ニ從事シ又ハ財産ノ安固ヲ圖ラントスル各位ニハ唯一ノ顧問者タルヘシ

公證人法論

一 貳圓五拾錢 拾五錢

明治大學編輯部 版新  
土地收用法要義 一 壹圓 四八錢

法學博士 遠藤 源六 版再  
國際法規提 一 參拾五錢 四錢

法學博士 遠藤 源六 版新  
國際法論 一 參圓 貳拾參錢

農商務省參事官 宿利 英治 工業所有權論 一



第一卷	大審院	東京控訴院	大阪控訴院	名古屋控訴院	廣島控訴院	長崎控訴院	富城控訴院	東京地方裁判所	行政裁判所	合計
第一卷	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
第二卷	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第三卷	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
第四卷	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

坂井正知 大審院判例 八拾錢  
 法律新聞社 版四 版新  
 法律新聞社 版新  
 判決要録 第一卷 一 壹圓五拾錢 拾貳錢  
 去ル四十二年ニ發行セル「判決要録」ハ法曹諸彦并ニ實業家諸氏ヨリ噴々タル好評ヲ以テ迎ヘラレバニ版ヲ重スルコト四回、爾來刑法ノ改正アリ刑事訴訟法ノ修正アリ建物保護法ノ實施アリ、日一日出ツル新判例ハ兩ノ如ク降り來リ爲メニ讀者諸彦ヨリ「追加判例」ノ發行ヲ促サルルコト頻々タルヲ以テ茲ニ四十二年二月ヨリ四十二年三月迄ノ判例ヲ收録シタル本書ヲ發行スルモノトス

本書 大審院ノ判決ハ獨リ同院民刑兩部ニ於テ判例トシテ示サレタルモノニ止マラス同院檢察部並ニ本社ノ認メテ以テ參考ト爲スニ足レリト思惟セシモノハ悉ク之ヲ收録シタルニ是レ實ニ本書ノ特色ナリトス

新刑法判例 現行刑法ハ四十二年十月ヨリ實施シレ新判例ノ出ツルコト頻々タルヲ以テ是レ何人モ本書ヲ看過スヘカラス

刑事訴訟法ノ修正 現行刑法ノ實施ト共ニ刑事訴訟法修正ナル從テ該修正ニ關スル新判例亦類リニ出テタリ是レ本書ヲ諸彦ニ薦ムル判例以テ一ナリ

實業家ノ顧問 尙又本書ニハ民法、商法、民事訴訟法、非訟事件手續法等凡百ノ法令ニ關スル判例ヲ悉ク摘要シタルカ故ニ實業界多年ノ宿題トナリタル案件モ本書ヲ編カハ即時水解決スヘシ故ニ實業家ハ必ス一本ヲ其座右ニ置カサル可カラズ

法學博士 梅謙次郎 版新 最近判例批評 一 壹圓八拾錢 拾貳錢  
 法學博士 栗田幹太郎 版新 保險判例集 一 壹圓 八錢

巖松堂書店編輯部 版再 外交官受驗提要 一 參拾五錢 四錢

內容 外交官志望者ノ難針盤タランコトヲ期シ外交官受驗合格者カ自己ノ經驗ニ徴シテ一切ノ準備及心掛ヲ親切叮嚀ニ説述セラレタル筆記ニシテ累年ノ試驗問題及外交官ニ關係アル法令ヲモ輯録シタルハ將來外交官タラント欲スル士ハ本書ニ依リテ學校ノ選擇其他ノ注意ヲ受ケルコトヲ得ヘク又既ニ學校ヲ卒業シタル士ハ本書ニ依リテ受驗中ノ心掛及試驗程度其他ノ必要事項ヲ知ルコトヲ得ヘシ

警視廳 小田明次郎 監修 版新 警察官吏受驗提要 一 參拾五錢 四錢

內容 本書ハ巡查ノ地位及待遇、選考採用方法、巡查志願手續、巡查部長採用方法、警部並ニ消防士ノ地位及待遇、警視廳者ノ爲メニ種々切實ニ詳述シテ其應得ノ準備及心得ヲ說明セラルモノ也

組織 本書ハ其ノ第一編ニ於テ警察官ノ地位、待遇、採用ノ方法並ニ應得ノ準備、心得ヲ詳述シ第二編ニ於テ警察官吏ニ關スル總テノ法規ヲ組織シテ然レモ各細則ヲ詳述セルヲ以テ應得者ノ爲メニハ實ニ唯一ノ好指針タルヲ疑ハサル也

法學士 原田重光 版再 普通文官 登用試驗準備書 一 六拾錢 八錢

巖松堂書店編輯部 版再 學部外官高等文官 的列判例檢事編撰士 試驗問題集 一 五拾五錢 八錢

內容 本書ハ明治三十年ヨリ最近ニ至ル十三年間ノ外交官、高等文官、判事檢事、辯護士、東京帝國大學、京都帝國大學、日本大學、法政大學、中央大學、早稻田大學、明治大學等ノ試驗問題ヲ悉ク網羅シテ之ヲ各科目ニ分類シ更ニ之レヲ編纂簡潔ニ細則シテ學理的教科書ノ二編纂セシモノナレハ秩序整然トシテ法律學及ヒ經濟學全般ノ骨髓ヲナシ恰モ難針盤タルノ感アリ學生受驗者ハ勿論法曹家警察官財務官教育家等ノ座右ニ缺クヘカラス好參考書ナリ

本書ノ特色トシテハ高等文官、外交官、判檢事、辯護士、試驗問題ニ付テハ明治三十年以前ノ分チモ掲載シ又討論問題中主要ナルモノハ特ニ之ヲ掲載セリ加フルニ最モ便利ナル索引ヲ添付シ又各問題下ニ一々括弧ヲ附ケ出題者年度試驗ノ種別及ヒ學校ノ名稱ヲ示シ且少豫備試驗問題ヲ添ヘタルハ其利益多大ナリ故ニ又普通文官裁判所書記試驗ノ參考書トシテ各官廳各裁判所ノ備品タルニ適ス

巖松堂書店編輯部 版新 四十二年度試驗問題集 一 貳拾五錢 四錢

內容 本書ハ最近ノ試驗問題ヲ知ラント欲スル人ノ爲メニ明治四十二年ニ於ケル各種試驗問題ノ一ヲ黃録シテ別冊ト爲シタルモノニシテ外交官領事官、文官高等、判事檢事辯護士、東西法科大學、日本、法政、中央、早稻田、明治、關西ノ各私立大學ノ試驗問題ハ網羅シテ此中ニ在リ

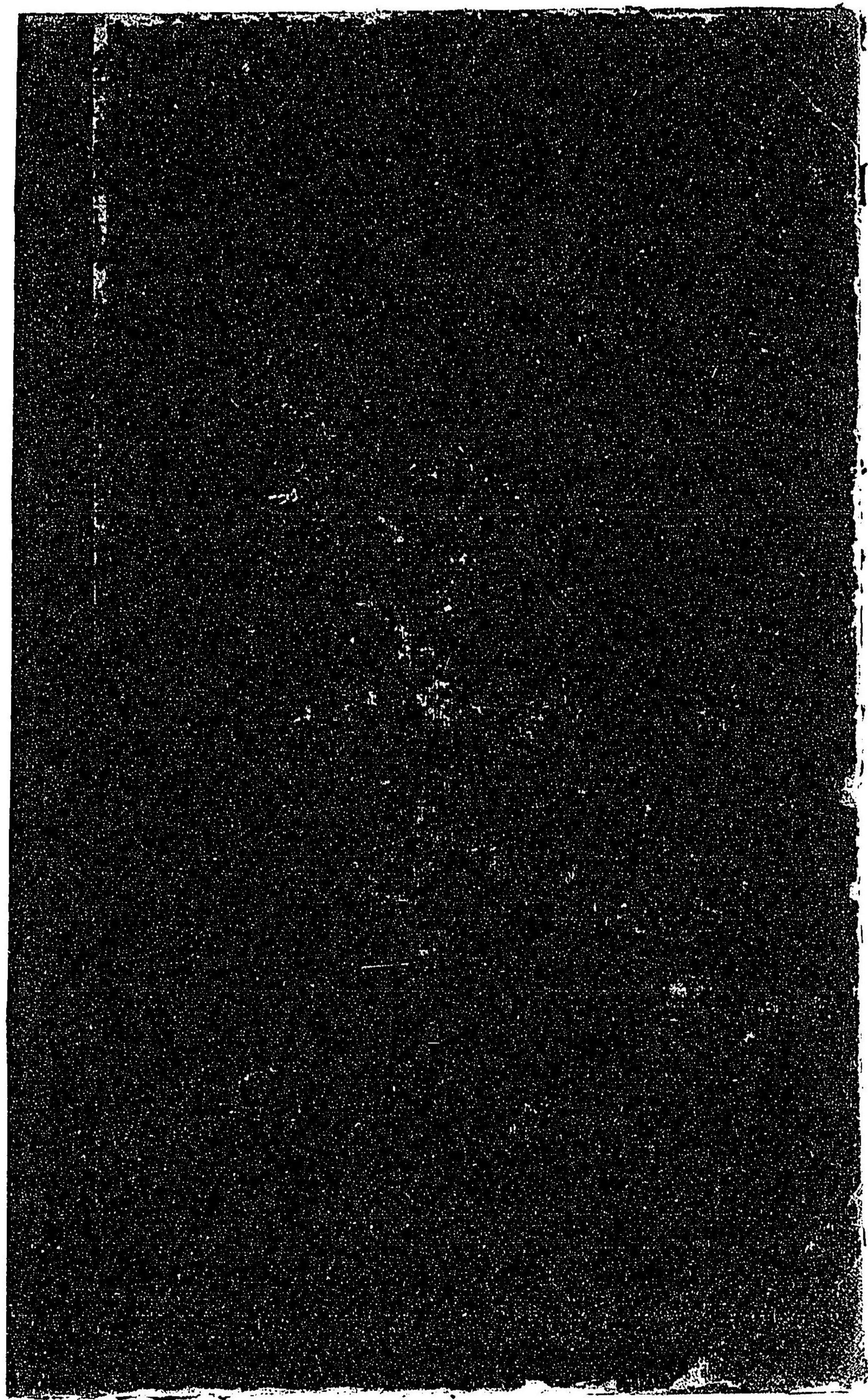
明治大學編輯部 版新 四十年年度 試驗答案集 一 四拾錢 六錢





77  
77

111 6





91  
253

035393-000-1

91-253

日本保険法論

栗津 清亮/著

M43

BBO-0578



